

## II 調査結果



## 1 政策の満足度、県政への要望調査

県の政策や県政運営に係る項目について、県民の満足度と要望を探った。

調査項目は、県の総合計画である「元気とやま創造計画ーとやま新時代へ 新たな挑戦ー」の政策を中心に、計 74 項目を設定した。また、その 74 項目を「活力」、「未来」、「安心」、「人づくり」、「県政運営」の 5 区分に大別し、さらに分析にあたっては、「産業」、「交流・物流」、「まちづくり・観光」、「子育て・教育」、「県民活動」、「地域づくり」、「健康・福祉」、「環境」、「安全・安心」、「人づくり」、「県政」の 11 領域に編成した。

なお、分析では満足度の評価は「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた数値を、不満度の評価は「不満である」と「どちらかといえば不満である」を合わせた数値をそれぞれの尺度（指標）としている。

(1) 政策の満足度[概要]

問1 あなたは県の政策に対してどの程度満足していますか。以下の項目それぞれについて、右の欄の1～5の中からあなたの満足度合いに最も近いものを1つ選んでください。

ア 満足度の高い政策

- 満足度の上位をみると、「14 北陸新幹線の整備促進」が45.8%と最も高く、次いで「50 食の安全確保と地産地消・食育の推進」29.7%、「54 水資源の保全と活用」27.6%の順となっている。
- 前回調査と比べ、上位3項目は同じであるが、「33 スポーツの振興」が9位から5位、「59 雪に強いまちづくり」が18位から9位、「23 富山のブランド力アップ」が15位から10位と順位を上げている。

図表1 政策の満足度（上位10項目）

単位：%

順位	区分	領域	項目	満足度 (%)	前回調査 (H30)
1	活力	交流・物流	14 北陸新幹線の整備促進	45.8	46.0 (1位)
2	安心	健康・福祉	50 食の安全確保と地産地消・食育の推進	29.7	28.1 (3位)
3	安心	環境	54 水資源の保全と活用	27.6	30.2 (2位)
4	活力	交流・物流	15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	25.3	24.5 (5位)
5	未来	県民活動	33 スポーツの振興	24.7	23.9 (9位)
6	未来	子育て・教育	25 子育て支援	23.6	24.6 (4位)
7	活力	交流・物流	16 利便性の高い道路ネットワークの整備	23.6	24.4 (6位)
8	未来	県民活動	32 芸術文化の振興	22.7	24.2 (7位)
9	安心	安全・安心	59 雪に強いまちづくり	22.6	19.6 (18位)
10	活力	まちづくり・観光	23 富山のブランド力アップ	22.5	20.6 (15位)
	安心	健康・福祉	46 医療提供体制の充実	22.5	24.0 (8位)

<時系列比較>

図表2 政策の満足度（上位5項目の時系列比較）

単位：%

順位	H27	H28	H29	H30	R1
1	北陸新幹線の整備促進 50.4	北陸新幹線の整備促進 52.0	北陸新幹線の整備促進 52.8	北陸新幹線の整備促進 46.0	北陸新幹線の整備促進 45.8
2	水資源の保全と活用 35.2	水資源の保全と活用 35.2	水資源の保全と活用 32.3	水資源の保全と活用 30.2	食の安全確保と地産地消・ 食育の推進 29.7
3	食の安全確保と地産地消・ 食育の推進 29.0	新幹線駅を核とした交流 拠点づくり 28.6	芸術文化の振興 30.6	食の安全確保と地産地消・ 食育の推進 28.1	水資源の保全と活用 27.6
4	雪に強いまちづくり 29.0	食の安全確保と地産地消・ 食育の推進 28.2	雪に強いまちづくり 27.9	子育て支援 24.6	新幹線駅を核とした交流 拠点づくり 25.3
5	新幹線駅を核とした交流 拠点づくり 28.2	雪に強いまちづくり 27.8	食の安全確保と地産地消・ 食育の推進 26.7	新幹線駅を核とした交流 拠点づくり 24.5	スポーツの振興 24.7

## イ 不満度の高い政策

- 不満度の上位をみると、「21 中心市街地の賑わいの創出」が 48.1%と最も高く、次いで「20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進」38.0%、「8 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり」37.8%の順となっている。
- 前回調査と比べ、「59 雪に強いまちづくり」が 2位から 6位に順位を下げている。

図表 3 政策の不満度（上位 10 項目）

単位：％

順位	区分	領域	項目	不満度 (%)	前回調査 (H30)
1	活力	まちづくり・観光	21 中心市街地の賑わいの創出	48.1	44.4 (1位)
2	活力	まちづくり・観光	20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	38.0	36.3 (3位)
3	活力	産業	8 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	37.8	35.0 (4位)
4	活力	まちづくり・観光	19 選ばれ続ける観光地づくり	34.5	33.8 (5位)
5	活力	産業	10 雇用の確保と人材の育成	32.2	30.8 (6位)
6	安心	安全・安心	59 雪に強いまちづくり	32.0	41.4 (2位)
7	活力	交流・物流	15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	30.5	29.8 (7位)
8	安心	安全・安心	61 生活交通の確保	28.9	29.3 (9位)
9	未来	地域づくり	43 農山漁村の活性化	28.6	28.9 (12位)
10	県政運営	県政	69 オープンで分かりやすい県政	28.4	28.9 (12位)

## <時系列比較>

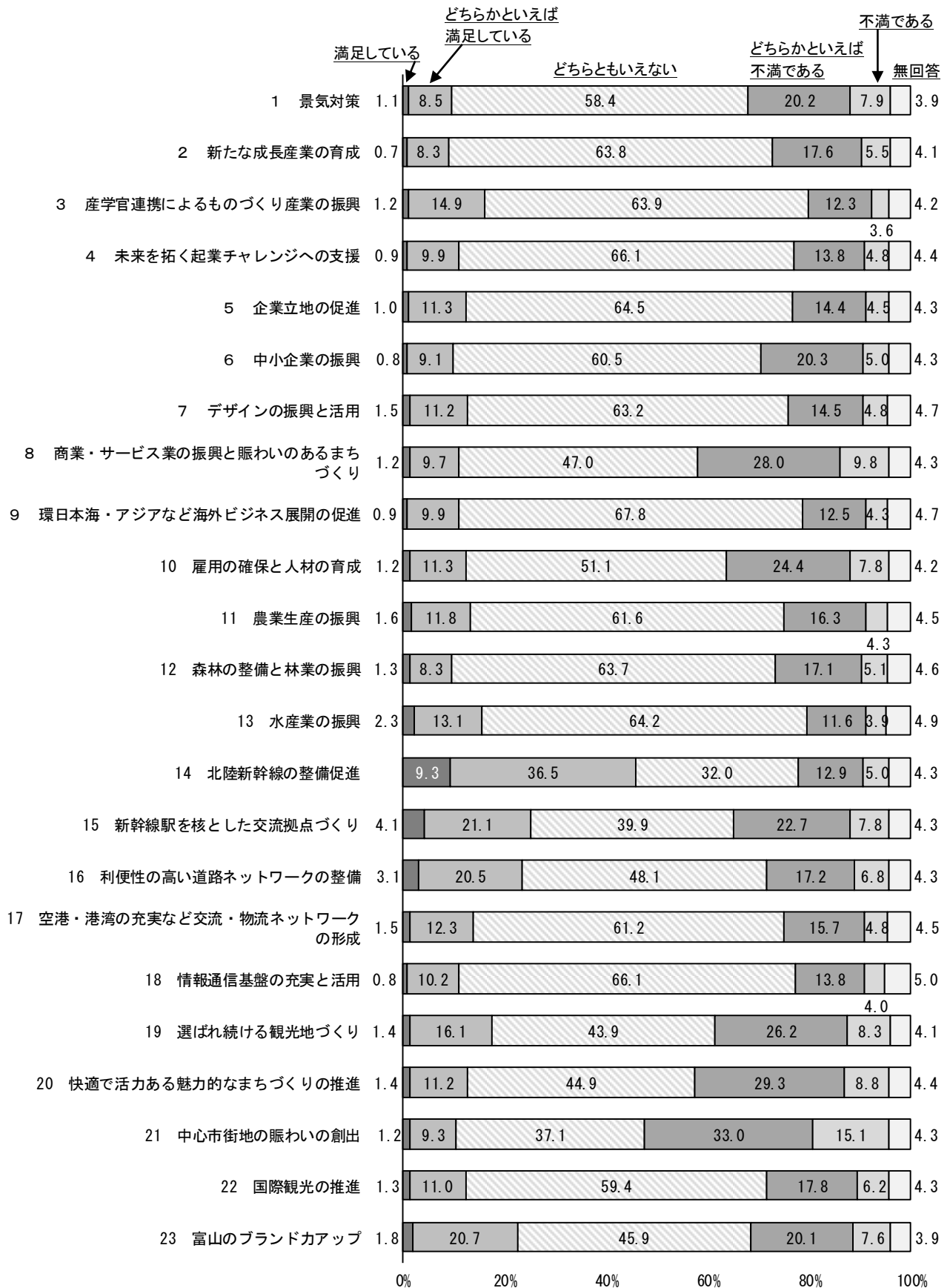
図表 4 政策の不満度（上位 5 項目の時系列比較）

単位：％

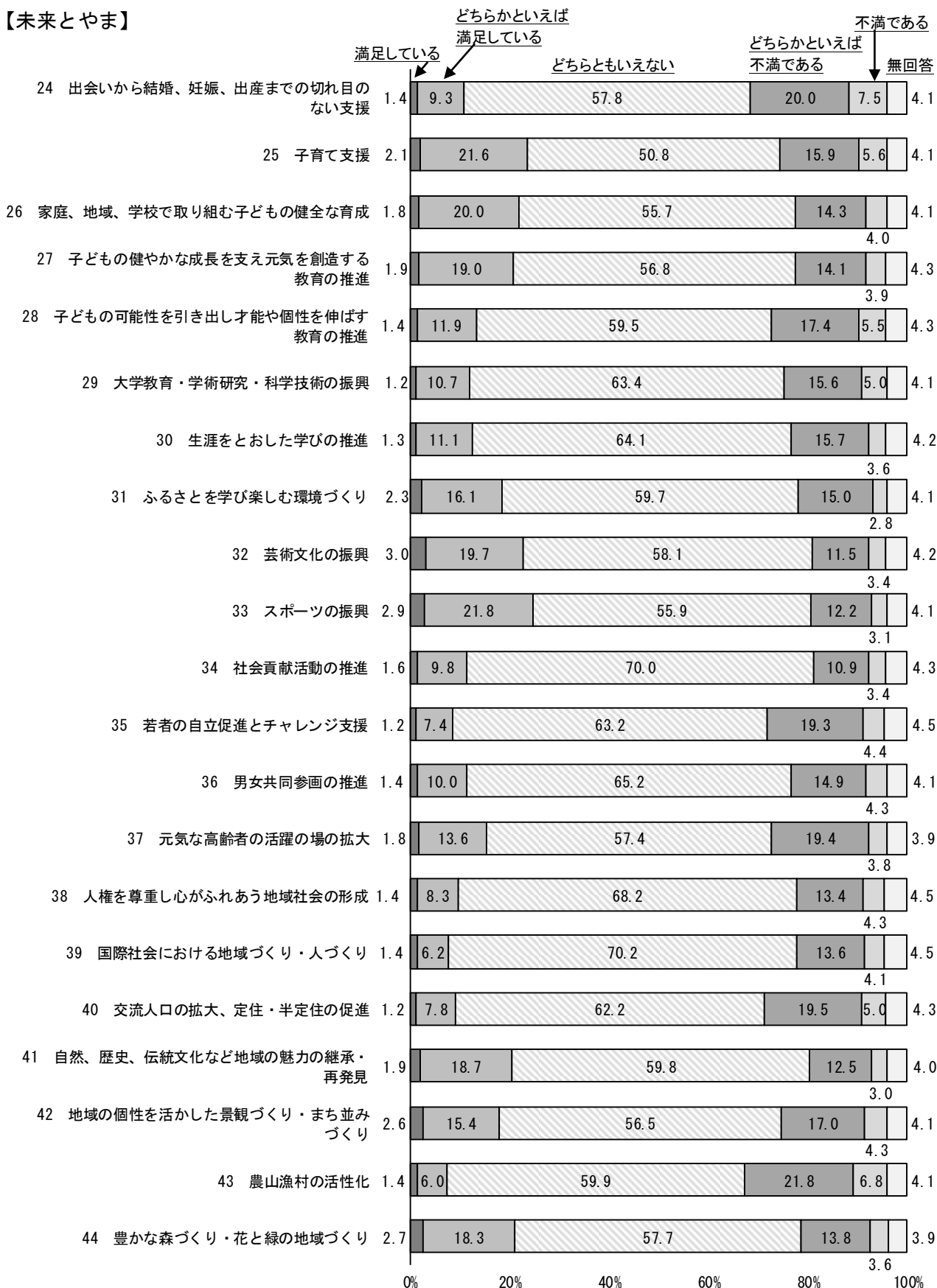
順位	H 27	H 28	H 29	H 30	R 1
1	中心市街地の賑わいの創出 45.6	中心市街地の賑わいの創出 46.9	中心市街地の賑わいの創出 44.6	中心市街地の賑わいの創出 44.4	中心市街地の賑わいの創出 48.1
2	商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり 36.2	オープンで分かりやすい県政 36.8	選ばれ続ける観光地づくり 36.5	雪に強いまちづくり 41.4	快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進 38.0
3	選ばれ続ける観光地づくり 35.1	選ばれ続ける観光地づくり 35.2	商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり 35.6	快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進 36.3	商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり 37.8
4	快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進 34.4	商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり 34.1	快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進 34.4	商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり 35.0	選ばれ続ける観光地づくり 34.5
5	雇用の確保と人材の育成 33.3	快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進 33.8	富山のブランドカアップ 32.9	選ばれ続ける観光地づくり 33.8	雇用の確保と人材の育成 32.2

図表5 政策の満足度（分野別）

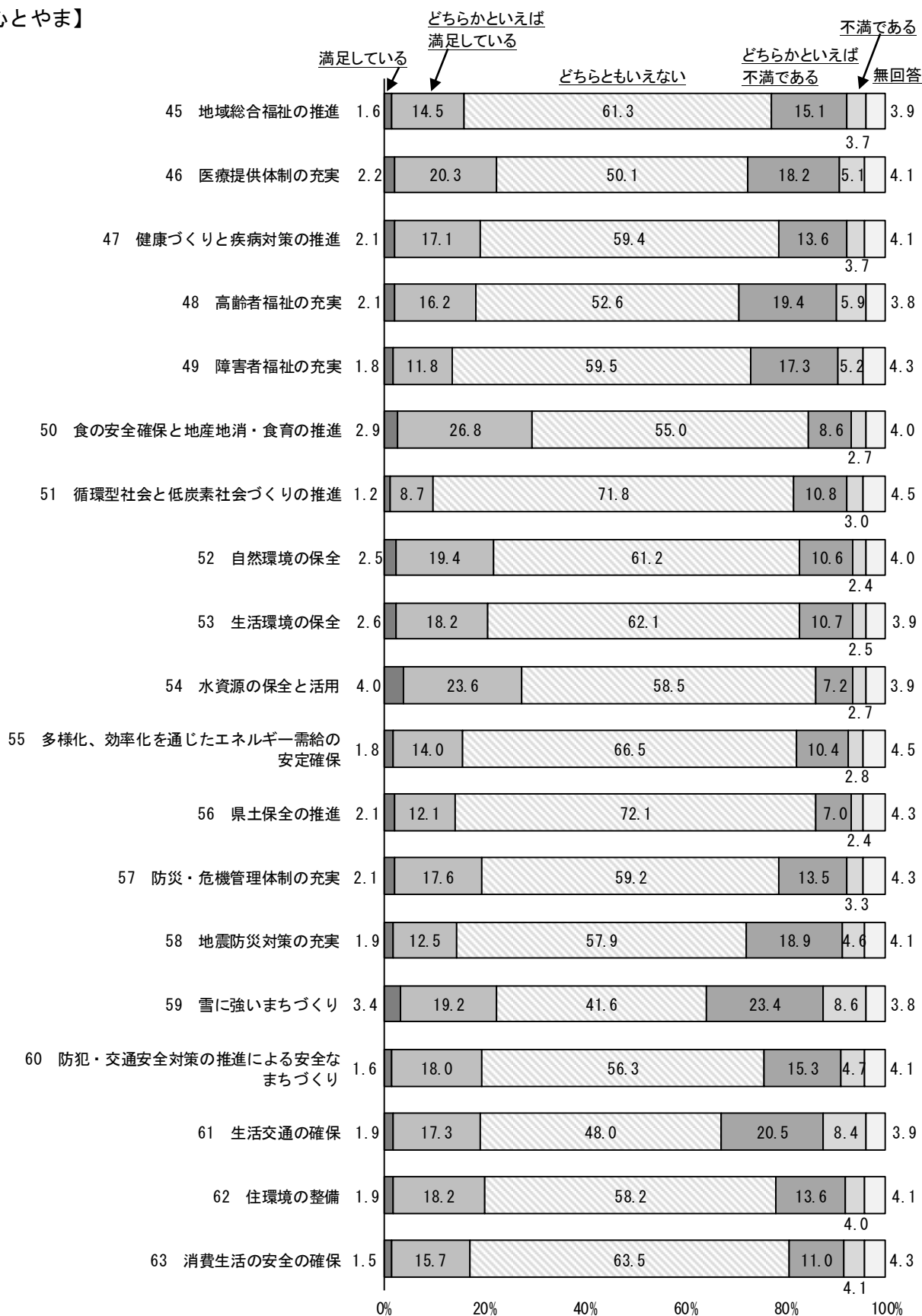
【活力とやま】



【未来とやま】

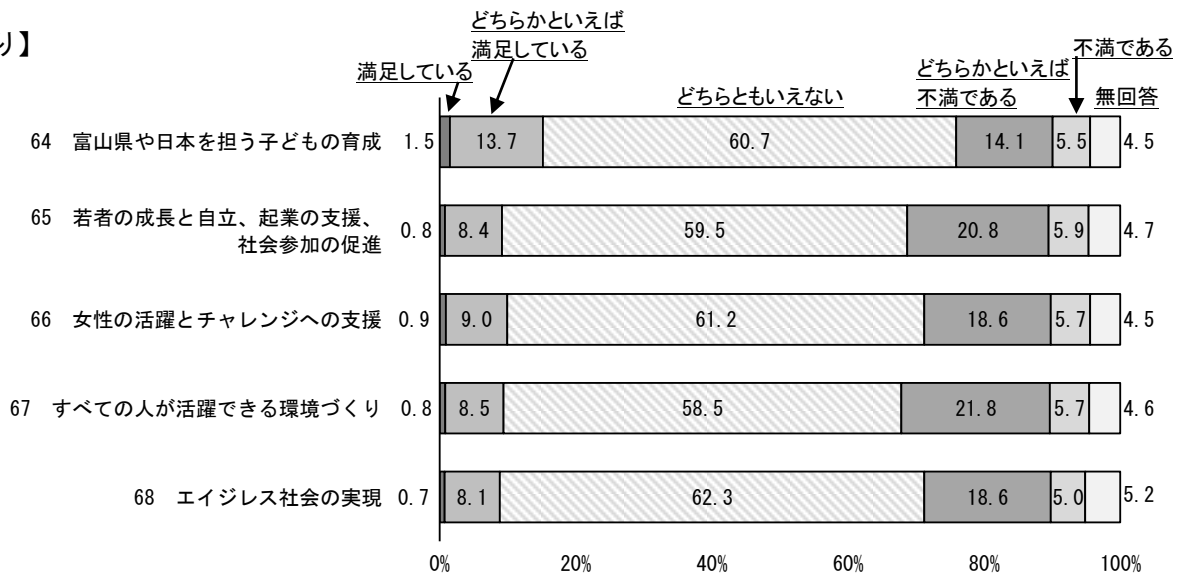


【安心とやま】

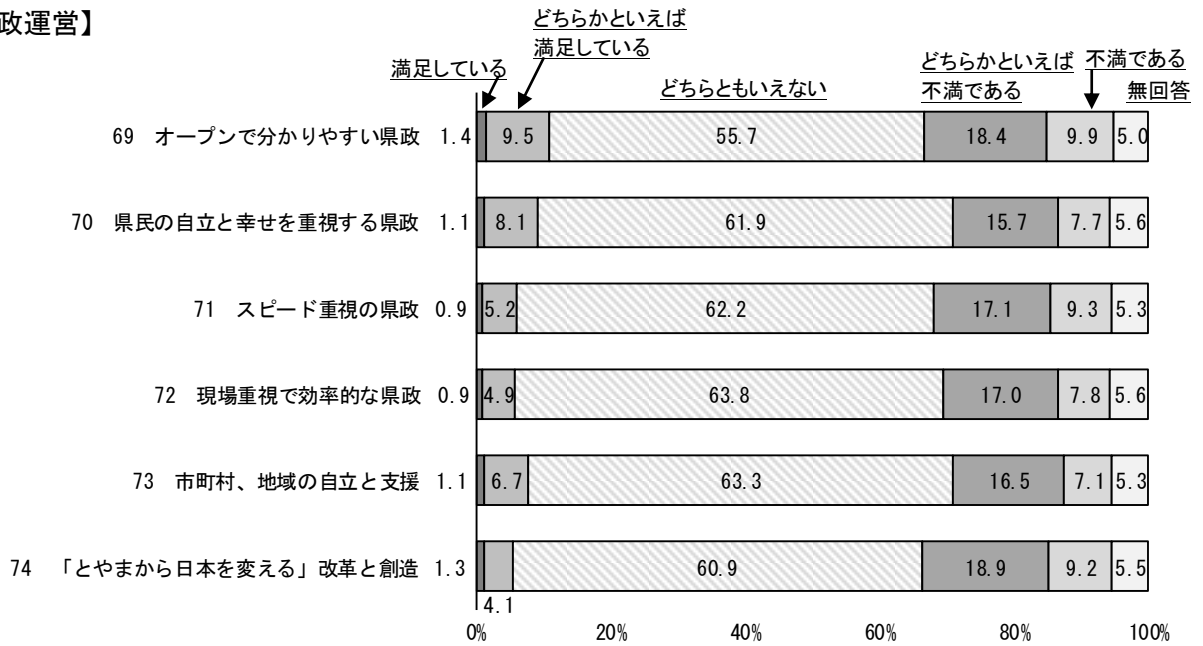




【人づくり】



【県政運営】



## (2) 属性別にみる政策の満足度

### ア 政策の満足度

#### (ア)性別

- 全体の上位 10 項目において、男性は「14 北陸新幹線の整備促進」、「54 水資源の保全と活用」、「15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり」、「16 利便性の高い道路ネットワークの整備」が女性と比べて高く、女性は「25 子育て支援」が男性と比べて高くなっている。
- 男性、女性ともに 1 位は「14 北陸新幹線の整備促進」となっている。  
 県平均（全体）の上位 10 項目にない項目として、男性は「52 自然環境の保全」、「57 防災・危機管理体制の充実」が、女性は「26 家庭、地域、学校で取り組む子どもの健全な育成」、「44 豊かな森づくり・花と緑の地域づくり」、「27 子どもの健やかな成長を支え元気を創造する教育の推進」が上位に入っている。

図表 6 満足度（上位 10 項目）の男女比較

単位：%

順位	区分	領域	項目	全体	男性	女性	男女差 (女性－男性)
1	活力	交流・物流	14 北陸新幹線の整備促進	45.8	49.2	43.8	▲ 5.4
2	安心	健康・福祉	50 食の安全確保と地産地消・食育の推進	29.7	28.0	31.9	3.9
3	安心	環境	54 水資源の保全と活用	27.6	30.8	25.2	▲ 5.6
4	活力	交流・物流	15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	25.3	28.0	23.2	▲ 4.8
5	未来	県民活動	33 スポーツの振興	24.7	24.9	25.3	0.4
6	未来	子育て・教育	25 子育て支援	23.6	21.1	26.6	5.5
7	活力	交流・物流	16 利便性の高い道路ネットワークの整備	23.6	26.6	21.4	▲ 5.2
8	未来	県民活動	32 芸術文化の振興	22.7	21.4	24.6	3.2
9	安心	安全・安心	59 雪に強いまちづくり	22.6	22.8	23.0	0.2
10	活力	まちづくり・観光	23 富山のブランドカアップ	22.5	21.1	24.5	3.4
	安心	健康・福祉	46 医療提供体制の充実	22.5	25.3	20.4	▲ 4.9

※県平均（全体）よりも高い数値は網掛け。

図表 7 男女別の政策満足度（上位 10 項目）

順位	男性		順位	女性	
	項目	%		項目	%
1	14 北陸新幹線の整備促進	49.2	1	14 北陸新幹線の整備促進	43.8
2	54 水資源の保全と活用	30.8	2	50 食の安全確保と地産地消・食育の推進	31.9
3	15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	28.0	3	25 子育て支援	26.6
	50 食の安全確保と地産地消・食育の推進	28.0	4	33 スポーツの振興	25.3
5	16 利便性の高い道路ネットワークの整備	26.6	5	54 水資源の保全と活用	25.2
6	46 医療提供体制の充実	25.3	6	32 芸術文化の振興	24.6
7	33 スポーツの振興	24.9	7	23 富山のブランドカアップ	24.5
8	52 自然環境の保全	23.8	8	26 家庭、地域、学校で取り組む子どもの健全な育成	23.8
9	59 雪に強いまちづくり	22.8	9	44 豊かな森づくり・花と緑の地域づくり	23.6
10	57 防災・危機管理体制の充実	22.3	10	27 子どもの健やかな成長を支え元気を創造する教育の推進	23.4

※県平均（全体）の上位 10 項目にない項目は網掛け。

(イ) 年齢別

- 「20歳以上」の年代では「14 北陸新幹線の整備促進」が最も高く、「18、19歳」は「50 食の安全確保と地産地消・食育の推進」が最も高くなっている。
- 「18、19歳」の上位10項目の中には県平均（全体）の上位10項目にない項目が6項目入っており、「27 子供の健やかな成長を支え元気を創造する教育の推進」（4位）の満足度が高くなっている。
- 「20～29歳」の上位10項目の中には、県平均（全体）の上位10項目にない項目が3項目入っており、「44 豊かな森づくり・花と緑の地域づくり」（3位）の満足度が高くなっている。
- 「30～39歳」は県平均（全体）の上位10項目にない項目が4項目入っており、「26 家庭、地域、学校で取り組む子どもの健全な育成」（6位）の満足度が高くなっている。
- 「40～49歳」は県平均（全体）の上位10項目にない「52 自然環境の保全」（9位）、「26 家庭、地域、学校で取り組む子どもの健全な育成」（10位）が上位に入っている。
- 「50～59歳」は県平均（全体）の上位10項目と同じ項目が上位となっており、「14 北陸新幹線の整備促進」の満足度が40%を超え、他の項目より高くなっている。
- 「60～69歳」では県平均（全体）の上位10項目にない「41 自然、歴史、伝統文化など地域の魅力の継承・再発見」が9位に入っている。
- 「70歳以上」では県平均（全体）の上位10項目にない「57 防災・危機管理体制の充実」（6位）、「26 家庭、地域、学校で取り組む子どもの健全な育成」（8位）が上位に入っている。

図表8 満足度（上位10項目）の年齢比較

単位：%

順位	区分	領域	項目	全体	18、19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	活力	交流・物流	14 北陸新幹線の整備促進	45.8	50.8	49.7	49.7	51.7	43.3	41.9	43.5
2	安心	健康・福祉	50 食の安全確保と地産地消・食育の推進	29.7	54.1	33.8	31.6	30.4	22.0	28.7	30.5
3	安心	環境	54 水資源の保全と活用	27.6	44.3	25.2	24.9	29.7	22.7	28.4	31.4
4	活力	交流・物流	15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	25.3	39.3	26.5	27.5	26.9	23.0	22.6	24.7
5	未来	県民活動	33 スポーツの振興	24.7	50.8	24.5	17.6	26.9	20.9	23.2	30.0
6	未来	子育て・教育	25 子育て支援	23.6	31.1	18.5	24.4	27.3	18.8	22.6	29.1
7	活力	交流・物流	16 利便性の高い道路ネットワークの整備	23.6	41.0	20.5	21.8	25.5	23.4	24.5	21.1
8	未来	県民活動	32 芸術文化の振興	22.7	42.6	24.5	18.1	22.0	20.2	22.0	26.9
9	安心	安全・安心	59 雪に強いまちづくり	22.6	42.6	25.2	22.3	19.6	19.1	21.1	28.3
10	活力	まちづくり・観光	23 富山のブランドカアップ	22.5	32.8	19.2	18.7	23.4	20.9	22.9	27.4
	安心	健康・福祉	46 医療提供体制の充実	22.5	47.5	18.5	20.7	21.3	18.1	20.8	30.9

※県平均（全体）よりも高い数値は網掛け。

図表9 年齢別の政策満足度（上位10項目）

18、19歳			20～29歳			30～39歳		
順位	項目	%	順位	項目	%	順位	項目	%
1	50 食の安全確保と地産地消・食育の推進	54.1	1	14 北陸新幹線の整備促進	49.7	1	14 北陸新幹線の整備促進	49.7
2	14 北陸新幹線の整備促進	50.8	2	50 食の安全確保と地産地消・食育の推進	33.8	2	50 食の安全確保と地産地消・食育の推進	31.6
	33 スポーツの振興	50.8	3	44 豊かな森づくり・花と緑の地域づくり	27.2	3	15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	27.5
4	27 子どもの健やかな成長を支え元気を創造する教育の推進	49.2	4	15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	26.5	4	54 水資源の保全と活用	24.9
5	46 医療提供体制の充実	47.5	5	54 水資源の保全と活用	25.2	5	25 子育て支援	24.4
6	41 自然、歴史、伝統文化など地域の魅力の継承・再発見	45.9		59 雪に強いまちづくり	25.2	6	26 家庭、地域、学校で取り組む子どもの健全な育成	23.8
7	44 豊かな森づくり・花と緑の地域づくり	45.9	7	32 芸術文化の振興	24.5	7	62 住環境の整備	22.3
8	26 家庭、地域、学校で取り組む子どもの健全な育成	44.3		33 スポーツの振興	24.5		59 雪に強いまちづくり	22.3
	47 健康づくりと疾病対策の推進	44.3		52 自然環境の保全	24.5	9	16 利便性の高い道路ネットワークの整備	21.8
	48 高齢者福祉の充実	44.3	10	62 住環境の整備	23.8	10	27 子どもの健やかな成長を支え元気を創造する教育の推進	21.2
	54 水資源の保全と活用	44.3			31 ふるさとを学び楽しむ環境づくり		21.2	

40～49歳			50～59歳			60～69歳		
順位	項目	%	順位	項目	%	順位	項目	%
1	14 北陸新幹線の整備促進	51.7	1	14 北陸新幹線の整備促進	43.3	1	14 北陸新幹線の整備促進	41.9
2	50 食の安全確保と地産地消・食育の推進	30.4	2	16 利便性の高い道路ネットワークの整備	23.4	2	50 食の安全確保と地産地消・食育の推進	28.7
3	54 水資源の保全と活用	29.7	3	15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	23.0	3	54 水資源の保全と活用	28.4
4	25 子育て支援	27.3	4	54 水資源の保全と活用	22.7	4	16 利便性の高い道路ネットワークの整備	24.5
5	15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	26.9	5	50 食の安全確保と地産地消・食育の推進	22.0	5	33 スポーツの振興	23.2
	33 スポーツの振興	26.9	6	23 富山のブランドカアアップ	20.9	6	23 富山のブランドカアアップ	22.9
7	16 利便性の高い道路ネットワークの整備	25.5		33 スポーツの振興	20.9	7	15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	22.6
8	23 富山のブランドカアアップ	23.4	8	32 芸術文化の振興	20.2	8	25 子育て支援	22.6
9	52 自然環境の保全	23.1	9	59 雪に強いまちづくり	19.1	9	41 自然、歴史、伝統文化など地域の魅力の継承・再発見	22.3
10	26 家庭、地域、学校で取り組む子どもの健全な育成	22.4	10	25 子育て支援	18.8	10	32 芸術文化の振興	22.0

70歳以上		
順位	項目	%
1	14 北陸新幹線の整備促進	43.5
2	54 水資源の保全と活用	31.4
3	46 医療提供体制の充実	30.9
4	50 食の安全確保と地産地消・食育の推進	30.5
5	33 スポーツの振興	30.0
6	25 子育て支援	29.1
	57 防災・危機管理体制の充実	29.1
8	26 家庭、地域、学校で取り組む子どもの健全な育成	28.3
	59 雪に強いまちづくり	28.3
10	23 富山のブランドカアアップ	27.4

※県平均（全体）の上位10項目にない項目は網掛け。

(ウ) 地域別

- すべての地域で「14 北陸新幹線の整備促進」の満足度が最も高くなっている。
- 富山地域は「15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり」の満足度が他の地域と比べて高くなっている。
- 高岡地域は「14 北陸新幹線の整備促進」の満足度が34.0%と他の地域と比べて低くなっている。また、県平均（全体）の上位10項目にない「44 豊かな森づくり・花と緑の地域づくり」が7位に入っている。
- 魚津地域は県平均（全体）の上位10項目にない「53 生活環境の保全」が9位に入っている。
- 砺波地域は県平均（全体）の上位10項目にない「41 自然、歴史、伝統文化など地域の魅力の継承・再発見」が5位に入っている。

図表 10 満足度（上位 10 項目）の地域比較

単位：%

順位	区分	領域	項目	全体	富山地域	高岡地域	魚津地域	砺波地域
1	活力	交流・物流	14 北陸新幹線の整備促進	45.8	53.8	34.0	49.3	43.2
2	安心	健康・福祉	50 食の安全確保と地産地消・食育の推進	29.7	30.7	30.7	28.6	25.9
3	安心	環境	54 水資源の保全と活用	27.6	27.4	26.8	29.7	27.0
4	活力	交流・物流	15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	25.3	31.6	19.0	22.8	23.8
5	未来	県民活動	33 スポーツの振興	24.7	27.7	21.2	25.9	21.6
6	未来	子育て・教育	25 子育て支援	23.6	24.9	21.2	25.5	22.7
7	活力	交流・物流	16 利便性の高い道路ネットワークの整備	23.6	23.1	23.4	24.5	24.3
8	未来	県民活動	32 芸術文化の振興	22.7	23.9	21.6	21.4	23.8
9	安心	安全・安心	59 雪に強いまちづくり	22.6	25.6	18.0	22.8	24.3
10	活力	まちづくり・観光	23 富山のブランドカアップ	22.5	22.5	22.1	21.7	24.9
	安心	健康・福祉	46 医療提供体制の充実	22.5	24.8	21.0	21.7	20.0

※県平均（全体）よりも高い数値は網掛け。

図表 11 地域別の政策の満足度（上位 10 項目）

順位	富山地域		順位	高岡地域		順位	魚津地域		順位	砺波地域	
	項目	%		項目	%		項目	%		項目	%
1	14 北陸新幹線の整備促進	53.8	1	14 北陸新幹線の整備促進	34.0	1	14 北陸新幹線の整備促進	49.3	1	14 北陸新幹線の整備促進	43.2
2	15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	31.6	2	50 食の安全確保と地産地消・食育の推進	30.7	2	54 水資源の保全と活用	29.7	2	54 水資源の保全と活用	27.0
3	50 食の安全確保と地産地消・食育の推進	30.7	3	54 水資源の保全と活用	26.8	3	50 食の安全確保と地産地消・食育の推進	28.6	3	52 自然環境の保全	26.5
4	33 スポーツの振興	27.7	4	16 利便性の高い道路ネットワークの整備	23.4	4	33 スポーツの振興	25.9	4	50 食の安全確保と地産地消・食育の推進	25.9
5	54 水資源の保全と活用	27.4	5	26 家庭、地域、学校で取り組む子どもの健全な育成	22.5	5	25 子育て支援	25.5	5	23 富山のブランドカアップ	24.9
6	59 雪に強いまちづくり	25.6	6	23 富山のブランドカアップ	22.1	6	16 利便性の高い道路ネットワークの整備	24.5		41 自然、歴史、伝統文化など地域の魅力の継承・再発見	24.9
7	25 子育て支援	24.9	7	32 芸術文化の振興	21.6	7	15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	22.8	7	16 利便性の高い道路ネットワークの整備	24.3
8	46 医療提供体制の充実	24.8		44 豊かな森づくり・花と緑の地域づくり	21.6		59 雪に強いまちづくり	22.8		59 雪に強いまちづくり	24.3
9	26 家庭、地域、学校で取り組む子どもの健全な育成	23.9	9	25 子育て支援	21.2	9	52 自然環境の保全	22.4	9	15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	23.8
	32 芸術文化の振興	23.9		33 スポーツの振興	21.2		53 生活環境の保全	22.4		32 芸術文化の振興	23.8

※県平均（全体）の上位10項目にない項目は網掛け。

## イ 政策の不満足

### (ア) 性別

- 男女ともに、「21 中心市街地の賑わいの創出」の不満足が最も高く、次いで「20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進」、「8 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり」の順になっている。
- 県平均（全体）の上位 10 項目にない項目として、男性は「74 『とやまから日本を変える』改革と創造」、「71 スピード重視の県政」が、女性は「1 景気対策」、「67 すべての人が活躍できる環境づくり」が上位に入っている。

図表 12 不満足（上位 10 項目）の男女比較

単位：%

順位	区分	領域	項目	全体	男性	女性	男女差 (女性－男性)
1	活力	まちづくり・観光	21 中心市街地の賑わいの創出	48.1	50.0	47.5	▲ 2.5
2	活力	まちづくり・観光	20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	38.0	40.5	36.7	▲ 3.8
3	活力	産業	8 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	37.8	40.0	36.6	▲ 3.4
4	活力	交流・物流	19 選ばれ続ける観光地づくり	34.5	37.8	32.3	▲ 5.5
5	活力	産業	10 雇用の確保と人材の育成	32.2	31.6	33.4	1.8
6	安心	安全・安心	59 雪に強いまちづくり	32.0	32.3	32.3	0.0
7	活力	交流・物流	15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	30.5	32.8	29.3	▲ 3.5
8	安心	安全・安心	61 生活交通の確保	28.9	29.1	29.6	0.5
9	未来	地域づくり	43 農山漁村の活性化	28.6	32.7	25.5	▲ 7.2
10	県政運営	県政	69 オープンで分かりやすい県政	28.4	31.4	26.2	5.2

※県平均（全体）よりも高い数値は網掛け。

図表 13 男女別の政策の不満足（上位 10 項目）

順位	男性		順位	女性	
	項目	%		項目	%
1	21 中心市街地の賑わいの創出	50.0	1	21 中心市街地の賑わいの創出	47.5
2	20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	40.5	2	20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	36.7
3	8 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	40.0	3	8 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	36.6
4	19 選ばれ続ける観光地づくり	37.8	4	10 雇用の確保と人材の育成	33.4
5	15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	32.8	5	19 選ばれ続ける観光地づくり	32.3
6	74 「とやまから日本を変える」改革と創造	32.8	6	59 雪に強いまちづくり	32.3
7	43 農山漁村の活性化	32.7	7	1 景気対策	29.8
8	59 雪に強いまちづくり	32.3	8	61 生活交通の確保	29.6
9	71 スピード重視の県政	32.0	9	15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	29.3
10	10 雇用の確保と人材の育成	31.6	10	67 すべての人が活躍できる環境づくり	28.7

※県平均（全体）の上位 10 項目にない項目は網掛け。

## (イ) 年齢別

- すべての年代で「21 中心市街地の賑わいの創出」の不満度が最も高くなっている。
- 「18、19 歳」の上位 10 項目の中には、県平均（全体）の上位 10 項目にない項目が 7 項目と半数以上を占めている。また、「74 『とやまから日本を変える』改革と創造」（3 位）の不満度が高くなっている。
- 「20～29 歳」は県平均（全体）の上位 10 項目にないものが 4 項目入っており、中でも「24 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援」が 39.7%（1 位）と高くなっている。
- 「30～39 歳」は「53 雪に強いまちづくり」が 43.0%、「19 選ばれ続ける観光地づくり」が 42.5%とほかの年代より不満度が高くなっている。
- 「40～49 歳」は県平均（全体）の上位 10 項目が概ね上位となっているが、「61 生活交通の確保」の割合が年代間で最も高くなっている。
- 「50～59 歳」は県平均（全体）の上位 10 項目にない「48 高齢者福祉の充実」が 7 位、「46 医療提供体制の充実」が 9 位に入っている。
- 「60～69 歳」は県平均（全体）の上位 10 項目にない「6 中小企業の振興」が 9 位に入っている。
- 「70 歳以上」は県平均（全体）の上位 10 項目にない「37 元気な高齢者の活躍の場の拡大」が 7 位、「22 国際観光の推進」が 9 位に入っている。

図表 14 不満度（上位 10 項目）の年齢比較

単位：%

順位	区分	領域	項目	全体	18、19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	活力	まちづくり・観光	21 中心市街地の賑わいの創出	48.1	36.1	39.7	53.4	51.4	50.0	49.8	48.0
2	活力	まちづくり・観光	20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	38.0	34.4	37.1	42.0	37.4	39.4	41.3	34.5
3	活力	産業	8 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	37.8	31.1	35.1	32.6	40.6	42.2	41.3	35.0
4	活力	交流・物流	19 選ばれ続ける観光地づくり	34.5	34.4	39.7	42.5	35.7	36.2	32.7	26.0
5	活力	産業	10 雇用の確保と人材の育成	32.2	16.4	27.8	36.8	36.7	39.7	31.8	23.3
6	安心	安全・安心	59 雪に強いまちづくり	32.0	24.6	28.5	43.0	32.2	38.7	32.4	20.2
7	活力	交流・物流	15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	30.5	24.6	35.1	35.2	30.4	29.8	32.7	26.0
8	安心	安全・安心	61 生活交通の確保	28.9	21.3	25.8	31.1	32.9	32.6	28.4	24.7
9	未来	地域づくり	43 農山漁村の活性化	28.6	13.1	19.2	23.8	29.4	30.9	35.8	31.8
10	県政運営	県政	69 オープンで分かりやすい県政	28.4	36.1	33.1	36.8	33.9	28.4	22.0	20.6

※県平均（全体）よりも高い数値は網掛け。

図表 15 年齢別の政策の不満度（上位 10 項目）

18、19歳			20～29歳			30～39歳		
順位	項目	%	順位	項目	%	順位	項目	%
1	21 中心市街地の賑わいの創出	36.1	1	21 中心市街地の賑わいの創出	39.7	1	21 中心市街地の賑わいの創出	53.4
	69 オープンで分かりやすい県政	36.1		19 選ばれ続ける観光地づくり	39.7		2	59 雪に強いまちづくり
3	19 選ばれ続ける観光地づくり	34.4	4	24 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	39.7	3	19 選ばれ続ける観光地づくり	42.5
	20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	34.4		20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	37.1		4	20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進
	74 「とよまから日本を変える」改革と創造	34.4	5	67 すべての人が活躍できる環境づくり	36.4	5	10 雇用の確保と人材の育成	36.8
6	23 富山のブランドカアップ	32.8	6	23 富山のブランドカアップ	35.1	6	69 オープンで分かりやすい県政	36.8
7	8 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	31.1		8 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	35.1	7	15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	35.2
8	71 スピード重視の県政	27.9		15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	35.1	8	24 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	34.7
9	70 県民の自立と幸せを重視する県政	26.2	9	69 オープンで分かりやすい県政	33.1	9	67 すべての人が活躍できる環境づくり	34.2
10	15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	24.6		1 景気対策	33.1		10	71 スピード重視の県政
	28 子どもの可能性を引き出し才能や個性を伸ばす教育の推進	24.6			74 「とよまから日本を変える」改革と創造	33.7		
	59 雪に強いまちづくり	24.6						
	72 現場重視で効率的な県政	24.6						

40～49歳			50～59歳			60～69歳		
順位	項目	%	順位	項目	%	順位	項目	%
1	21 中心市街地の賑わいの創出	51.4	1	21 中心市街地の賑わいの創出	50.0	1	21 中心市街地の賑わいの創出	49.8
2	8 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	40.6	2	8 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	42.2	2	8 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	41.3
3	20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	37.4	3	10 雇用の確保と人材の育成	39.7	3	20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	41.3
4	10 雇用の確保と人材の育成	36.7	4	20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	39.4	4	43 農山漁村の活性化	35.8
5	19 選ばれ続ける観光地づくり	35.7	5	59 雪に強いまちづくり	38.7	5	15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	32.7
6	69 オープンで分かりやすい県政	33.9	6	19 選ばれ続ける観光地づくり	36.2	6	19 選ばれ続ける観光地づくり	32.7
7	61 生活交通の確保	32.9	7	48 高齢者福祉の充実	35.1	7	59 雪に強いまちづくり	32.4
8	59 雪に強いまちづくり	32.2	8	61 生活交通の確保	32.6	8	10 雇用の確保と人材の育成	31.8
9	74 「とよまから日本を変える」改革と創造	31.5	9	46 医療提供体制の充実	32.3	9	6 中小企業の振興	29.7
10	15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	30.4	10	74 「とよまから日本を変える」改革と創造	31.2	10	11 農業生産の振興	29.1
	71 スピード重視の県政	30.4					12 森林の整備と林業の振興	29.1

70歳以上		
順位	項目	%
1	21 中心市街地の賑わいの創出	48.0
2	8 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	35.0
3	20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	34.5
4	43 農山漁村の活性化	31.8
5	19 選ばれ続ける観光地づくり	26.0
6	15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	26.0
7	37 元気な高齢者の活躍の場の拡大	25.6
8	61 生活交通の確保	24.7
9	12 森林の整備と林業の振興	24.2
	22 国際観光の推進	24.2

※県平均（全体）の上位 10 項目にない項目は網掛け。



(ウ) 地域別

- すべての地域で「21 中心市街地の賑わいの創出」の不満度が最も高く、特に高岡地域では55.2%と高くなっている。
- 富山地域は県平均（全体）の上位10項目にない「65 若者の成長と自立、起業の支援、社会参加の促進」が10位に入っている。
- 高岡地域は「15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり」の不満度が他の地域と比べて高くなっている。
- 魚津地域は県平均（全体）の上位10項目にない「67 すべての人が活躍できる環境づくり」が6位に入っている。
- 砺波地域は県平均（全体）の上位10項目にない「46 医療提供体制の充実」が9位に入っている。

図表 16 不満度（上位10項目）の地域比較

単位：%

順位	区分	領域	項目	全体	富山地域	高岡地域	魚津地域	砺波地域
1	活力	まちづくり・観光	21 中心市街地の賑わいの創出	48.1	44.6	55.2	44.5	47.6
2	活力	まちづくり・観光	20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	38.0	36.6	41.6	39.0	32.4
3	活力	産業	8 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	37.8	35.9	41.6	39.3	32.4
4	活力	交流・物流	19 選ばれ続ける観光地づくり	34.5	33.9	34.8	36.2	32.4
5	活力	産業	10 雇用の確保と人材の育成	32.2	31.8	32.3	29.3	37.3
6	安心	安全・安心	59 雪に強いまちづくり	32.0	32.1	35.5	29.0	27.6
7	活力	交流・物流	15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	30.5	24.6	40.9	25.9	30.8
8	安心	安全・安心	61 生活交通の確保	28.9	30.3	29.9	26.9	24.9
9	未来	地域づくり	43 農山漁村の活性化	28.6	25.9	26.8	34.5	33.0
10	県政運営	県政	69 オープンで分かりやすい県政	28.4	29.8	26.8	29.7	25.4

※県平均（全体）よりも高い数値は網掛け。

図表 17 地域別の政策の不満度（上位10項目）

順位	富山地域		順位	高岡地域		順位	魚津地域		順位	砺波地域	
	項目	%		項目	%		項目	%		項目	%
1	21 中心市街地の賑わいの創出	44.6	1	21 中心市街地の賑わいの創出	55.2	1	21 中心市街地の賑わいの創出	44.5	1	21 中心市街地の賑わいの創出	47.6
2	20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	36.6	8	商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	41.6	2	8 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	39.3	2	10 雇用の確保と人材の育成	37.3
3	8 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	35.9	20	快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	41.6	3	20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	39.0	3	43 農山漁村の活性化	33.0
4	19 選ばれ続ける観光地づくり	33.9	15	新幹線駅を核とした交流拠点づくり	40.9	4	19 選ばれ続ける観光地づくり	36.2	4	8 商業・サービス業の振興と賑わいのあるまちづくり	32.4
5	59 雪に強いまちづくり	32.1	59	雪に強いまちづくり	35.5	5	43 農山漁村の活性化	34.5	4	19 選ばれ続ける観光地づくり	32.4
6	10 雇用の確保と人材の育成	31.8	19	選ばれ続ける観光地づくり	34.8	6	67 働き盛り すべての人が活躍できる環境づくり	30.7	20	快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	32.4
7	61 生活交通の確保	30.3	10	雇用の確保と人材の育成	32.3	7	23 富山のブランド力アップ	30.3	7	24 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	31.4
8	69 オープンで分かりやすい県政	29.8	1	景気対策	31.2	8	69 オープンで分かりやすい県政	29.7	8	15 新幹線駅を核とした交流拠点づくり	30.8
9	74 「とよまから日本を変える」改革と創造	28.9	61	生活交通の確保	29.9	74	「とよまから日本を変える」改革と創造	29.7	9	46 医療提供体制の充実	29.2
10	1 景気対策	27.2	24	出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	28.8	10	雇用の確保と人材の育成	29.3	10	1 景気対策	28.1
	65 若者の成長と自立、起業の支援、社会参加の促進	27.2									
	23 富山のブランド力アップ	27.2									

※県平均（全体）の上位10項目にない項目は網掛け。

(3) 県政への要望[概要]

問2 問1の項目の1番～68番のうち(※69番～74番の<県政運営>は除きます)、いま、あなたがもっと力を入れてほしいと思っている県の政策はどれですか。5つ以内で選んでください。

- 県政への要望の上位をみると、「59 雪に強いまちづくり」が22.7%と最も高く、次いで「1 景気対策」20.1%、「48 高齢者福祉の充実」16.5%の順となっている。
- 上位4項目は順位も含め、前回調査と同様となっている。一方、前回調査の上位10項目にない「21 中心市街地の賑わい創出」(7位)、「20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進」(9位)が上位に入っている。

図表 18 県政への要望(上位10項目)

単位：%

順位	区分	領域	項目	比率	前回調査(H30)
1	安心	安全・安心	59 雪に強いまちづくり	22.7	29.6 (1位)
2	活力	産業	1 景気対策	20.1	17.2 (2位)
3	安心	健康・福祉	48 高齢者福祉の充実	16.5	14.5 (3位)
4	未来	子育て・教育	25 子育て支援	15.4	14.0 (4位)
5	安心	健康・福祉	46 医療提供体制の充実	14.4	11.7 (6位)
6	安心	安全・安心	61 生活交通の確保	13.8	11.3 (7位)
7	活力	まちづくり・観光	21 中心市街地の賑わいの創出	12.1	9.3 (11位)
8	安心	安全・安心	57 防災・危機管理体制の充実	11.2	12.4 (5位)
9	活力	まちづくり・観光	20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	10.8	7.8 (18位)
	未来	子育て・教育	24 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	10.8	9.5 (10位)

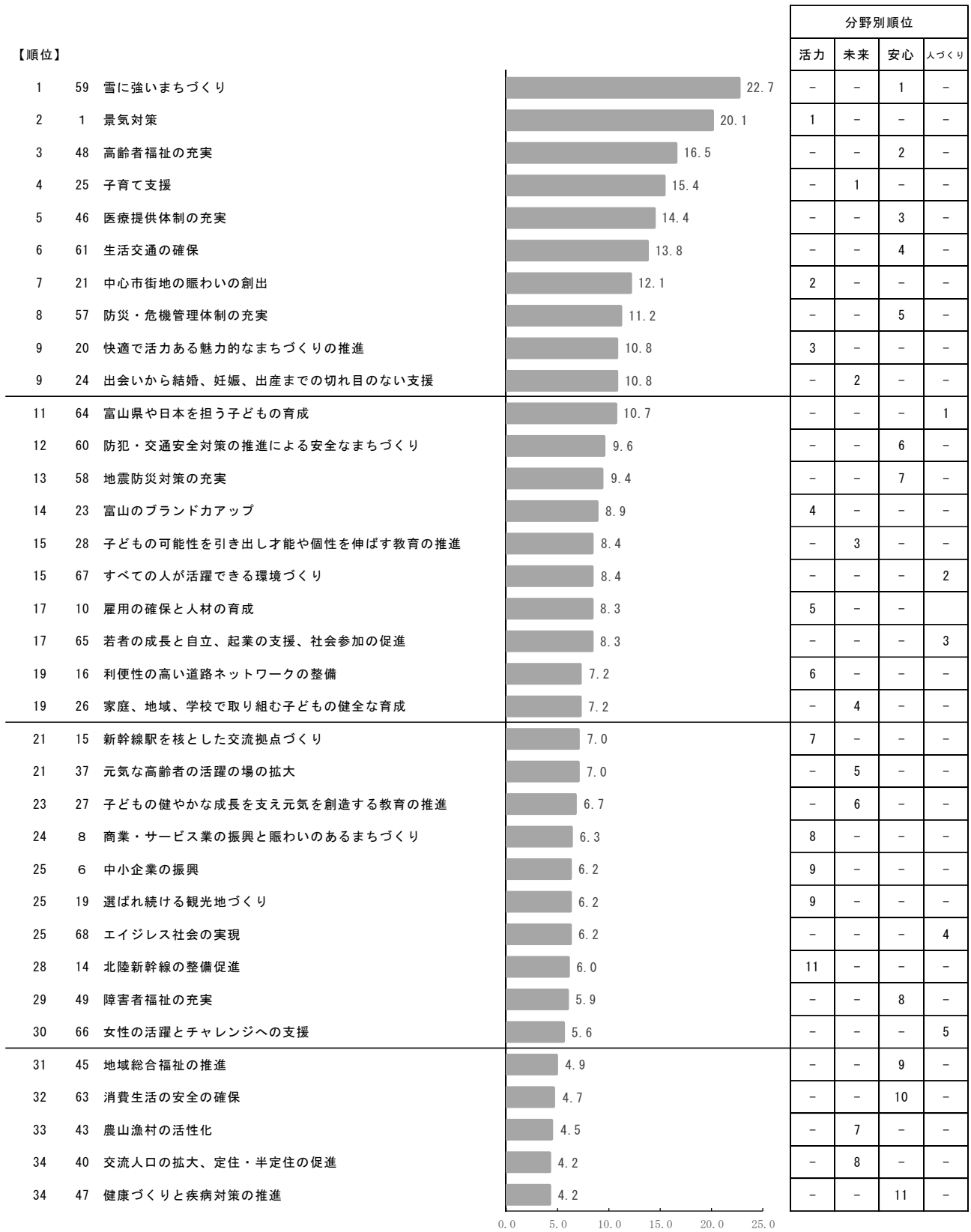
<時系列比較>

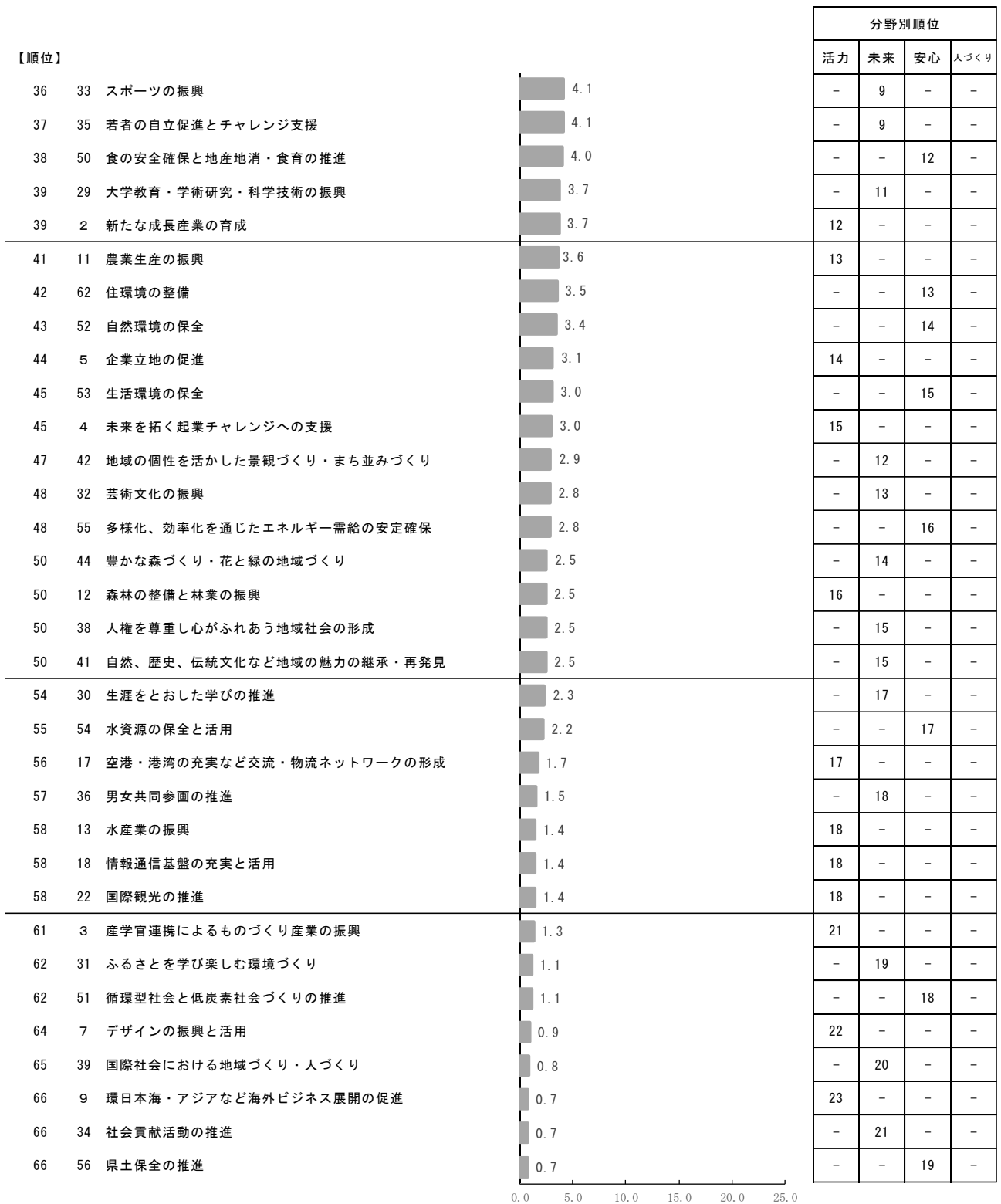
図表 19 県政への要望(上位5項目の時系列比較)

単位：%

順位	H27	H28	H29	H30	R1
1	景気対策 25.5	景気対策 25.2	景気対策 23.2	雪に強いまちづくり 29.6	雪に強いまちづくり 22.7
2	子育て支援 21.1	子育て支援 19.2	子育て支援 20.3	景気対策 17.2	景気対策 20.1
3	高齢者福祉の充実 17.7	高齢者福祉の充実 18.9	高齢者福祉の充実 17.9	高齢者福祉の充実 14.5	高齢者福祉の充実 16.5
4	雪に強いまちづくり 16.4	オープンで分かりやすい県政 16.4	医療提供体制の充実 15.7	子育て支援 14.0	子育て支援 15.4
5	医療提供体制の充実 14.3	雪に強いまちづくり 15.8	雪に強いまちづくり 14.5	防災・危機管理体制の充実 12.4	医療提供体制の充実 14.4

図表 20 県政への要望 (N=1,548、M.T=408.4%、NA=11.9%、単位：%)





(4) 属性別にみる県政への要望

ア 性別

- 男性は「1 景気対策」が22.7%と最も高く、女性の18.2%と比べて高くなっている。女性は「雪に強いまちづくり」が23.7%と最も高くなっている。
- 男女ともに県平均(全体)の上位10項目にない「64 富山県や日本を担う子供の育成」が10位に入っている。

図表 21 県政への要望(上位10項目)の男女比較

単位：%

順位	区分	領域	項目	全体	男性	女性	男女差 (女性-男性)
1	安心	安全・安心	59 雪に強いまちづくり	22.7	22.0	23.7	1.7
2	活力	産業	1 景気対策	20.1	22.7	18.2	▲ 4.5
3	安心	健康・福祉	48 高齢者福祉の充実	16.5	15.0	18.3	3.3
4	未来	子育て・教育	25 子育て支援	15.4	14.3	16.6	2.3
5	安心	健康・福祉	46 医療提供体制の充実	14.4	12.6	16.5	3.9
6	安心	安全・安心	61 生活交通の確保	13.8	13.8	14.1	0.3
7	活力	まちづくり・観光	21 中心市街地の賑わいの創出	12.1	13.9	10.6	▲ 3.3
8	安心	安全・安心	57 防災・危機管理体制の充実	11.2	10.1	12.4	2.3
9	活力	まちづくり・観光	20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	10.8	11.2	10.8	▲ 0.5
	未来	子育て・教育	24 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	10.8	12.2	9.7	▲ 2.4

※県平均(全体)よりも高い数値は網掛け

図表 22 男女別の県政への要望(上位10項目)

順位	男性		順位	女性	
	項目	%		項目	%
1	1 景気対策	22.7	1	59 雪に強いまちづくり	23.7
2	59 雪に強いまちづくり	22.0	2	48 高齢者福祉の充実	18.3
3	48 高齢者福祉の充実	15.0	3	1 景気対策	18.2
4	25 子育て支援	14.3	4	25 子育て支援	16.6
5	21 中心市街地の賑わいの創出	13.9	5	46 医療提供体制の充実	16.5
6	61 生活交通の確保	13.8	6	61 生活交通の確保	14.1
7	46 医療提供体制の充実	12.6	7	57 防災・危機管理体制の充実	12.4
8	24 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	12.2	8	20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	10.8
9	20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	11.2	9	21 中心市街地の賑わいの創出	10.6
10	64 富山県や日本を担う子どもの育成	10.9		64 富山県や日本を担う子どもの育成	10.6

※県平均(全体)の上位10項目にない項目は網掛け

## イ 年齢別

- 「18、19歳」は県平均（全体）の上位10項目にないものが7項目と半数以上を占めており、そのうち、「10 雇用の確保と人材の育成」（6位）、「27 子どもの健やかな成長を支え元気を創造する教育の推進」（9位）、「66 女性の活躍とチャレンジへの支援」（9位）の3項目は他の年代の上位にない項目となっている。
- 「20～29歳」は「1 景気対策」が最も高くなっている。また、県平均（全体）の上位10項目にない「19 選ばれ続ける観光地づくり」が8位に入っている。
- 「30～39歳」は「25 子育て支援」が最も高くなっている。また、県平均（全体）の上位10項目にない「28 子どもの可能性を引き出し、才能や個性を伸ばす教育の推進」（4位）、「64 富山県や日本を担う子どもの育成」（5位）、「26 家庭、地域、学校で取り組む子どもの健全な育成」（6位）が上位に入っている。
- 「40～49歳」は「57 防災・危機管理体制の充実」が15.0%と他の年代と比べて高くなっている。
- 「50～59歳」は県平均（全体）の上位10項目にない「49 障害者福祉の充実」が9位に入っている。
- 「60～69歳」は県平均（全体）の上位10項目にない「37 元気な高齢者の活躍の場の拡大」が6位に入っている。
- 「70歳以上」は「48 高齢者福祉の充実」が最も高くなっている。

図表 23 県政への要望（上位10項目）の年齢比較

単位：%

順位	区分	領域	項目	全体	18、19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上
1	安心	安全・安心	59 雪に強いまちづくり	22.7	21.3	17.9	21.8	24.8	28.4	24.2	16.1
2	活力	産業	1 景気対策	20.1	9.8	23.8	21.2	21.7	17.0	23.5	17.9
3	安心	健康・福祉	48 高齢者福祉の充実	16.5	4.9	6.6	8.3	13.6	22.3	20.8	24.7
4	未来	子育て・教育	25 子育て支援	15.4	14.8	17.2	28.5	19.6	13.5	8.9	10.3
5	安心	健康・福祉	46 医療提供体制の充実	14.4	9.8	12.6	11.4	17.5	17.0	15.3	12.1
6	安心	安全・安心	61 生活交通の確保	13.8	13.1	10.6	11.9	13.6	13.8	14.1	18.4
7	活力	まちづくり・観光	21 中心市街地の賑わいの創出	12.1	11.5	11.9	12.4	11.9	10.6	13.5	13.5
8	安心	安全・安心	57 防災・危機管理体制の充実	11.2	13.1	10.6	9.3	15.0	9.2	10.1	13.0
9	活力	まちづくり・観光	20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	10.8	11.5	13.9	9.8	9.8	9.2	10.1	14.8
	未来	子育て・教育	24 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	10.8	3.3	21.9	11.9	9.4	9.2	11.9	7.2

※県平均(全体)よりも高い数値は網掛け

図表 24 年齢別の県政への要望（上位 10 項目）

18、19歳			20～29歳			30～39歳		
順位	項目	%	順位	項目	%	順位	項目	%
1	59 雪に強いまちづくり	21.3	1	1 景気対策	23.8	1	25 子育て支援	28.5
2	65 若者の成長と自立、起業の支援、社会参加の促進	18.0	2	24 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	21.9	2	59 雪に強いまちづくり	21.8
3	25 子育て支援	14.8	3	59 雪に強いまちづくり	17.9	3	1 景気対策	21.2
	28 子どもの可能性を引き出し才能や個性を伸ばす教育の推進	14.8	4	25 子育て支援	17.2	4	28 子どもの可能性を引き出し才能や個性を伸ばす教育の推進	14.5
	58 震災防災対策の充実	14.8	5	23 富山のブランド力アップ	16.6	5	64 富山県や日本を担う子どもの育成	13.5
6	10 雇用の確保と人材の育成	13.1	6	20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	13.9	6	21 中心市街地の賑わいの創出	12.4
	57 防災・危機管理体制の充実	13.1	7	46 医療提供体制の充実	12.6		26 家庭、地域、学校で取り組む子どもの健全な育成	12.4
	61 生活交通の確保	13.1	8	21 中心市街地の賑わいの創出	11.9	8	24 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	11.9
9	20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	11.5		19 選ばれ続ける観光地づくり	11.9		61 生活交通の確保	11.9
	21 中心市街地の賑わいの創出	11.5	10	65 若者の成長と自立、起業の支援、社会参加の促進	11.3	10	46 医療提供体制の充実	11.4
	27 子どもの健やかな成長を支え元気を創造する教育の推進	11.5		58 地震防災対策の充実	11.3			
	64 富山県や日本を担う子どもの育成	11.5		67 すべての人が活躍できる環境づくり	11.3			
66 女性の活躍とチャレンジへの支援	11.5							

40～49歳			50～59歳			60～69歳		
順位	項目	%	順位	項目	%	順位	項目	%
1	59 雪に強いまちづくり	24.8	1	59 雪に強いまちづくり	28.4	1	59 雪に強いまちづくり	24.2
2	1 景気対策	21.7	2	48 高齢者福祉の充実	22.3	2	1 景気対策	23.5
3	25 子育て支援	19.6	3	1 景気対策	17.0	3	48 高齢者福祉の充実	20.8
4	46 医療提供体制の充実	17.5		46 医療提供体制の充実	17.0	4	46 医療提供体制の充実	15.3
5	57 防災・危機管理体制の充実	15.0	5	61 生活交通の確保	13.8	5	61 生活交通の確保	14.1
6	61 生活交通の確保	13.6	6	25 子育て支援	13.5	6	21 中心市街地の賑わいの創出	13.5
	48 高齢者福祉の充実	13.6	7	64 富山県や日本を担う子どもの育成	12.1		37 元気な高齢者の活躍の場の拡大	13.5
8	21 中心市街地の賑わいの創出	11.9		60 防犯・交通安全対策の推進による安全なまちづくり	12.1	8	24 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	11.9
9	28 子どもの可能性を引き出し才能や個性を伸ばす教育の推進	11.2	9	49 障害者福祉の充実	11.0	9	60 防犯・交通安全対策の推進による安全なまちづくり	10.7
10	58 地震防災対策の充実	10.1	10	21 中心市街地の賑わいの創出	10.6	10	64 富山県や日本を担う子どもの育成	10.4
	23 富山のブランド力アップ	10.1						

70歳以上		
順位	項目	%
1	48 高齢者福祉の充実	24.7
2	61 生活交通の確保	18.4
3	1 景気対策	17.9
4	59 雪に強いまちづくり	16.1
5	20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	14.8
6	21 中心市街地の賑わいの創出	13.5
7	57 防災・危機管理体制の充実	13.0
	67 すべての人が活躍できる環境づくり	13.0
9	46 医療提供体制の充実	12.1
10	37 元気な高齢者の活躍の場の拡大	11.7
	64 富山県や日本を担う子どもの育成	11.7

※県平均(全体)の上位 10 項目にない項目は網掛け

## ウ 地域別

- 地域別にみると、富山地域は「1 景気対策」が最も高く、その他の地域では「59 雪に強いまちづくり」が最も高くなっている。
- 富山地域は県平均（全体）の上位 10 項目にない「60 防犯・交通安全対策の推進による安全なまちづくり」（9 位）、「28 子どもの可能性を引き出し才能や個性を伸ばす教育の推進」（10 位）が上位に入っている。
- 高岡地域は県平均（全体）と同様の上位 10 項目となっているが、「21 中心市街地の賑わいの創出」が 4 位と他の地域と比べて高くなっている。
- 魚津地域は県平均（全体）の上位 10 項目にない「67 すべての人が活躍できる環境づくり」が 9 位に入っている。
- 砺波地域は県平均（全体）の上位 10 項目にない「58 地震防災対策の充実」が 7 位に上位に入っている。

図表 25 県政への要望（上位 10 項目）の地域比較

単位：％

順位	区分	領域	項目	全体	富山地域	高岡地域	魚津地域	砺波地域
1	安心	安全・安心	59 雪に強いまちづくり	22.6	19.7	26.4	23.8	21.6
2	活力	産業	1 景気対策	20.1	22.1	19.7	17.6	17.8
3	安心	健康・福祉	48 高齢者福祉の充実	16.5	17.2	16.0	18.3	13.0
4	未来	子育て・教育	25 子育て支援	15.4	17.7	14.1	12.8	15.1
5	安心	健康・福祉	46 医療提供体制の充実	14.4	14.1	11.9	19.0	14.6
6	安心	安全・安心	61 生活交通の確保	13.8	13.9	13.2	13.1	15.7
7	活力	まちづくり・観光	21 中心市街地の賑わいの創出	12.1	12.6	14.3	10.3	7.6
8	安心	安全・安心	57 防災・危機管理体制の充実	11.2	12.1	10.4	10.0	11.9
9	活力	まちづくり・観光	20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	10.8	10.7	12.3	11.0	7.0
10	未来	子育て・教育	24 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	10.8	10.3	12.3	8.6	11.9

※県平均(全体)よりも高い数値は網掛け

図表 26 地域別の県政への要望（上位 10 項目）

順位	富山地域		順位	高岡地域		順位	魚津地域		順位	砺波地域	
	項目	%		項目	%		項目	%		項目	%
1	1 景気対策	22.1	1	59 雪に強いまちづくり	26.4	1	59 雪に強いまちづくり	23.8	1	59 雪に強いまちづくり	21.6
2	59 雪に強いまちづくり	19.7	2	1 景気対策	19.7	2	46 医療提供体制の充実	19.0	2	1 景気対策	17.8
3	25 子育て支援	17.7	3	48 高齢者福祉の充実	16.0	3	48 高齢者福祉の充実	18.3	3	61 生活交通の確保	15.7
4	48 高齢者福祉の充実	17.2	4	21 中心市街地の賑わいの創出	14.3	4	1 景気対策	17.6	4	25 子育て支援	15.1
5	46 医療提供体制の充実	14.1	5	25 子育て支援	14.1	5	61 生活交通の確保	13.1	5	46 医療提供体制の充実	14.6
6	61 生活交通の確保	13.9	6	61 生活交通の確保	13.2	6	25 子育て支援	12.8	6	48 高齢者福祉の充実	13.0
7	21 中心市街地の賑わいの創出	12.6	7	20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	12.3	7	64 富山県や日本を担う子どもの育成	11.7	8	58 地震防災対策の充実	13.0
8	57 防災・危機管理体制の充実	12.1	7	24 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	12.3	8	20 快適で活力ある魅力的なまちづくりの推進	11.0	8	57 防災・危機管理体制の充実	11.9
9	60 防犯・交通安全対策の推進による安全なまちづくり	11.3	9	46 医療提供体制の充実	11.9	9	67 すべての人が活躍できる環境づくり	10.7	8	24 出会いから結婚、妊娠、出産までの切れ目のない支援	11.9
10	28 子どもの可能性を引き出し才能や個性を伸ばす教育の推進	10.8	10	57 防災・危機管理体制の充実	10.4	10	10 雇用の確保と人材の育成	10.3	10	10 雇用の確保と人材の育成	10.3
							21 中心市街地の賑わいの創出	10.3		64 富山県や日本を担う子どもの育成	10.3
							58 地震防災対策の充実	10.3			

※県平均(全体)の上位 10 項目にない項目は網掛け



## 2 個別施策に係る調査

### (1) 北陸新幹線の延伸について

#### <いま>

北陸新幹線は、本年3月で開業から5周年を迎えるが、乗車人員は開業前の3倍近くの高い水準が続くとともに、観光客の増加や企業立地の進展、Uターン率の向上や若い世代を中心とした移住者の増加など、さまざまな効果が現れている。

この効果を今後も持続・深化していくためには、令和4年度末に予定されている敦賀開業、さらには大阪までの延伸を展望し、観光誘客や移住・定住の促進、産業振興など、官民一体となった取組みをさらに進めていくことが重要である。

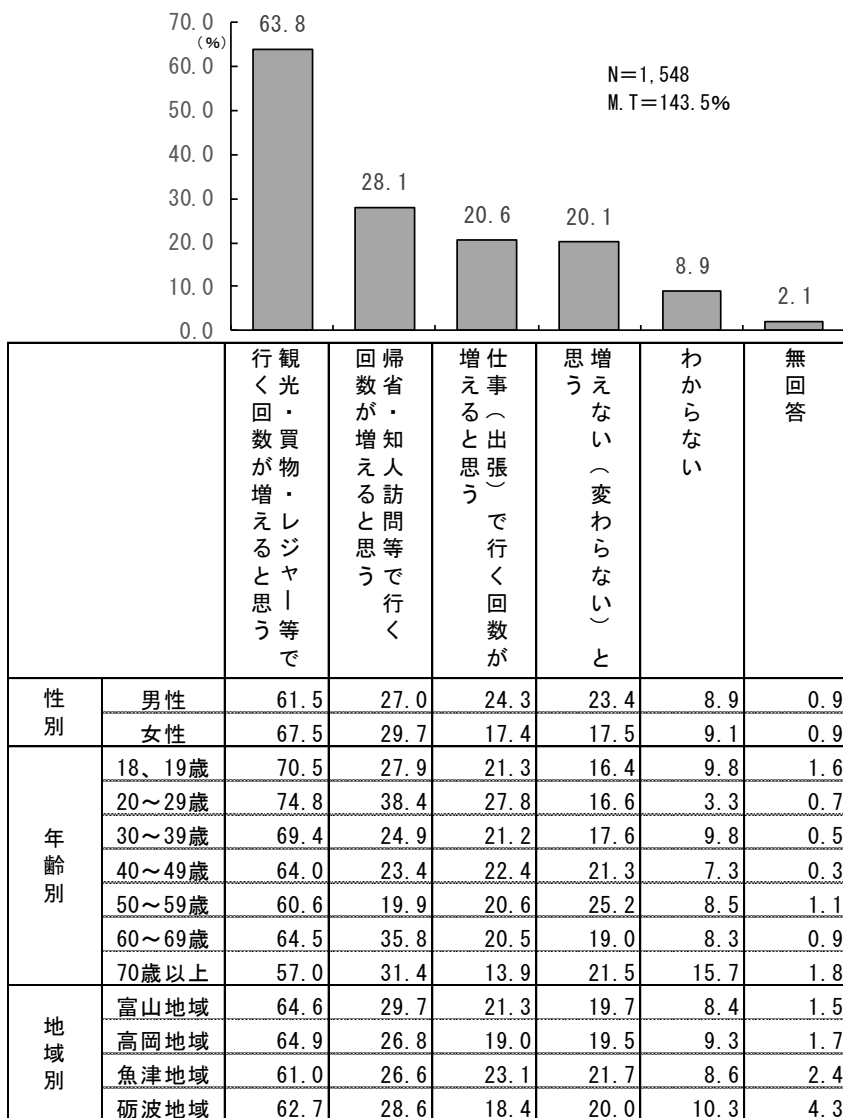
県では、新幹線延伸の効果を最大限に引き出し、その効果を県内各地に広く波及・拡大させていくため、地方創生施策のさらなる深化を議論する「とやま未来創造県民会議」のもとに、市町村、経済界、観光・交通関係者や有識者等からなる「新幹線延伸戦略検討委員会」を設置し、官民を挙げた取組みの基本となる新たな戦略の策定に向けて、検討を進めているところである。

問3 北陸新幹線の敦賀開業で、関西・中京圏（大阪府、京都府、兵庫県、奈良県、愛知県など）への訪問機会が増えると思いますか。次の中から当てはまるものをすべて選んでください。

#### 【調査結果】

- 全体としては、「観光・買物・レジャー等で行く回数が増えると思う」が63.8%と最も高く、次いで「帰省・知人訪問等で行く回数が増えると思う」28.1%、「仕事（出張）で行く回数が増えると思う」20.6%の順となっている。
- 男女別にみると、男性は「仕事（出張）で行く回数が増えると思う」が女性と比べて高く、女性は「観光・買物・レジャー等で行く回数が増えると思う」が男性と比べて高くなっている。
- 年齢別にみると、「観光・買物・レジャー等で行く回数が増えると思う」がすべての年代で最も高くなっている。また、「70歳以上」では、「仕事（出張）で行く回数が増えると思う」が他の年代と比べて低くなっている。
- 地域別でみると、すべての地域で「観光・買物・レジャー等で行く回数が増えると思う」が最も高くなっている。

図表 27 北陸新幹線の敦賀開業による関西・中京圏への訪問機会

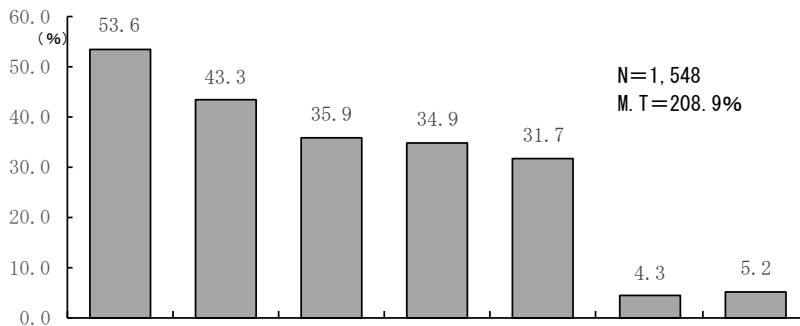


問4 敦賀開業に向けて、北陸新幹線がどのようになれば利用しやすくなると思いますか。次の中からいくつでも選んでください。

【 調査結果 】

- 全体としては、「敦賀駅での北陸新幹線と在来線特急との円滑な接続」が 53.6%と最も高く、次いで「敦賀駅での北陸新幹線と在来線特急との乗継割引の適用」43.3%、「敦賀駅までの北陸新幹線の運行本数の確保・拡大」35.9%の順となっている。
- 男女別にみると、男女とも「敦賀駅での北陸新幹線と在来線特急との円滑な接続」が最も高くなっている。また、女性は「公共交通による県内新幹線駅へのアクセス利便性のさらなる向上」が男性より高くなっている。
- 年齢別にみると、「20～29歳」は「敦賀駅での北陸新幹線と在来線特急との乗継割引の適用」が最も高く、他の年代と比べても高くなっている。
- 地域別にみると、すべての地域で「敦賀駅での北陸新幹線と在来線特急との円滑な接続」が最も高く、次いで「敦賀駅での北陸新幹線と在来線特急との乗継割引の適用」の順となっている。

図表 28 北陸新幹線が利用しやすくなるには



		特急との円滑な接続と在来線	特急との乗継割引の適用と在来線	運賃本数の確保・拡大	維持・拡大	向への公共交通による県内新幹線	その他	無回答
性別	男性	56.2	43.1	35.5	37.0	30.1	4.9	3.0
	女性	52.4	44.6	37.0	33.7	34.1	3.8	4.9
年齢別	18、19歳	45.9	42.6	49.2	32.8	32.8	3.3	3.3
	20～29歳	51.0	55.0	52.3	39.1	39.1	4.0	1.3
	30～39歳	52.8	46.6	44.0	36.3	32.6	3.1	4.7
	40～49歳	55.9	49.3	35.7	37.1	30.8	3.5	0.3
	50～59歳	58.2	41.1	31.9	37.6	31.2	6.7	2.8
	60～69歳	54.4	44.6	34.3	35.5	28.1	4.6	4.6
70歳以上	52.0	29.6	24.2	27.4	35.4	3.6	10.8	
地域別	富山地域	54.3	45.7	39.2	33.6	30.0	3.8	4.4
	高岡地域	51.1	40.5	35.3	35.1	33.1	5.8	6.1
	魚津地域	57.2	46.6	32.1	38.3	31.4	3.1	3.8
	砺波地域	52.4	37.3	32.4	33.5	34.6	3.8	7.6

<その他意見>

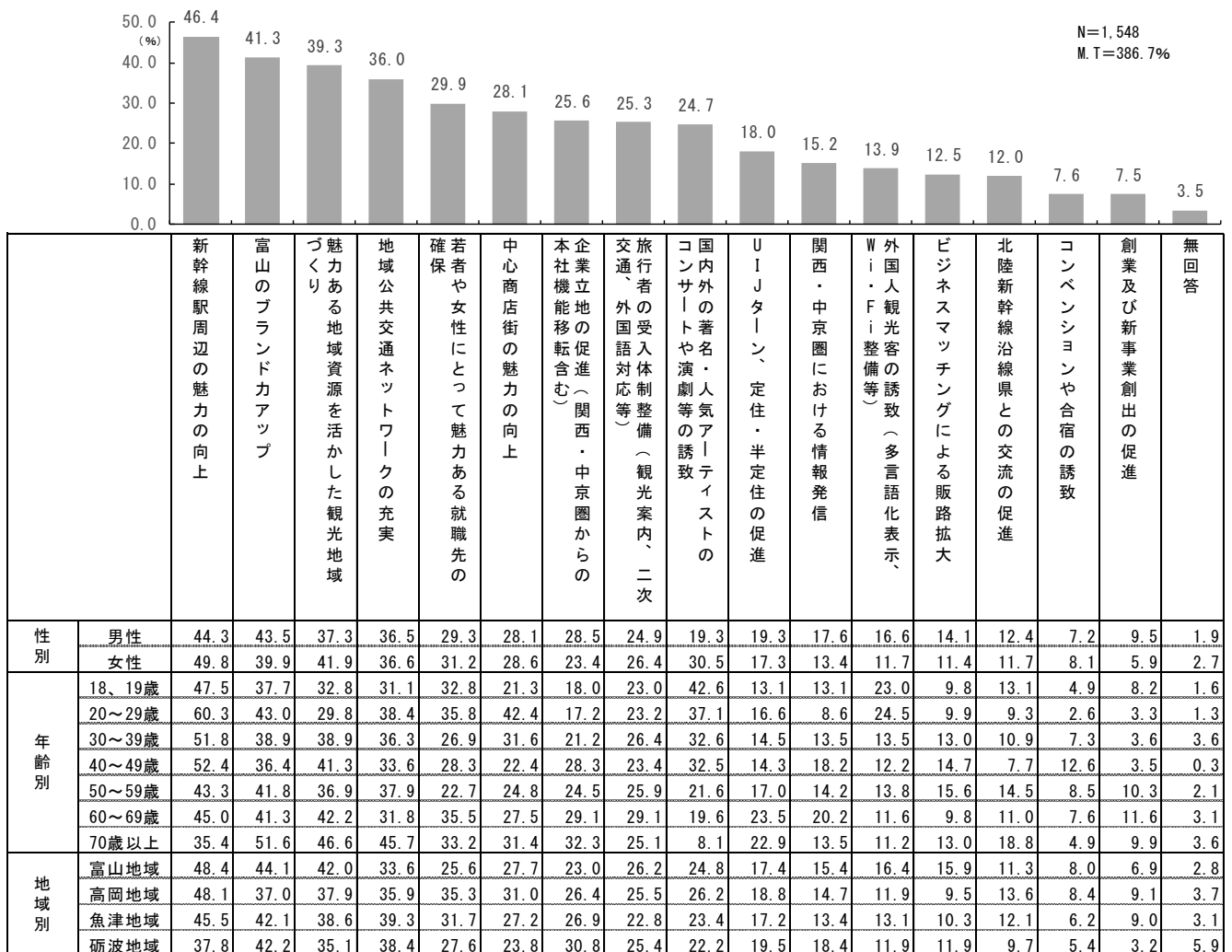
安価な料金設定
新高岡駅に停車するかがやきの本数を増やしてほしい
大阪までの早期の全線開通
駅周辺駐車場の整備
富山駅から乗り換えなしで行ける特急の確保
関西地区のホテルと組み合わせた宿泊パックの設定
敦賀駅の飲食店の充実

問5 北陸新幹線延伸の効果を最大限に引き出すために、必要な施策は何だと思えますか。次の中から5つ以内で選んでください。

【調査結果】

- 全体としては、「新幹線駅周辺の魅力の向上」が46.4%と最も高く、次いで「富山のブランドカアップ」41.3%、「魅力ある地域資源を活かした観光地域づくり」39.3%の順となっている。
- 男女別にみると、男性は「企業立地の促進（関西・中京圏からの本社機能移転含む）」が女性と比べて高く、女性は「国内外の著名・人気アーティストのコンサートや演劇等の誘致」が男性と比べて高くなっている。
- 年齢別にみると、70歳未満の年代では「新幹線駅周辺の魅力の向上」、「70歳以上」では「富山のブランドカアップ」が最も高くなっている。また、「18、19歳」は「国内外の著名・人気アーティストのコンサートや演劇等の誘致」、「20～29歳」は「中心商店街の魅力の向上」が他の年代と比べて高くなっている。
- 地域別にみると、富山地域、高岡地域、魚津地域では「新幹線駅周辺の魅力の向上」が最も高く、砺波地域は「富山のブランドカアップ」が最も高くなっている。

図表 29 北陸新幹線延伸の効果を最大限に引き出すために必要な施策



### ＜調査結果を受けて＞

今回の調査結果では、敦賀開業後の関西・中京圏への訪問機会について、7割を超える人が「増えると思う」と回答している。また、どのようになれば利用しやすくなるかについては、「在来線特急との円滑な接続」を求める人が5割を超えていることから、現在建設中の金沢・敦賀間の令和4年度末までの確実な開業はもとより、敦賀駅等における乗換利便性の確保など、関西・中京圏とのアクセス向上を図るよう、引き続き、政府等に対し強力に働きかけていく必要がある。

また、延伸効果を最大限に引き出すために必要な施策として、「新幹線駅周辺の魅力の向上」「富山のブランド力アップ」「魅力ある地域資源を活かした観光地域づくり」などが上位となっていることから、約3年後に迫った敦賀開業を見据え、富山県の魅力をさらに高める取組みを進めていくことが必要である。

北陸新幹線の延伸は、富山県が新時代に飛躍する大きなチャンスであり、これを逃がすことなく、魅力あるまちづくりや観光振興、移住・定住の促進、産業振興など、各分野の取組みを強化し、富山県のさらなる飛躍、発展につなげてまいりたい。

## (2) SDGsについて

### <いま>

県ではこれまで、全国初となる県単位でのレジ袋無料配布の廃止や、とやまエコ・ストア制度の創設、食品ロス等を削減する県民運動の展開、県民参加の森づくりの推進、小水力発電の整備など、全国に先駆けた環境保全の取組みを進めてきた。

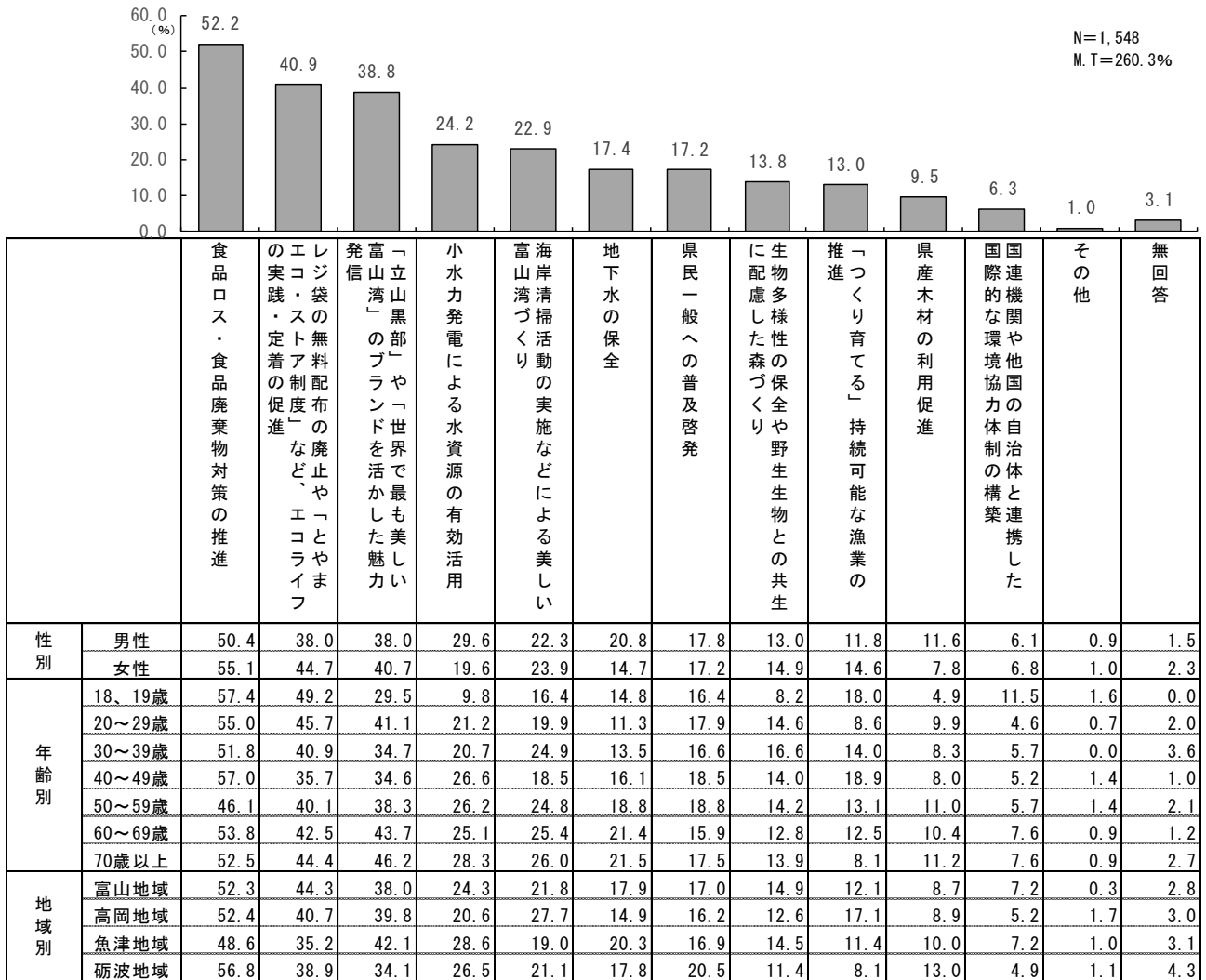
これらの取組みについて、本県から、「環日本海地域をリードする『環境・エネルギー先端県とやま』」として国に提案したところ、本年7月1日、2019年度の「SDGs未来都市」31自治体のうちの一つに選定され、8月にはその提案内容を「富山県SDGs未来都市計画」として公表した。今後は、今回の選定も弾みとして、多様なステークホルダーと連携しながら、SDGs達成に向けた経済、環境、社会それぞれの側面から施策を展開し、持続可能な県づくりに取り組んでいく必要がある。

問6 令和元年7月に、本県は「環日本海地域をリードする『環境・エネルギー先端県とやま』」として国から「SDGs未来都市」に選定されました。県が本事業の推進にあたり提案した施策のうち、特に重要と考えるものは何ですか。次の中から当てはまるものを3つ以内で選んでください。

### 【調査結果】

- 全体としては、「食品ロス・食品廃棄物対策の推進」が52.2%と最も高く、次いで「レジ袋の無料配布の廃止や『とやまエコ・ストア制度』など、エコライフの実践・定着の促進」40.9%、「『立山黒部』や『世界で最も美しい富山湾』のブランドを活かした魅力発信」38.8%の順となっている。
- 男女別にみると、男女とも「食品ロス・食品廃棄物対策の推進」が最も高くなっている。また、男性は「小水力発電による水資源の有効活用」、「地下水の保全」が女性と比べて高く、女性は「食品ロス・食品廃棄物対策の推進」、「レジ袋の無料配布の廃止や『とやまエコ・ストア制度』など、エコライフの実践・定着の促進」が男性と比べて高くなっている。
- 年齢別にみると、「18、19歳」は「『立山黒部』や『世界で最も美しい富山湾』のブランドを活かした魅力発信」、「小水力発電による水資源の有効活用」が他の年代と比べて低くなっている。
- 地域別にみると、すべての地域で「食品ロス・食品廃棄物対策の推進」が最も高くなっている。魚津地域では、「『立山黒部』や『世界で最も美しい富山湾』のブランドを活かした魅力発信」が、「レジ袋の無料配布の廃止や『とやまエコ・ストア制度』など、エコライフの実践・定着の促進」よりも高くなっている。

図表 30 SDGs 事業の推進に特に重要と考える施策



＜調査結果を受けて＞

今回の調査結果では、本県が「SDGs 未来都市」として提案した施策のうち、「食品ロス・食品廃棄物対策の推進」、「エコライフの実践・定着の促進」、「『立山黒部』や『世界で最も美しい富山湾』のブランドを活かした魅力発信」が重要と回答した方の割合が特に多く、普段の生活に身近な分野に浸透する取組みや、本県が誇る自然環境の魅力のさらなる磨き上げに資する取組みを求める声が多いことがうかがえる。

こうしたご意見をふまえ、食品ロス削減のための商慣習見直し、プラスチックの発生抑制、黒部ルート的一般開放・旅行商品化のほか、「富山のさかな・水産加工品」のブランド力向上と販路拡大、小水力発電等の導入や水素エネルギーの利活用、環境保全への国際貢献、ライチョウ保護、水資源の保全、優良無花粉スギ「立山 森の輝き」の植栽など、未来都市計画に位置付けた関連事業を着実に実施していく。

### (3) 中山間地域の振興について

#### <いま>

中山間地域では、急速な人口の減少に伴う集落の空洞化、魅力ある多様な就業機会の不足、生活を支えるサービスの衰退等が、住民の暮らしに深刻な影響を及ぼし、地域社会の存続さえもが危ぶまれている。

しかしながら、中山間地域は、県土の保全、水源の涵(かん)養、文化の継承、自然と触れ合う機会の提供、食料の安定的な供給等に関し重要な役割を担い、県民生活及び本県経済の安定に寄与しており、中山間地域の維持は、すべての県民に関わる課題である。

このため、中山間地域では、それぞれの地域の特性を活かしながら、住民が主体性を発揮し、人口減少社会、長寿社会にふさわしい持続可能な地域社会を形成することが大切である。県では、平成 31 年 3 月に「富山県中山間地域における持続可能な地域社会の形成に関する条例」を制定し、総合的な対策を進めているところである。

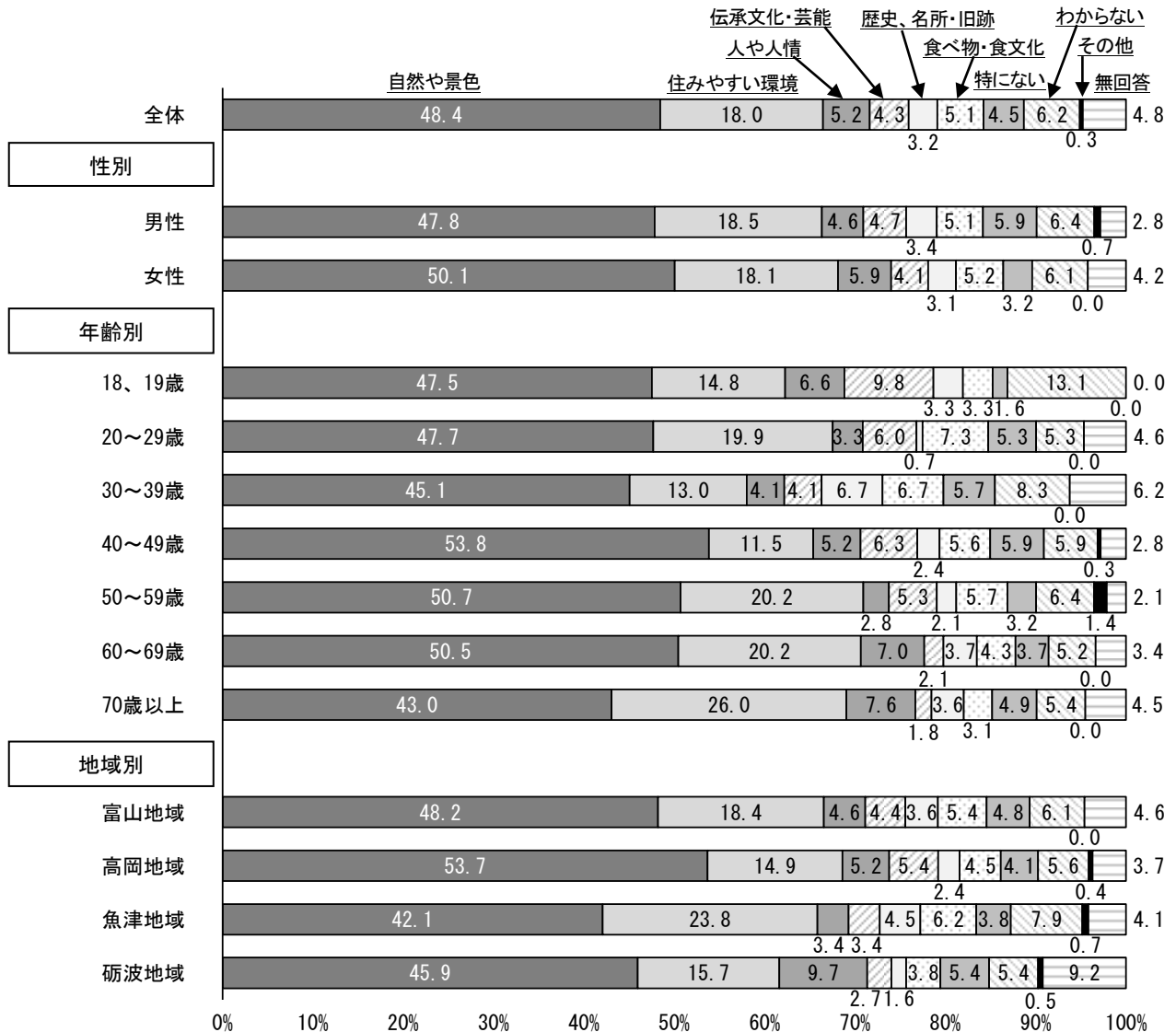
問7 あなたは、県内の中山間地域の魅力は何だと思いますか。最も魅力があると思うものを次の中から1つ選んでください。

#### 【 調査結果 】

- 全体としては、「自然や景色」が 48.4%と最も高く、次いで「住みやすい環境」18.0%、「わからない」6.2%の順となっている。
- 男女別にみると、男女とも「自然や景色」が最も高くなっているが、女性は50%を超え、男性より高くなっている。
- 年齢別にみると、すべての年代で「自然や景色」が最も高く、次いで「住みやすい環境」となっている。「18、19歳」においては、「伝承文化・芸能」もやや高くなっている。
- 地域別では、すべての地域で「自然や景色」が最も高くなっている。魚津地域は「住みやすい環境」が他の地域と比べて高くなっている。



図表 31 県内の中山間地域の魅力

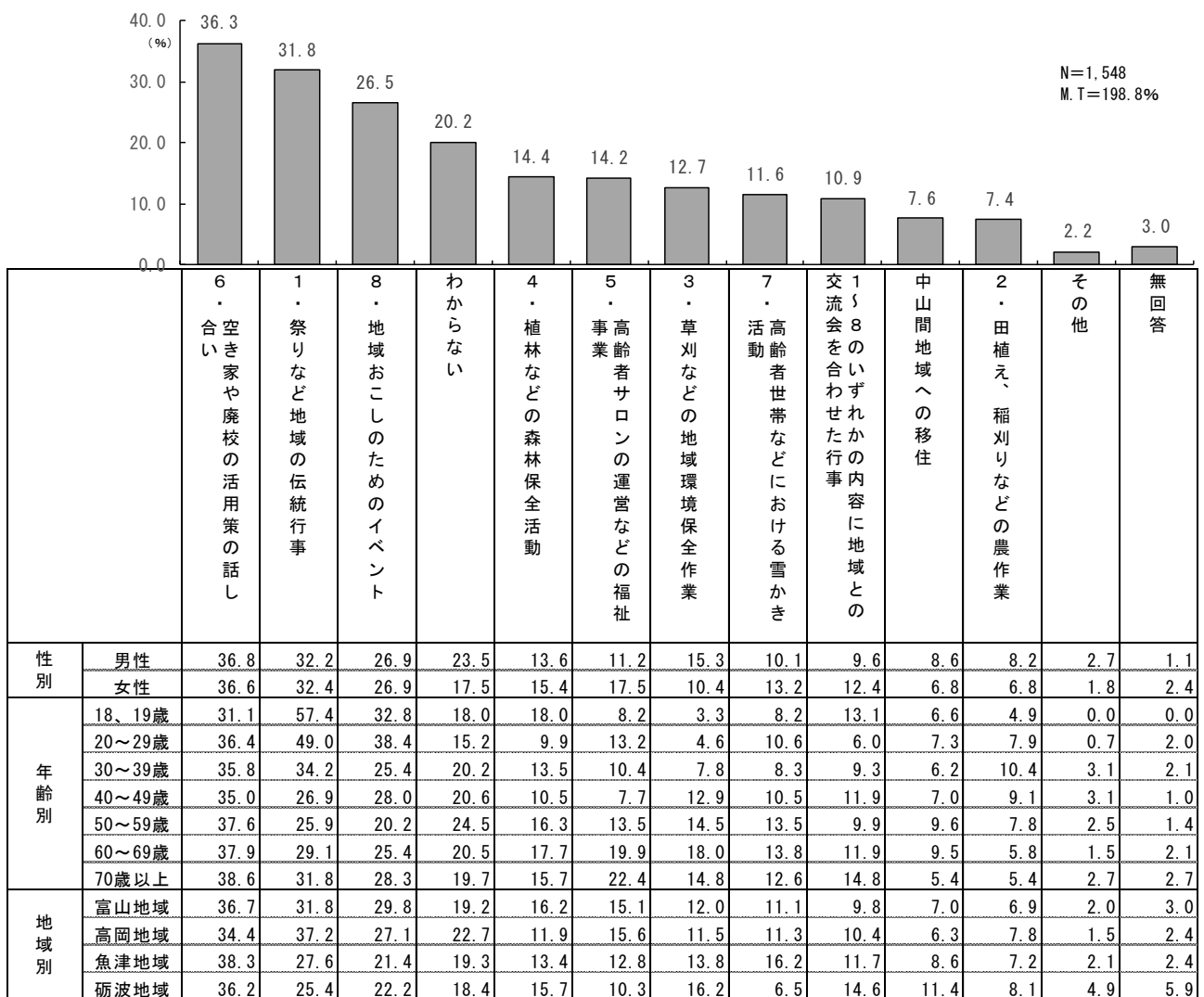


問8 あなたは、県内の中山間地域を活性化するためにどのような活動に協力したいと思いますか。次の中から3つ以内で選んでください。

【 調査結果 】

- 全体としては、「空き家や廃校の活用策の話し合い」が 36.3%と最も高く、次いで「祭りなど地域の伝統行事」31.8%、「地域おこしのためのイベント」26.5%の順となっている。
- 男女別にみると、男性は「草刈などの地域環境保全作業」が女性と比べて高く、女性は「高齢者サロンの運営などの福祉事業」が男性と比べて高くなっている。
- 年齢別にみると、「18、19歳」、「20～29歳」は「祭りなど地域の伝統行事」が最も高く、「30歳以上」では「空き家や廃校の活用策の話し合い」が最も高くなっている。
- 地域別にみると、砺波地域は「高齢者世帯などにおける雪かき」が他の地域と比べて低くなっている。

図表 32 中山間地域の活性化のために協力したい活動



＜その他意見＞

観光産業（資源）など、自立した経済活動の支援
有害鳥獣対策
協力という限界があるので、バイト代が出る仕組みを作ればいい

＜調査結果を受けて＞

今回の調査結果では、多くの人が「自然や景色」など中山間地域に何らかの魅力を感じており、一定程度中山間地域に対する理解が浸透していることが見受けられる。また、中山間地域の活性化のために協力したい活動では、「空き家や廃校の活用策の話し合い」、「祭りなど地域の伝統行事」、「地域おこしのためのイベント」と回答した割合が高く、中山間地域のための活動に一定割合の関心があることがうかがえる一方で、「わからない」との回答割合も多くなっている。

このため、県では、中山間地域の魅力を感じてもらうことなどをきっかけに、より多くの人々が中山間地域の重要性を認識し、理解や関心を深められるように努めていく。

#### (4) 地方創生について

##### <いま>

県ではこれまで、「とやま未来創生戦略」に基づき、①結婚・出産・子育ての願いが叶う環境整備、②産業振興、若者等の雇用創出、観光振興、県内への移住促進、③女性・高齢者など多様な人材の確保と労働生産性の向上、④活力あるまち・健やかな暮らし・未来を担う人づくりといった4つの基本目標の達成に向け、本県の特徴・強みを活かした様々な施策を積極的に推進してきた。

その結果、合計特殊出生率が4年連続で1.5人台を維持、Uターン率のさらなる向上、移住者数の増加、女性就業率の高水準を維持、健康寿命の延伸など、一定の成果、明るい兆候も見られている。

一方、令和元年の地方から東京圏への転出超過数は約149,000人と「東京一極集中」に依然として歯止めがかかっていないことや、本県においても、子育て家庭の育児に対する不安や負担感が大きいこと、若い女性が、県外に転出し本県に戻らない傾向が継続していることなどの課題がある。

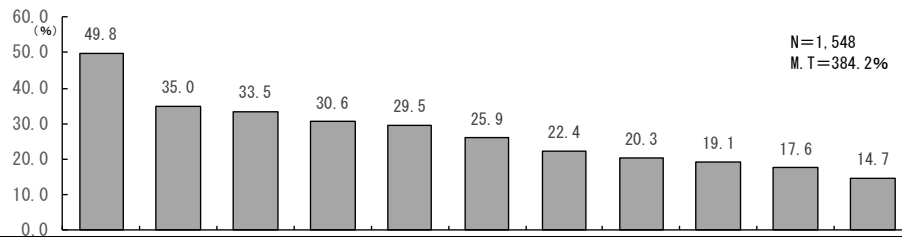
こうした中、県では令和2年度を始期とする「第2期とやま未来創生戦略（仮称）」の策定作業を進めており（令和2年3月策定予定）、令和元年10月にその体系をとりまとめたところである。

問9 本県の地方創生を進めるにあたって、今後、県が重点を置くべき施策は何だと思えますか。次の中から5つ以内で選んでください。

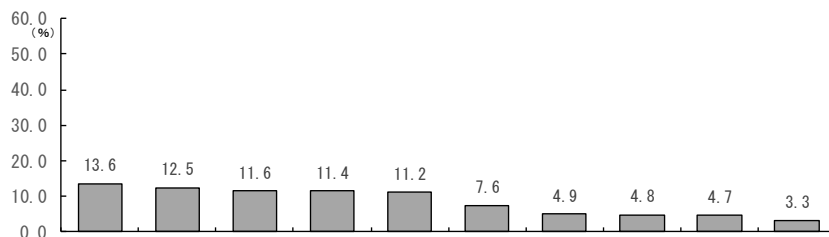
##### 【 調査結果 】

- 全体としては、「結婚から子育てまで切れ目のない支援による少子化対策の推進」が49.8%と最も高く、次いで「質の高い医療福祉サービスの提供」35.0%、「魅力的な観光地づくり」33.5%の順となっている。
- 男女別にみると、男女とも「結婚から子育てまで切れ目のない支援による少子化対策の推進」が最も高くなっている。  
男性は「スポーツ振興・健康づくり」、「I o T ・ A I 、 5 G など先端技術の活用」、「創業・ベンチャー支援」が女性と比べて高く、女性は「質の高い医療福祉サービスの提供」、「女性・高齢者の活躍、働き方改革の推進」、「きめ細かな教育の実施・確かな学力の育成」が男性と比べて高くなっている。
- 年齢別にみると、すべての年代で「結婚から子育てまで切れ目のない支援による少子化対策の推進」が最も高くなっている。また、「質の高い医療福祉サービスの提供」と「魅力的な観光地づくり」について、40歳未満の年代では後者が前者より高くなっており、50歳以上の年代では、前者より後者が高くなっている。
- 地域別にみると、砺波地域は「魅力的な観光地づくり」が他の地域と比べて低くなっている。

図表 33 地方創生を進めるにあたって、重点を置くべき施策



性別	重点を置くべき施策											
	結婚から子育てまで切れ目のない支援による少子化対策の推進	質の高い医療福祉サービスの提供	魅力的な観光地づくり	若者や女性の移住・U・I・Jターンの推進	中心市街地の活性化	の女性・高齢者の活躍、働き方改革の推進	豊かな自然環境の保全	ものづくり産業の振興	地域の防災力の向上・安全なまちづくりの推進	きめ細かな教育の実施・確かな学力の育成	スポーツ振興・健康づくり	
男性	50.5	28.6	35.8	30.8	29.2	19.6	21.4	21.4	16.6	14.2	18.6	
女性	50.4	41.7	32.1	31.4	30.5	32.5	23.8	19.8	22.0	21.3	11.4	
年齢別	18、19歳	47.5	27.9	42.6	31.1	36.1	14.8	13.1	11.5	14.8	18.0	19.7
	20～29歳	58.9	22.5	39.1	31.1	31.1	23.8	13.9	15.2	13.2	15.9	20.5
	30～39歳	54.9	30.1	40.4	32.6	31.6	25.9	15.5	19.7	17.6	18.1	19.7
	40～49歳	44.8	34.6	34.6	28.3	28.3	25.5	18.2	23.4	20.6	16.1	15.7
	50～59歳	41.5	40.4	31.9	28.4	23.0	22.7	24.1	22.7	16.7	19.1	16.3
	60～69歳	54.4	37.9	29.1	36.4	31.5	31.2	30.6	20.2	22.0	19.3	10.1
	70歳以上	54.7	41.7	31.4	29.1	34.1	29.6	29.1	21.5	24.7	17.5	9.9
地域別	富山地域	48.4	34.9	36.1	27.5	31.1	27.2	23.8	17.5	22.5	19.0	14.3
	高岡地域	52.2	32.7	34.6	35.1	32.3	27.1	19.5	21.0	16.2	18.0	14.3
	魚津地域	48.6	37.9	31.7	28.3	22.4	23.1	22.8	24.5	16.9	14.8	15.5
	砺波地域	50.8	36.8	25.4	33.0	28.6	23.2	24.3	21.6	18.9	16.2	15.7



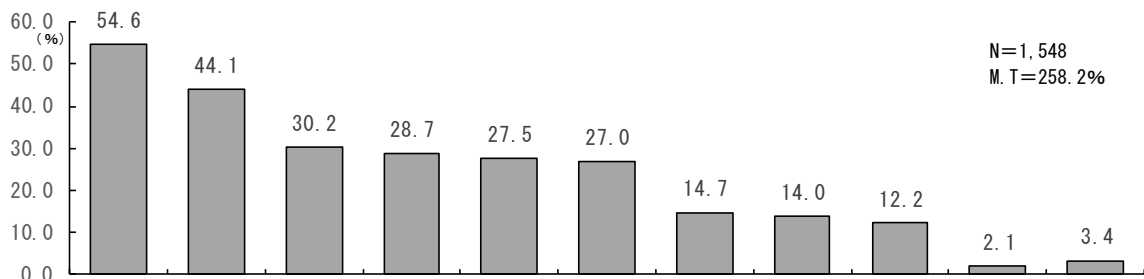
性別	重点を置くべき施策										
	IoT・AI、5Gなど先端技術の活用	農林水産分野の振興	豊かで魅力ある中山間地域の実現	再生可能エネルギーの導入促進	創業・ベンチャー支援	芸術文化・ふるさと文学の振興	SDGsの推進	海外ビジネスの拡大・販路拡大	外国人材の活躍と多文化共生の推進	無回答	
男性	18.8	14.2	12.6	12.7	14.2	7.7	4.6	5.7	6.5	1.6	
女性	9.1	11.4	10.9	10.5	8.7	7.6	5.4	4.2	3.1	2.4	
年齢別	18、19歳	14.8	1.6	13.1	6.6	14.8	14.8	3.3	4.9	8.2	0.0
	20～29歳	17.2	5.3	11.3	5.3	16.6	12.6	6.0	5.3	3.3	1.3
	30～39歳	17.1	10.9	7.8	9.3	10.4	8.3	2.1	8.3	3.6	3.1
	40～49歳	14.3	10.5	12.6	10.5	12.9	7.7	3.5	7.0	2.8	0.7
	50～59歳	15.2	14.5	13.1	11.7	12.1	5.0	4.6	3.9	5.3	1.8
	60～69歳	11.6	18.0	10.4	14.1	9.8	5.2	8.3	3.7	7.0	2.4
	70歳以上	9.0	15.2	14.3	16.6	7.2	8.5	4.9	2.2	4.0	3.6
地域別	富山地域	13.9	13.0	12.5	11.6	10.5	6.4	4.8	5.2	4.9	2.0
	高岡地域	15.6	11.7	11.9	10.2	12.6	10.6	2.6	2.8	4.8	3.2
	魚津地域	13.4	13.4	10.7	12.8	10.7	7.2	8.3	6.6	3.4	4.5
	砺波地域	7.6	11.9	9.2	11.9	10.8	4.3	5.4	5.9	5.4	5.9

問 10 本県の人口減少対策として、人口の自然動態（出生・死亡による人口の変化）の観点から、今後、県が重点をおくべき施策は何だと思えますか。次の中から3つ以内で選んでください。

【 調査結果 】

- 全体としては、「子育てにかかる経済的負担の軽減」が 54.6%と最も高く、次いで「企業における仕事と子育てが両立しやすい職場環境づくり」44.1%、「若い世代が結婚や子育てなど自らのライフプランを考える機会の提供」30.2%の順となっている。
- 男女別にみると、男性は「子育てにかかる経済的負担の軽減」、「若い世代が結婚や子育てなど自らのライフプランを考える機会の提供」、「男女の出会いの場の創出など若者の結婚を支援する施策の充実」が女性と比べて高く、女性は「企業における仕事と子育てが両立しやすい職場環境づくり」、「多様な子育てサービスや放課後児童クラブ（学童保育）の充実」が男性と比べて高くなっている。
- 年齢別にみると、「30～39 歳」は「妊娠・出産への包括的支援、不妊・不育症などの相談・支援体制や周産期医療体制の充実」、「40～59 歳」は「多様な子育てサービスや放課後児童クラブ（学童保育）の充実」、「60 歳以上」は「男女の出会いの場の創出など若者の結婚を支援する施策の充実」の順位が他の年代と比べて高くなっている。
- 地域別にみると、富山地域は「多様な子育てサービスや放課後児童クラブ（学童保育）の充実」、高岡地域は「若い世代が結婚や子育てなど自らのライフプランを考える機会の提供」、魚津地域は「妊娠・出産への包括的支援、不妊・不育症などの相談・支援体制や周産期医療体制の充実」、砺波地域は「男女の出会いの場の創出など若者の結婚を支援する施策の充実」が上位に入っている。

図表 34 人口減少対策として、人口の自然動態の観点から重点を置くべき施策



N=1,548  
M. T=258.2%

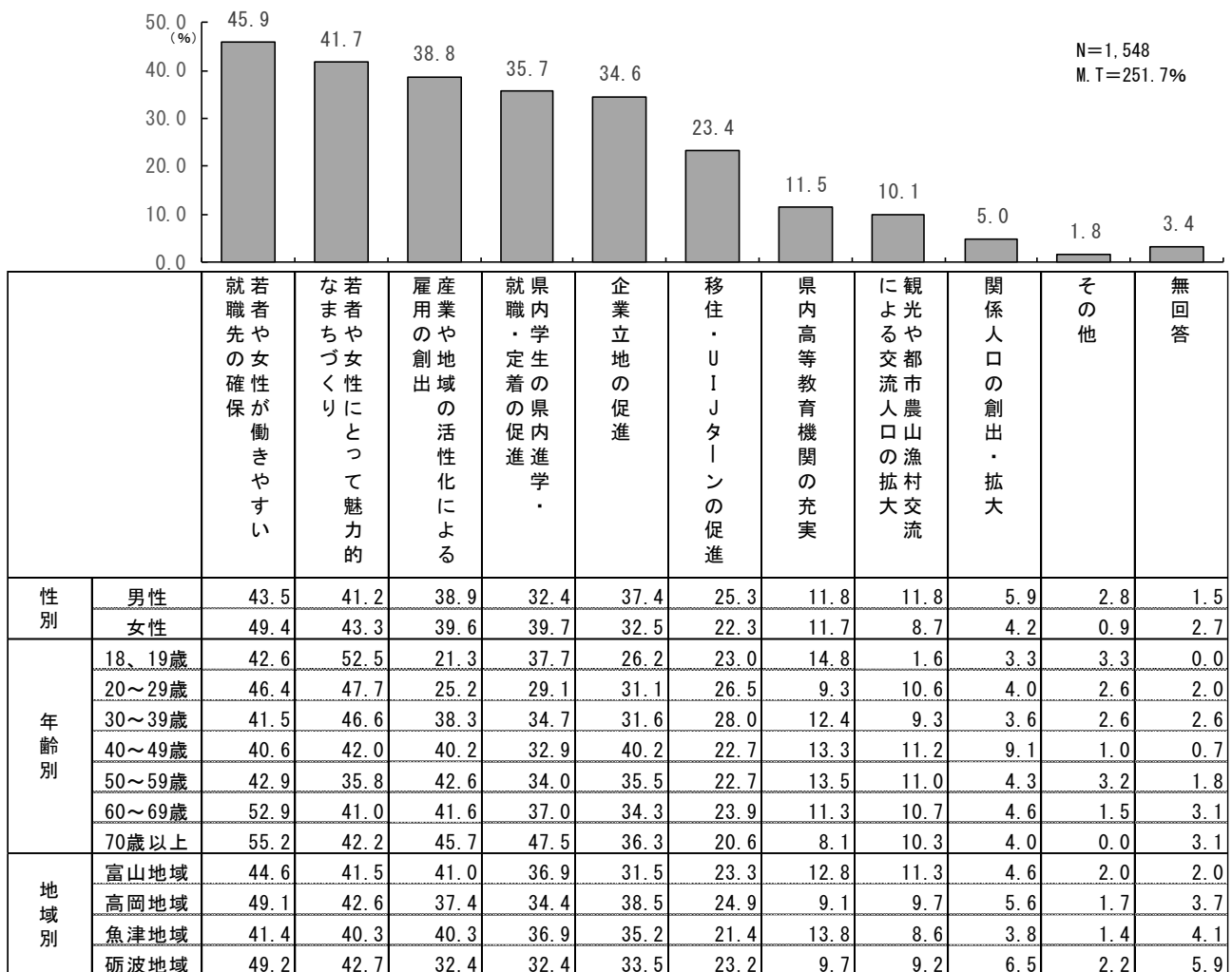
		子育てにかかる経済的負担の軽減	企業における働きと子育てが両立しやすい職場環境づくり	若い世代が結婚や子育てなど自らのライフプランを考える機会の提供	男女の出会いの場の創出など若者の結婚を支援する施策の充実	妊娠・出産への包括的支援、不妊・不育症などの相談・支援体制や、不妊・周産期医療体制の充実	多様な子育てサービスや放課後児童クラブ（学童保育）の充実	地域ぐるみで子育てを支える機運の醸成	健康づくりや生活習慣病の予防など健康寿命の延伸	男性の育児・家事への参画の促進	その他	無回答
性別	男性	60.8	39.1	33.1	31.6	27.8	20.9	15.3	13.8	10.3	2.6	1.5
	女性	49.8	49.9	28.0	26.5	28.0	33.7	14.5	14.6	14.5	1.7	2.6
年齢別	18、19歳	70.5	39.3	32.8	19.7	29.5	19.7	19.7	4.9	23.0	1.6	1.6
	20～29歳	62.9	36.4	44.4	33.8	29.8	21.9	10.6	8.6	13.9	0.7	0.7
	30～39歳	63.2	48.2	24.9	22.8	36.3	30.6	7.3	10.4	13.5	2.6	3.1
	40～49歳	63.6	50.0	26.6	27.3	26.6	28.3	12.2	9.1	12.9	2.1	0.3
	50～59歳	47.5	40.1	23.4	22.7	30.5	32.6	14.9	22.3	10.3	3.5	1.4
	60～69歳	49.2	44.0	33.0	34.6	23.5	28.7	19.3	15.3	11.3	1.8	2.8
70歳以上	46.6	48.4	35.9	35.9	23.8	21.1	19.7	18.4	11.2	1.3	4.0	
地域別	富山地域	57.0	43.0	27.7	27.7	28.4	29.7	16.2	14.9	13.8	1.6	2.3
	高岡地域	53.5	44.2	33.5	29.7	27.1	26.2	14.3	15.6	11.9	2.4	2.6
	魚津地域	53.4	47.2	29.3	25.5	29.3	25.2	13.8	10.3	11.0	1.7	4.5
	砺波地域	51.4	42.2	30.8	34.6	23.2	23.2	11.9	12.4	9.7	3.2	6.5

問 11 本県の人口減少対策として、人口の社会動態（県外からの転入と県外への転出による人口の変化）の観点から、今後、県が重点をおくべき施策は何だと思えますか。次の中から3つ以内で選んでください。

【 調査結果 】

- 全体としては、「若者や女性が働きやすい就職先の確保」が 45.9%、次いで「若者や女性にとって魅力的なまちづくり」41.7%、「産業や地域の活性化による雇用の創出」38.8%の順となっている。
- 男女別にみると、男性は「企業立地の促進」が女性と比べて高く、女性は「若者や女性が働きやすい就職先の確保」が男性と比べて高くなっている。
- 年齢別にみると、50歳未満では「若者や女性にとって魅力的なまちづくり」が最も高く、50歳以上では「若者や女性が働きやすい就職先の確保」が最も高くなっている。
- 地域別にみると、すべての地域で「若者や女性が働きやすい就職先の確保」が最も高く、次いで「若者や女性にとって魅力的なまちづくり」が高くなっている。高岡地域、砺波地域では「企業立地の促進」が、県平均（全体）で3番目の「産業や地域の活性化による雇用の創出」よりもやや高くなっている。

図表 35 人口減少対策として、人口の社会動態の観点から重点を置くべき施策



## ＜調査結果を受けて＞

今回の調査結果では、地方創生を進めるにあたって「重点を置くべき施策」については「結婚から子育てまで切れ目のない支援による少子化対策の推進」が約5割を占めているものの、「質の高い医療福祉サービスの提供」、「魅力的な観光地づくり」、「若者や女性の移住・U I J ターンの推進」についても3割強の方が重要と回答している。また、自然動態対策では「子育てにかかる経済的負担の軽減」や「企業における仕事と子育てが両立しやすい職場環境づくり」が重要との声が多く、社会動態対策では「若者や女性が働きやすい就職先の確保」や「若者や女性にとって魅力的なまちづくり」が多いものの、その他にも3割前後の方が選択している項目も多く、様々な分野にわたる複合的な施策の実施が求められていることがうかがえる。

令和元年10月にとりまとめた次期戦略の体系では、従来の結婚・妊娠・出産支援や子育て家庭の経済的負担の軽減のほか、働き方改革を通じたゆとりある生活の実現による少子化対策、移住・定住の環境づくり、若者や女性が輝いて働ける環境づくりなどを推進することとしている。

また、既存施策のブラッシュアップはもちろんのこと、新たな潮流、局面への対応として「北陸新幹線の敦賀延伸の効果を最大限に発揮するための取組み」、「SDG s のさらなる推進」、「Society5.0の実現に向けた未来技術の活用、生産性の向上」といった分野横断的な観点を盛り込むこととしている。

今後とも、各方面からご意見を頂きながら次期戦略を練り上げ、またこの戦略に位置付けた事業を着実に推進することで、県民が夢と希望にあふれ、輝き働き暮らせる「とやまの未来」の創生に全力で取り組んでいく。



## (5) 体づくりについて

### <いま>

本県において、週1回以上運動やスポーツを実施する県民の割合は39.2%（H29）と全国平均55.1%（H30）を下回っていた。また、子どもたちの体力は下げ止まりの状況にあるものの、昭和60年代に比べると依然低い水準にある。

このようなことから、「富山県スポーツフェスタ」や「富山マラソン」、「湾岸サイクリング」、「県民歩こう運動推進大会」など、県民参加型のイベントやスポーツ教室の開催などにより、県民のスポーツへの参加の機会づくりに努めている。また、子どもや若者をはじめ幅広い世代の県民がスポーツを楽しめるスポーツ施設の機能の充実や学校体育施設の開放促進など、生涯にわたりスポーツに親しむことができる環境づくりにも積極的に取り組んでいる。

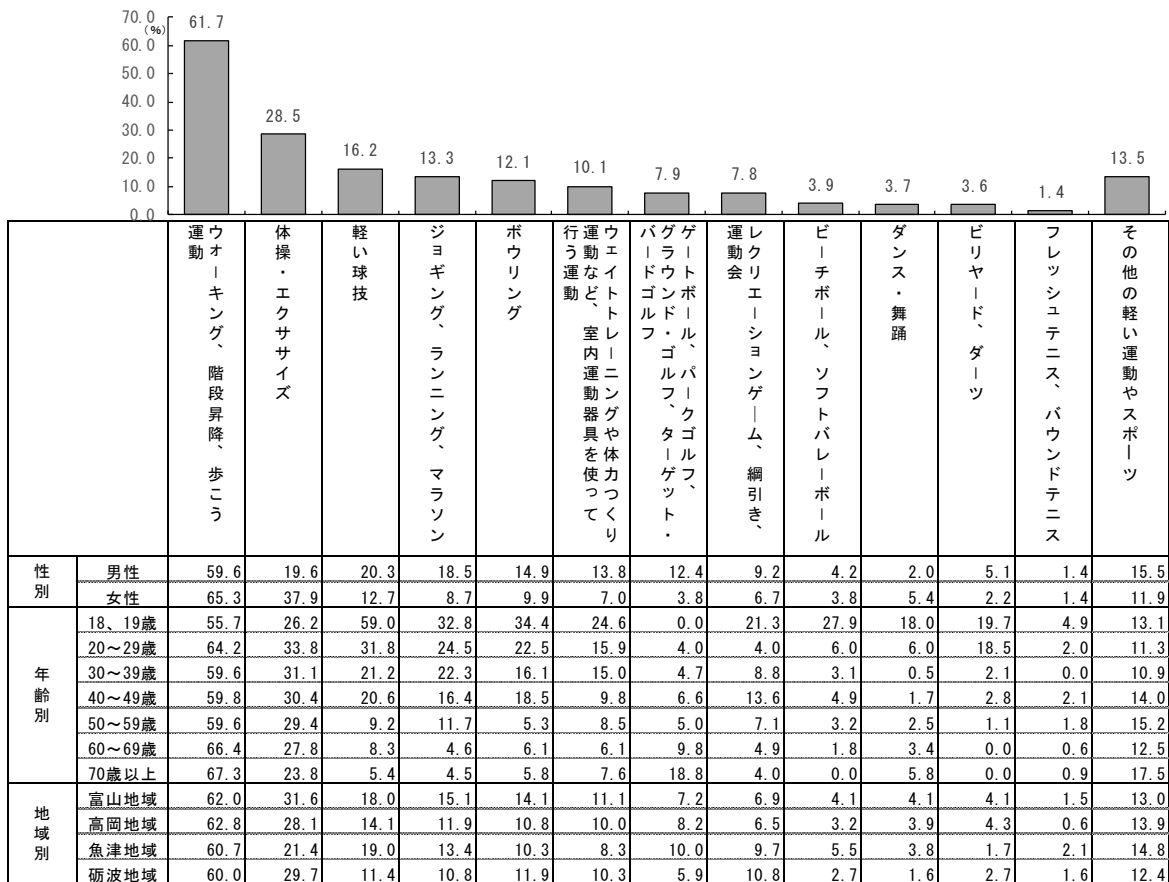
問 12-1 あなたがこの1年間に行った運動やスポーツ（障害者スポーツを含む）をすべて選んでください。

### 【 調査結果 】

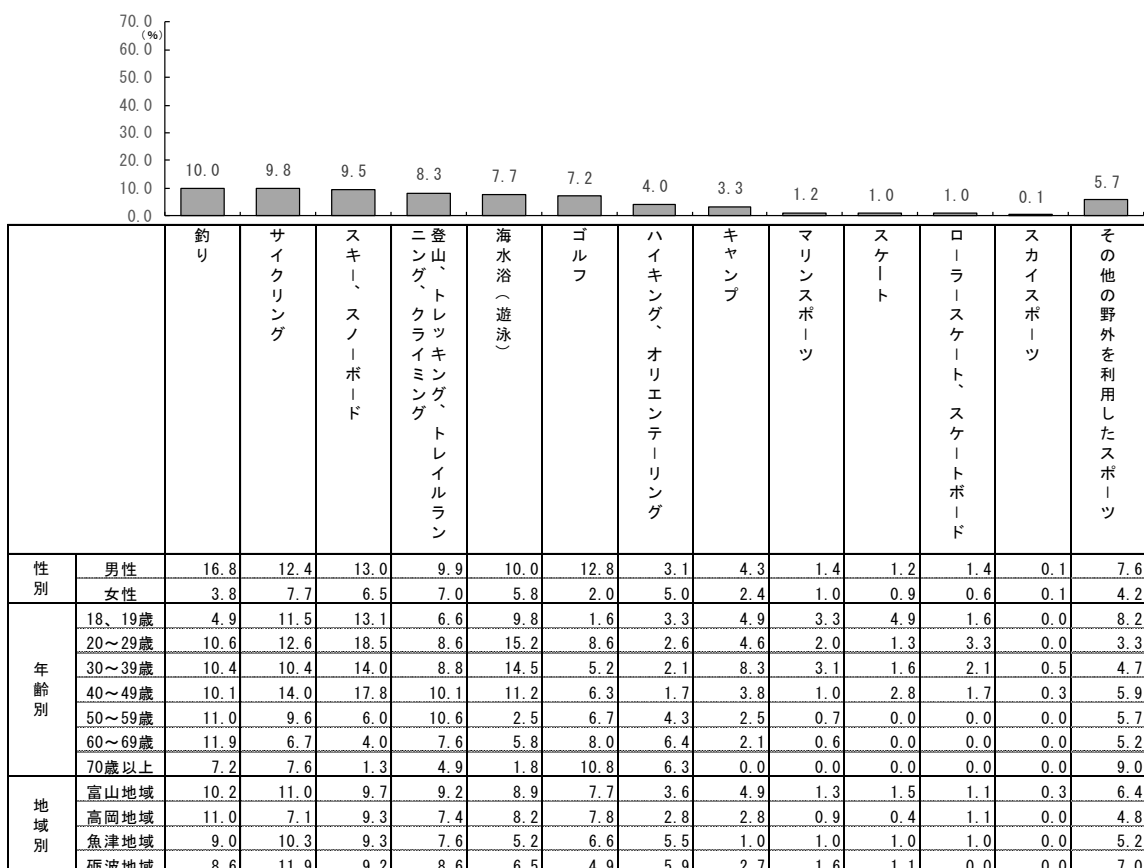
- 全体としては、「ウォーキング、階段昇降、歩こう運動」が61.7%と最も高く、次いで「体操・エクササイズ」28.5%、「軽い球技」16.2%の順となっている。
- 男女別にみると、男女とも「ウォーキング、階段昇降、歩こう運動」が最も高くなっている。男性は「ジョギング、ランニング、マラソン」、「釣り」、「スキー、スノーボード」、「ゴルフ」が女性と比べて高く、女性は「ウォーキング、階段昇降、歩こう運動」、「体操・エクササイズ」が男性と比べて高くなっている。
- 年齢別にみると、「18、19歳」以外の年代では「ウォーキング、階段昇降、歩こう運動」が最も高くなっているが、「18、19歳」では「軽い球技」が最も高くなっている。
- 地域別にみると、すべての地域で「ウォーキング、階段昇降、歩こう運動」が最も高くなっている。富山地域は「体操・エクササイズ」、魚津地域は「ゲートボール、パークゴルフ、グラウンド・ゴルフ、ターゲット・バードゴルフ」、砺波地域は「レクリエーションゲーム、綱引き、運動会」が他の地域と比べて高くなっている。

図表 36 この1年間に行った運動やスポーツ（全体N=1,548、M. T=251.7%）

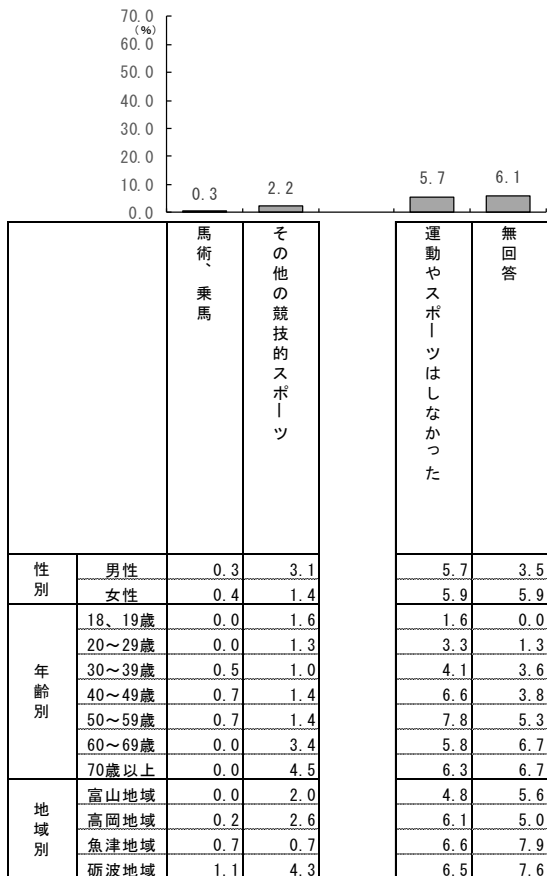
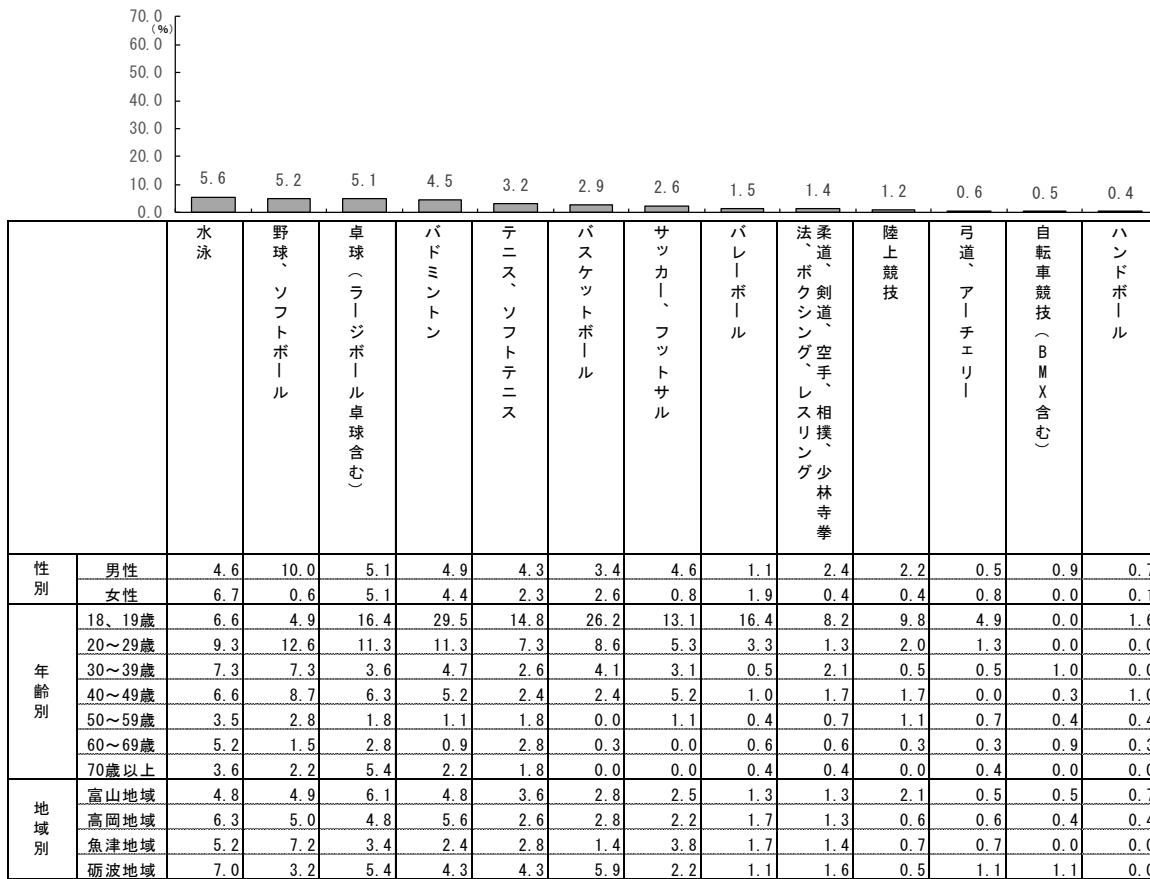
【軽い運動・スポーツ】



【野外を利用したスポーツ】



【競技的スポーツ（障害者スポーツを含む）】

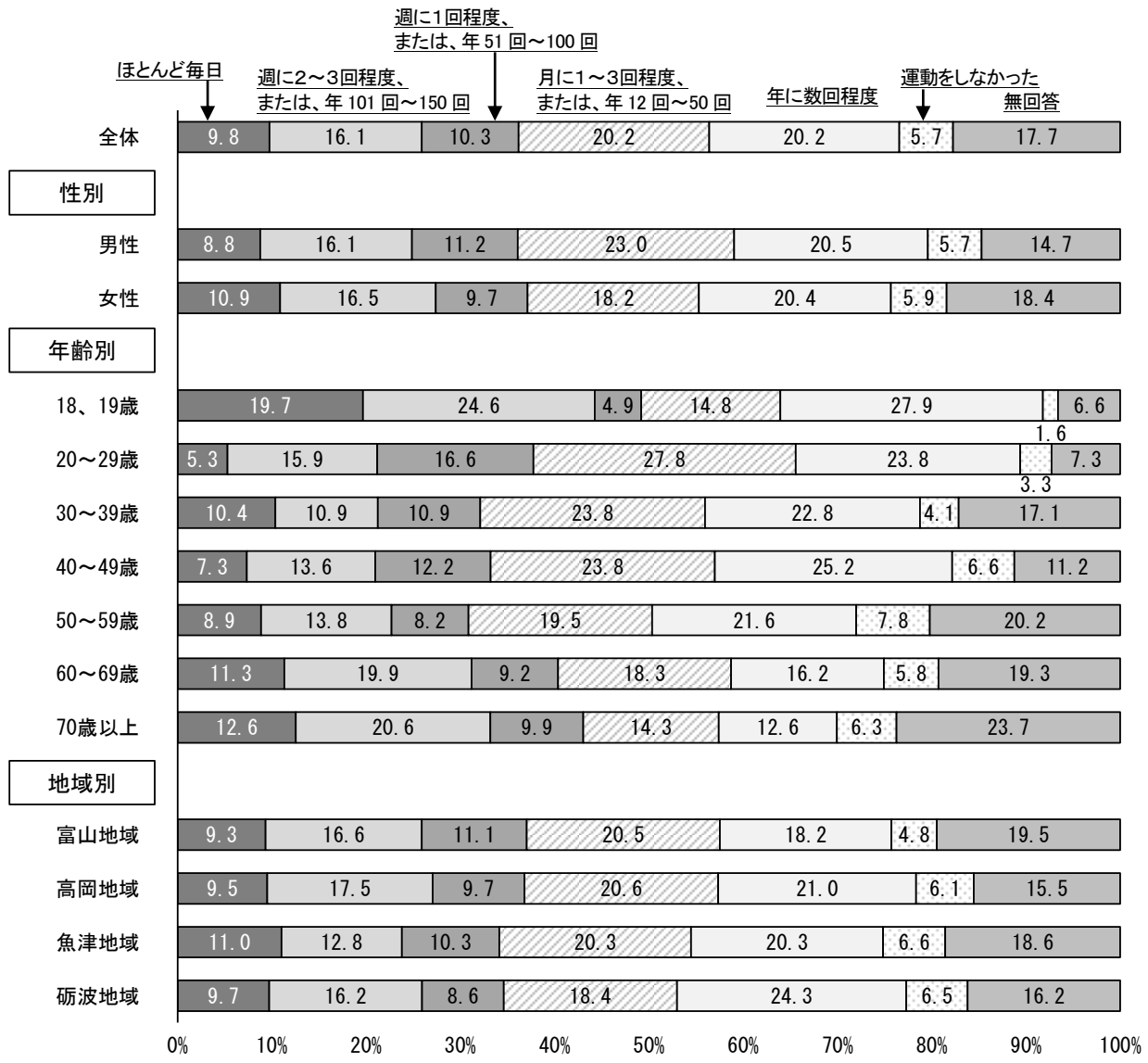


問 12-2 問 12-1 で1 から 41 と回答された方にお聞きます。あなたがこの1年間に行った運動やスポーツの回数は、どの程度になりますか。次の中から1つ選んでください。

【 調査結果 】

- 全体としては、「月に1～3回程度、または、年12回～50回」、「年に数回程度」が20.2%と最も高く、「週に2～3回程度、または、年101回～150回」16.1%の順となっている。
- 男女別にみると、男性は「月に1～3回程度、または、年12回～50回」が最も高く、女性は「年に数回程度」が最も高くなっている。
- 年齢別にみると、60歳未満では「年に数回程度」、「月に1～3回程度、または、年12回～50回」が高くなっているが、60歳以上では「週に2～3回程度、または、年101回～150回」が最も高くなっている。
- 地域別にみると、砺波地域は「年に数回程度」が他の地域と比べて高くなっている。

図表 37 この1年間に行った運動やスポーツの回数



### ＜調査結果を受けて＞

今回の調査結果からスポーツ人口が76.6%とスポーツに親しむ県民の割合は多いものの、国の81.5%（平成30年度「スポーツの実施状況等に関する世論調査」）を下回る結果となった。また、週1回以上運動・スポーツを実施する県民の割合も36.2%と国の55.1%を下回る結果となっている。特に、働き盛り世代の実施率が低くなっており、日常生活の中でスポーツを定着させることが求められている。

今後、本県のスポーツ実施率を高めるために、それぞれのライフステージに応じて気軽にスポーツに取り組める環境づくりや親子や三世代で参加できるスポーツイベントやスポーツ教室の開催、プロスポーツ選手やオリンピック等との交流など、スポーツへの興味・関心が高まるようなイベントや多様なスポーツプログラムの提供などにより、県民が日常生活の中で時間を見つけて気軽に運動やスポーツに親しむことができるような参加機会を拡充していくことが重要と考えられる。

また、県民が気軽にスポーツ活動に取り組むことができるよう、スポーツ施設の充実や「とやまスポーツ情報ネットワーク」でのスポーツ情報の提供など、県民が日常的、主体的にスポーツ活動に取り組めるよう広報活動に努め、スポーツ環境の充実につなげたい。

## (6) 自転車の活用について

### <いま>

自転車は、子どもから高齢者まで幅広い県民が利用できる、環境にも優しい身近な交通手段であり、また、その活用は健康づくり、観光振興や地域活性化にも繋がるものであることから、近年、自転車を活用した取組みへの関心が高まっている。国においては、自転車活用の推進に関する施策の充実を図るため、平成29年5月に「自転車活用推進法」が施行されるとともに、平成30年6月には、法の基本方針に即した「自転車活用推進計画」が策定された。

本県では、これまでも、「富山湾岸サイクリングコース」や「田園サイクリングコース」等の整備、コースを活用した「富山湾岸サイクリング」の開催など、自転車を活用した観光、地域振興等に積極的に取り組んできた。

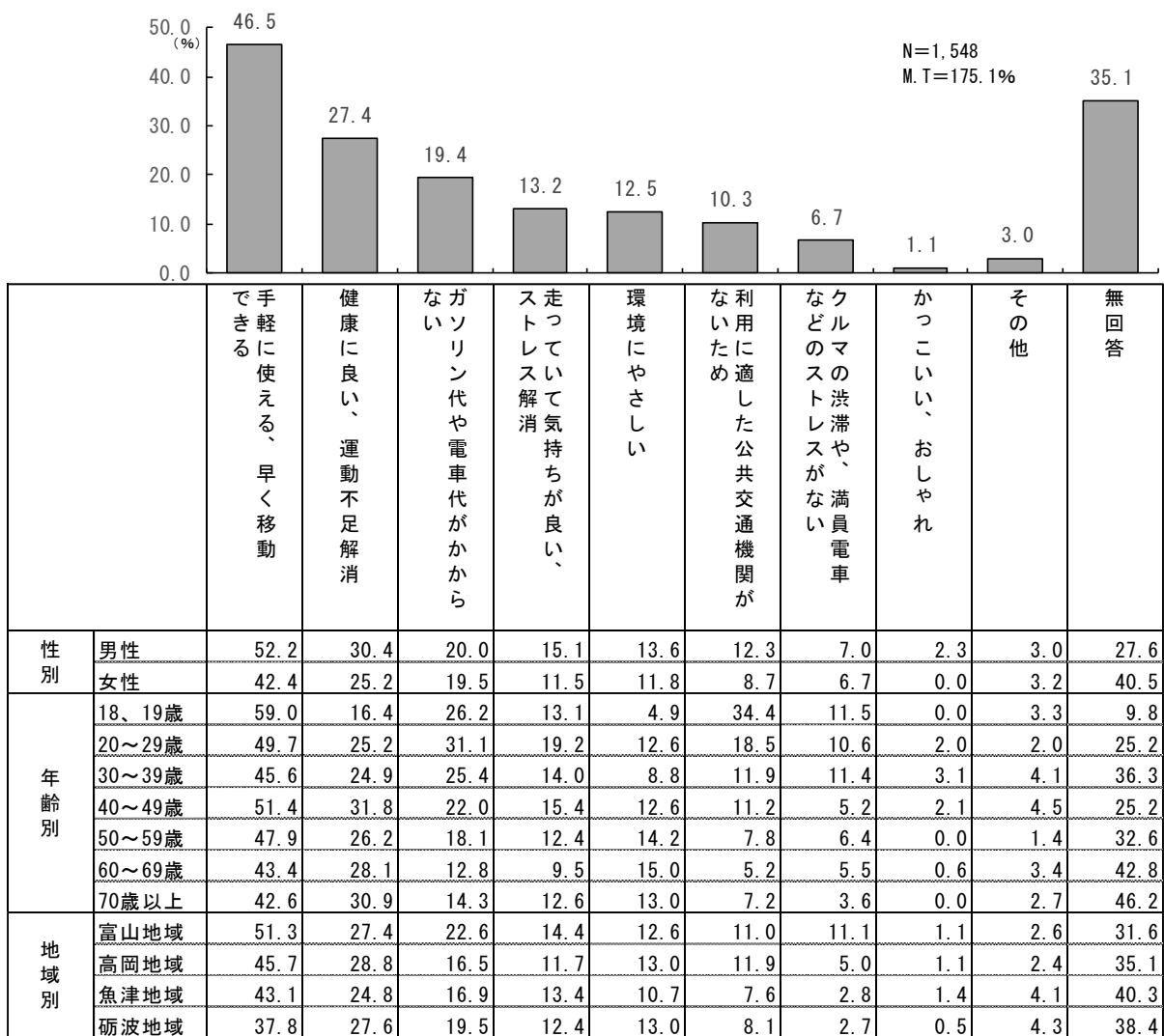
平成31年3月には、国の動きを踏まえ、「富山県自転車活用推進条例」を制定するとともに、この条例に基づき「富山県自転車活用推進計画」を策定し、これらの条例及び計画に基づき、自転車の活用に関する施策を総合的かつ計画的に推進しているところである。

問13 あなたは、どのような理由で自転車を利用していますか。次の中から当てはまるものをすべて選んでください。

### 【調査結果】

- 全体としては、「手軽に使える、早く移動できる」が46.5%と最も高く、次いで「健康に良い、運動不足解消」27.4%、「ガソリン代や電車代がかからない」19.4%の順となっている。
- 男女別にみると、男女ともに「手軽に使える、早く移動できる」が最も高いが、男性は女性より約10ポイント高くなっている。
- 年齢別にみると、すべての年代で「手軽に使える、早く移動できる」が最も高くなっているが、次いで、「18、19歳」では「利用に適した公共交通機関がないため」、20歳以上40歳未満の年代では「ガソリン代や電車代がかからない」、40歳以上の年代では「健康に良い、運動不足解消」が高くなっている。
- 地域別にみると、すべての地域で「手軽に使える、早く移動できる」が最も高くなっているが、富山地域は他の地域と比べて割合が高くなっている。

図表 38 自転車を利用する理由



<その他意見>

近所の移動のため
車がないため
駐車場が無い場所に行く場合

<調査結果を受けて>

今回の調査結果では、自転車に乗る目的について、「健康に良い、運動不足解消」と回答した人の割合が27.4%となり、昨年の調査結果(25.6%)よりも若干増加した。

平成31年3月に策定した「富山県自転車活用推進計画」においては、「自転車にやさしい都市環境の整備」、「サイクルツーリズムの推進」、「安全で安心な自転車社会の実現」とともに、県民の体力向上や余暇の充実に資するよう、「自転車を活かした健康づくりの推進」を目標の一つに掲げている。今後も、自転車を活用した健康増進を図るため、安全かつ快適に自転車を利用することができる環境整備等に取り組んでまいりたい。

## (7) 富山きときと空港の利用促進について

### <いま>

富山きときと空港は北陸・飛騨・信越地域の空の玄関口として国内定期路線 2 都市間（東京、札幌）、国際定期路線 4 都市間（ソウル、大連、上海、台北）を運航している。

富山ー羽田便は、平成 27 年 3 月の北陸新幹線開業後 1 日 6 往復から 4 往復の運航となり、平成 30 年 11 月からは全便が小型化となった。利用者は開業前と比べ半減し、厳しい状況が続いている。

しかしながら、富山ー羽田便は、富山きときと空港の基幹路線であり、本県と首都圏・全国・世界との交流、本県の未来創生を支える重要な交通基盤であることから、北陸・飛騨・信越地域への新たな旅客需要や羽田経由の国内外の乗継需要を取り込みながら、官民を挙げて富山ー羽田便の便数維持・利便性の向上に取り組んでいる。

また、富山きときと空港の活性化のため、既存路線の拡充やチャーター便・新規路線の誘致など国内外の航空ネットワークの拡充に取り組むとともに、交通アクセスの改善を進めながら、インバウンドやアウトバウンド双方の利用拡大を図っている。

問 14 東京や首都圏方面に出かける場合の交通手段は何を利用されますか。次の中から該当するものを 1 つ選んでください。

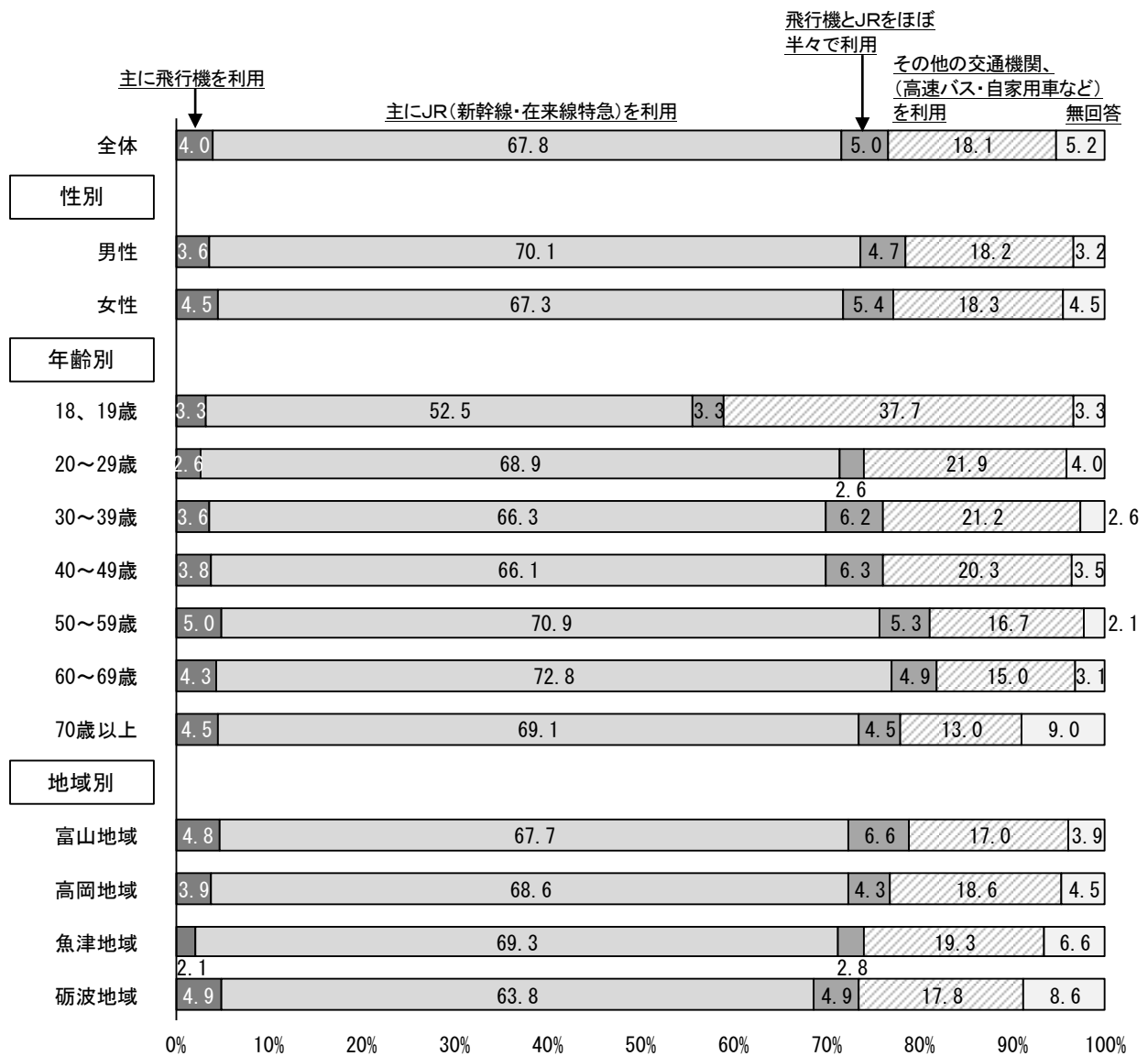
※東京や首都圏に行ったことのない方については、仮に自分が行くとしたら何を利用するかお答えください。

### 【 調査結果 】

- 全体としては、「主に J R（新幹線・在来線特急）を利用」が 67.8%と最も高く、次いで「そのほかの交通機関（高速バス・自家用車など）を利用」18.1%となっている。
- 男女別にみると、男女とも「主に J R（新幹線・在来線特急）を利用」が最も高いが、男性が女性と比べてやや高くなっており、「飛行機と J R をほぼ半々で利用」、「主に飛行機を利用」は女性が男性と比べてやや高くなっている。
- 年齢別にみると、「18、19 歳」は「主に J R（新幹線・在来線特急）を利用」が他の年代と比べて低く、「そのほかの交通機関（高速バス・自家用車など）を利用」が他の年代と比べて高くなっている。
- 地域別にみると、砺波地域は「主に J R（新幹線・在来線特急）を利用」がやや低くなっている。



図表 39 東京や首都圏方面に出かける場合の交通手段

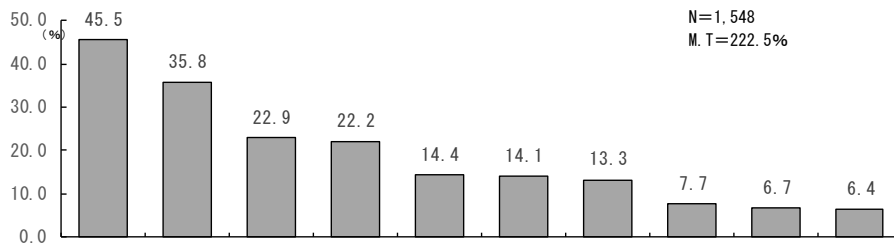


問 15 富山きときと空港の活性化のためには、「富山-羽田便」をはじめ、空港の利用者を増やす必要がありますが、どのようなサービスがあれば富山きときと空港を利用しますか。(飛行機に乗る場合だけでなく、空港を来訪する場合も含みます。) 希望するサービスを3つ以内で選んでください。

#### 【 調査結果 】

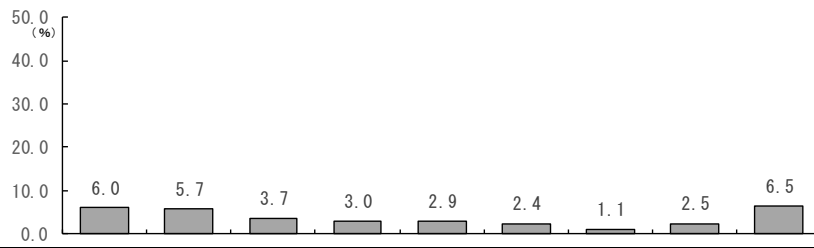
- 全体としては、「富山～羽田便について（新幹線と同等の運賃維持）」が45.5%と最も高く、次いで「有料駐車場の無料化などの駐車場サービス改善」35.8%、「羽田・札幌以外の国内路線の充実」22.9%の順となっている。
- 男女別にみると、男女ともに「富山～羽田便について（新幹線と同等の運賃維持）」が最も高くなっている。女性は、「富山-羽田便について（運航本数の増便や利用しやすいダイヤ設定）」が「羽田・札幌以外の国内路線の充実」よりもやや高くなっている。
- 年齢別にみると、すべての年代で「富山～羽田便について（新幹線と同等の運賃維持）」が最も高くなっている。また、「20～29歳」は「富山-羽田便について（運航本数の増便や利用しやすいダイヤ設定）」、「70歳以上」は「公共交通による空港アクセス利便性の向上」がほかの年代と比べて高くなっている。
- 地域別にみると、すべての地域で「富山～羽田便について（新幹線と同等の運賃維持）」が最も高くなっている。高岡地域、魚津地域では、「富山-羽田便について（運航本数の増便や利用しやすいダイヤ設定）」が「羽田・札幌以外の国内路線の充実」よりもやや高くなっている。

図表 40 富山きときと空港を利用しようと思うサービス



N=1,548  
M.T=222.5%

		(新幹線と同等の運賃維持)	有料駐車場の無料化などの改善	羽田・札幌以外の国内路線の充実	富山羽田便について(運航本数の増や利用しやすいダイヤ設定)	公共交通による空港アクセスの向上	富山羽田便について(国内各地や海外の羽田乗継利便の向上)	空港内の飲食施設やお土産店などの商業施設の充実	国際航空路線の増便または新規路線(近距離)の開設	空港周辺への商業施設の誘致	空港で魅力あるイベントの充実
性別	男性	47.3	34.3	24.9	22.3	13.2	14.6	13.0	8.2	5.7	6.1
	女性	44.9	37.9	21.5	22.8	16.0	14.0	14.0	7.4	7.8	6.9
年齢別	18、19歳	47.5	31.1	23.0	23.0	8.2	6.6	3.3	11.5	8.2	8.2
	20~29歳	45.7	32.5	19.9	30.5	11.9	13.2	14.6	11.3	4.6	11.9
	30~39歳	45.1	34.7	22.8	23.8	11.9	15.5	16.1	8.8	8.8	10.4
	40~49歳	50.7	37.4	27.3	25.9	12.6	10.5	16.8	6.3	6.3	5.9
	50~59歳	48.6	40.4	20.6	22.3	15.2	13.8	11.0	8.5	7.4	4.3
	60~69歳	45.0	35.2	26.3	20.5	16.8	17.7	13.8	7.0	6.1	4.0
	70歳以上	39.5	35.9	19.3	14.8	19.3	16.1	11.7	5.8	6.7	6.3
地域別	富山地域	49.0	35.4	25.1	24.1	12.1	15.1	14.1	7.9	8.0	6.1
	高岡地域	43.3	36.6	20.6	20.8	16.5	15.6	13.6	6.5	5.8	8.4
	魚津地域	40.0	36.9	20.0	22.4	15.9	10.7	14.8	8.3	5.5	4.5
	砺波地域	48.1	33.5	25.9	18.9	14.6	12.4	7.6	9.2	5.9	5.4



		駅等施設内での産直施設「空の駅」の整備	上記に該当するものがない	富山羽田便について(冬季就航率の向上)	飛行機に関する体験会等の実施	航空会社によるサービスの向上	空港内のラウンジやビジネス機能、外貨両替機能の充実	マラソンやサイクリング機能の設置	その他	無回答
性別	男性	5.7	7.0	4.7	2.4	2.8	2.7	0.8	3.2	4.1
	女性	6.5	4.7	2.8	3.6	3.1	2.2	1.4	1.8	6.1
年齢別	18、19歳	3.3	11.5	3.3	4.9	8.2	1.6	0.0	0.0	3.3
	20~29歳	2.0	5.3	2.6	2.6	4.6	4.0	1.3	2.0	3.3
	30~39歳	7.8	7.3	2.6	3.1	3.6	2.1	2.1	1.6	4.1
	40~49歳	7.0	3.5	2.8	5.2	3.1	1.4	1.7	2.8	2.1
	50~59歳	7.8	7.1	3.9	1.4	3.2	3.9	0.0	3.2	2.8
	60~69歳	4.9	6.1	5.2	2.8	0.9	1.5	1.2	3.4	5.5
	70歳以上	6.7	4.5	4.5	2.2	2.2	2.7	0.9	1.8	14.3
地域別	富山地域	7.0	4.8	4.4	2.3	3.0	1.8	0.8	2.0	4.1
	高岡地域	5.4	6.5	3.5	3.9	3.0	2.6	1.1	2.6	6.9
	魚津地域	5.9	6.2	2.8	3.1	2.8	3.8	2.1	3.1	7.9
	砺波地域	4.3	6.5	3.2	2.2	2.7	1.6	0.0	2.7	10.8

### ＜調査結果を受けて＞

今回の調査結果では、東京や首都圏に出かける場合の交通手段について、主に飛行機を利用する方の割合が4.0%で、昨年調査結果に比べて0.9%増加している。

空港利用を増やすためのサービスについては、「富山ー羽田便について（新幹線と同等の運賃維持）」、「有料駐車場の無料化など駐車場のサービス改善」、「羽田・札幌以外の国内路線の充実（西日本方面の開設等）」、「富山ー羽田便について（運行本数の増便や利用しやすいダイヤの設定）」を求める声が多く、飛行機利用者の利便性向上、新規路線開拓などによる航空ネットワークの充実が求められている。

また、「18、19 歳」と「20～29 歳」で「その他の交通機関（高速バス・自家用車など）を利用」の割合が高く、今回の調査結果をふまえ、これらの年代に対する飛行機を利用してもらおう取組みや、公共交通による空港のアクセス利便性向上、隣接地域への交通アクセスの改善など、各種施策に反映させ、富山きときと空港の活性化に取り組んでまいりたい。

## (8) 福祉施策の充実について

### <いま>

本県の人口が減少に転じている中で、高齢者人口（65歳以上）は、今後とも増加し2025年には、3人に1人が高齢者になるものと見込まれる（平成29年の高齢者人口の割合は、31.6%）。

こうした中、平成12年度にスタートした介護保険制度のサービス受給者は、本県では、平成12年度の約21,000人から平成30年度の約56,700人と大幅に増加している。平成30年度では、在宅サービスの受給者が約35,500人（約63%）、地域密着型サービスの利用者が約10,100人（約18%）、施設サービスの受給者が約11,100人（約20%）となっており、全国的にみると、本県は施設サービスの利用者の割合（全国平均で平成29年度は約17%）が高くなっている。

注) 地域密着型サービス：地域（市町村）内のグループホームなどで生活できるようにするサービス。

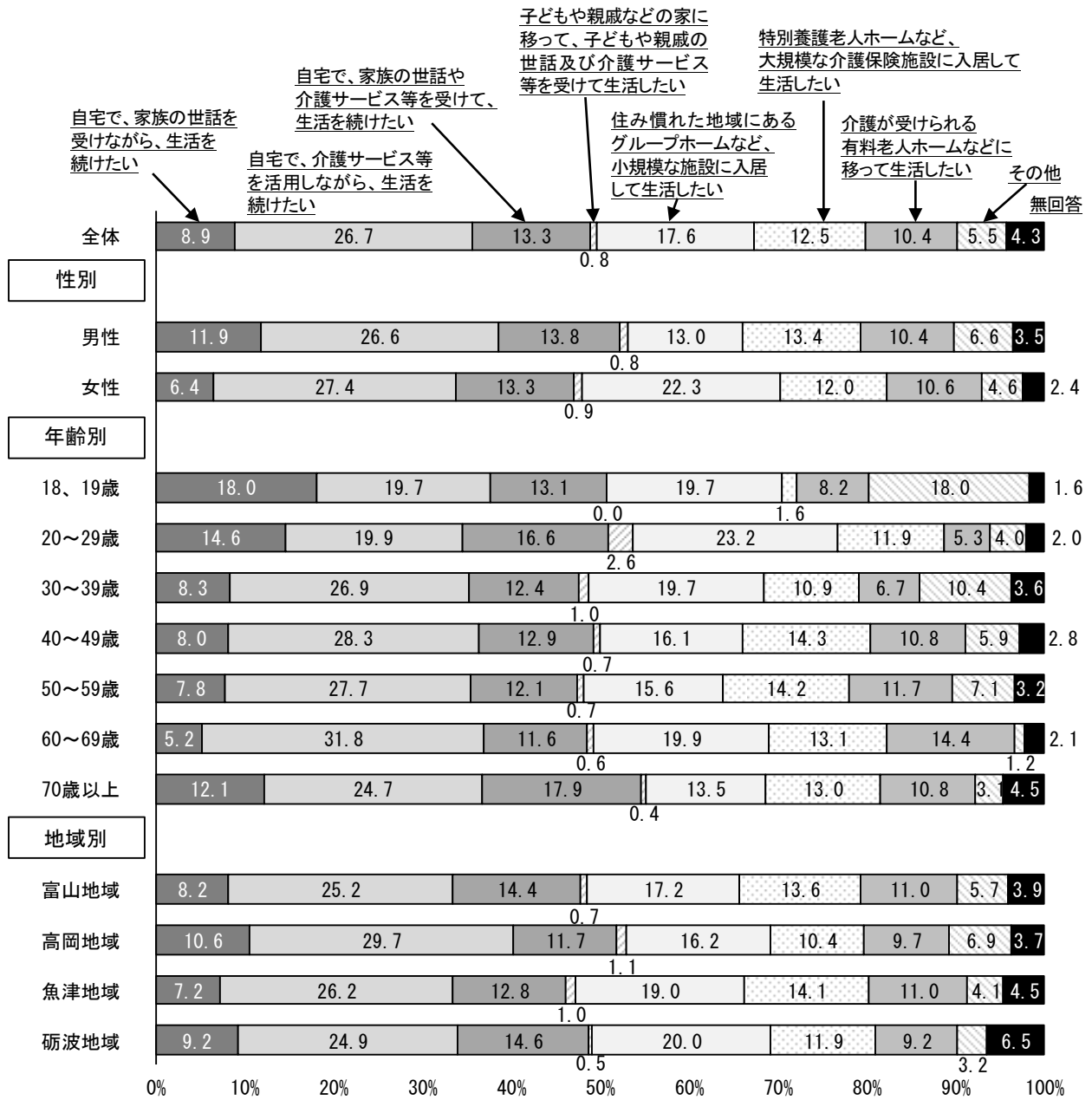
注) 平成30年度の各サービス受給者数は暫定版

問 16-1 あなたは、ご自身の介護が必要になった場合、どのような生活を望みますか。次の中から1つ選んでください。

### 【 調査結果 】

- 全体としては、「自宅で、介護サービス等を活用しながら、生活を続けたい」が26.7%と最も高く、次いで「住み慣れた地域にあるグループホームなど、小規模な施設に入居して生活したい」17.6%、「自宅で、家族の世話や介護サービス等を受けて、生活を続けたい」13.3%の順となっている。
- 男女別にみると、男性は「特別養護老人ホームなど、大規模な介護保険施設に入居して生活したい」「自宅で、家族の世話を受けながら、生活を続けたい」が女性と比べて高く、女性は「住み慣れた地域にあるグループホームなど、小規模な施設に入居して生活したい」が男性と比べて高くなっている。
- 年齢別にみると、「20～29歳」は「住み慣れた地域にあるグループホームなど、小規模な施設に入居して生活したい」が最も高く、「自宅で、介護サービス等を活用しながら、生活を続けたい」よりも上位となっている。また、「18、19歳」は「自宅で、家族の世話を受けながら、生活を続けたい」が他の年代と比べて高くなっている。
- 地域別にみると、ほぼ同じ傾向を示しているが、高岡地域は「自宅で、介護サービス等を活用しながら、生活を続けたい」が他の地域と比べて高くなっている。

図表 41 自身の介護が必要になった場合に望む生活



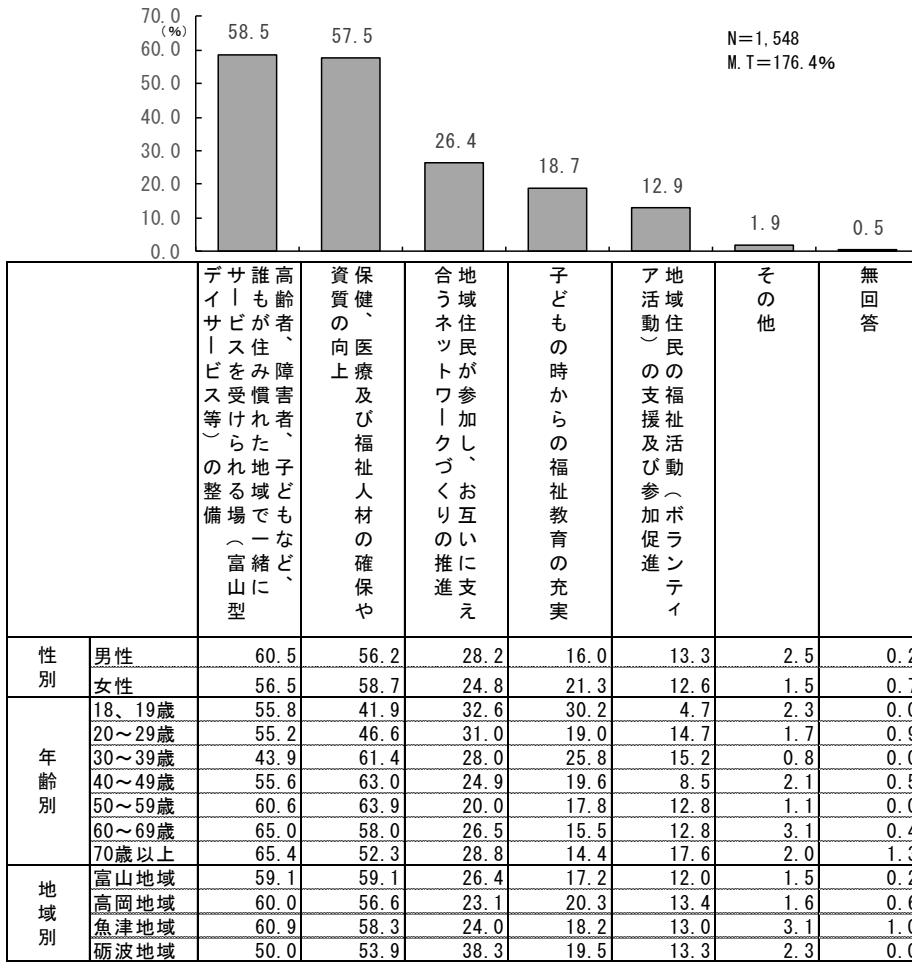
問 16-2 問 16-1 で 1 から 5 までの選択肢を選ばれた方にお聞きします。

誰もが住み慣れた地域で安心して生活するため、取り組むべき課題を、次の中から2つ選んでください。

#### 【 調査結果 】

- 全体としては、「高齢者、障害者、子どもなど、誰もが住み慣れた地域と一緒にサービスを受けられる場（富山型デイサービス等）の整備」が 58.5%と最も高く、次いで「保健、医療及び福祉人材の確保や資質の向上」57.5%、「地域住民が参加し、お互いに支え合うネットワークづくりの推進」26.4%の順となっている。
- 男女別にみると、男性は「高齢者、障害者、子どもなど、誰もが住み慣れた地域と一緒にサービスを受けられる場（富山型デイサービス等）の整備」が最も高く、女性は「保健、医療及び福祉人材の確保や資質の向上」が最も高くなっている。
- 年齢別にみると、30～59 歳は「保健、医療及び福祉人材の確保や資質の向上」が高く、県平均（全体）で最上位の「高齢者、障害者、子どもなど、誰もが住み慣れた地域と一緒にサービスを受けられる場（富山型デイサービス等）の整備」を上回っている。
- 地域別にみると、砺波地域は「保健、医療及び福祉人材の確保や資質の向上」が最も高くなっている。また、「地域住民が参加し、お互いに支え合うネットワークづくりの推進」が他の地域と比べて高くなっている。

図表 42 誰もが住み慣れた地域で安心して生活するため、取り組むべき課題



<調査結果を受けて>

今回の調査結果では、介護が必要となった場合でも、介護サービス等や家族の世話を受けながら自宅や家族等の家で生活を続けたいと回答された方と、地域のグループホームなどへ入居して生活したいと回答された方を合わせ、7割近い人が自宅や住み慣れた地域で生活を続けたいと希望している。

こうした県民の意向に沿って、これまで以上に地域での高齢者の生活を支えるため、富山型デイサービスのよう誰もが住み慣れた地域でサービスを受けられる場の整備や福祉人材の確保など、在宅介護サービス基盤の充実を図るとともに、在宅医療の基盤整備や多様な住まいの確保、地域における自主的な支え合い活動の推進など、地域包括ケアシステムの構築に積極的に取り組んでいく。



## (9) 地産地消について

### <いま>

農業や食に対する関心が高まるなか、生産・供給体制を強化するとともに、県産品の購買気運を高める地産地消の取組みは、大変重要である。

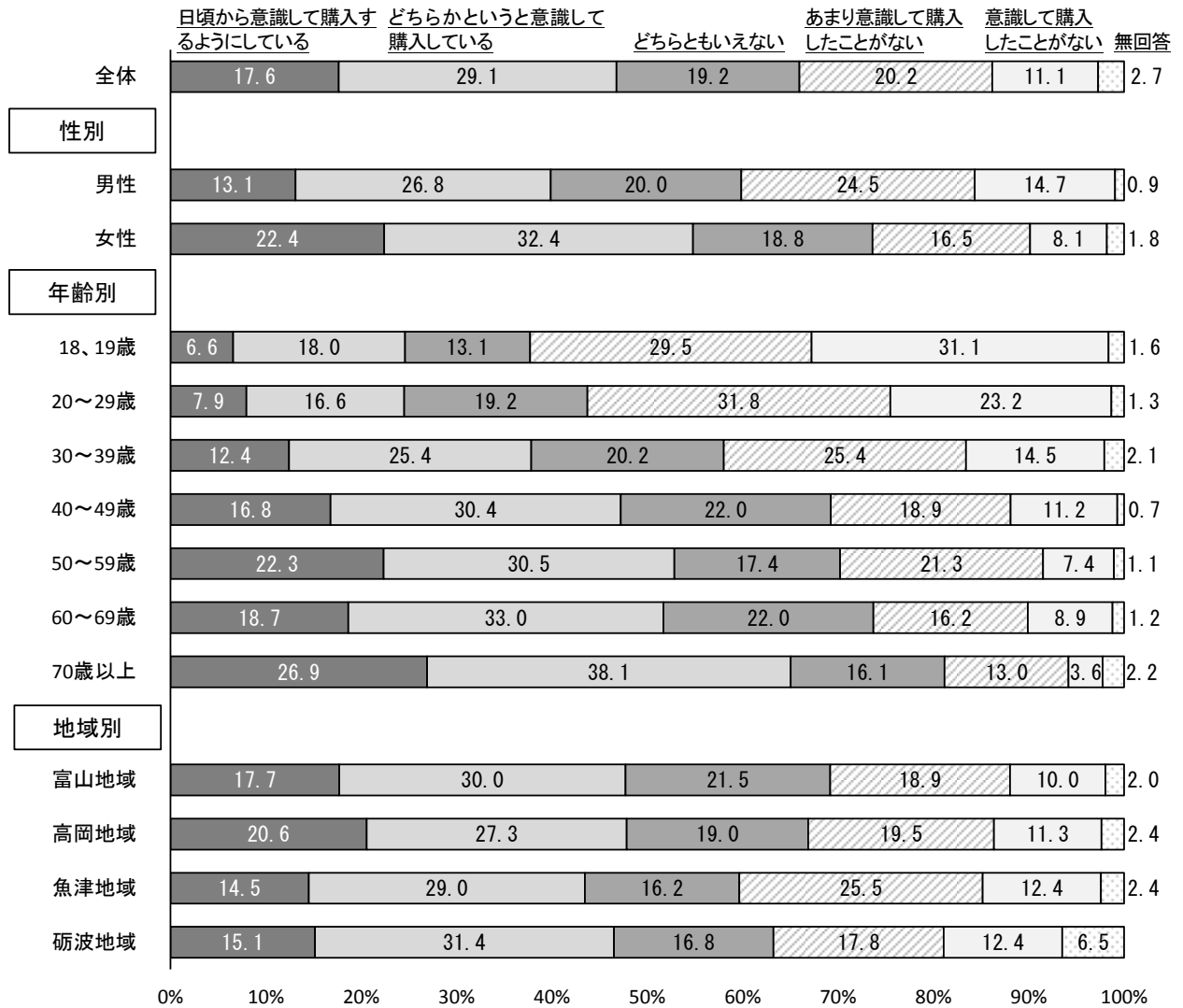
このため、平成 27 年 3 月に策定した「新・とやま地産地消推進戦略」に基づき、消費者ニーズに応じた園芸作物の生産拡大や直売活動の充実、県産食材の優先的購入の促進や学校給食における県産食材の利用促進などに取り組んできている。

問 17-1 あなたは、スーパーなどで買い物するとき、富山県産の農林水産物を意識して購入するよう心がけていますか。次の中から1つ選んでください。

### 【 調査結果 】

- 全体としては、「意識している」（「日頃から意識して購入するようにしている」と「どちらかという意識して購入している」を合算したもの）が 46.7%、「意識していない」（「あまり意識して購入したことがない」と「意識して購入したことがない」を合算したもの）が 31.3%となっている。
- 男女別にみると、女性は「意識している」が 54.8%と男性と比べて高くなっている。
- 年齢別にみると、「意識している」は「18、19 歳」が 24.6%と最も低く、年代が高くなるにつれ高い傾向にあり、「70 歳以上」では 65.0%と最も高くなっている。
- 地域別にみると、高岡地域は「日頃から意識して購入するようにしている」が他の地域と比べて高くなっている。

図表 43 買い物するとき、富山県産の農林水産物を意識して購入するように心がけているか

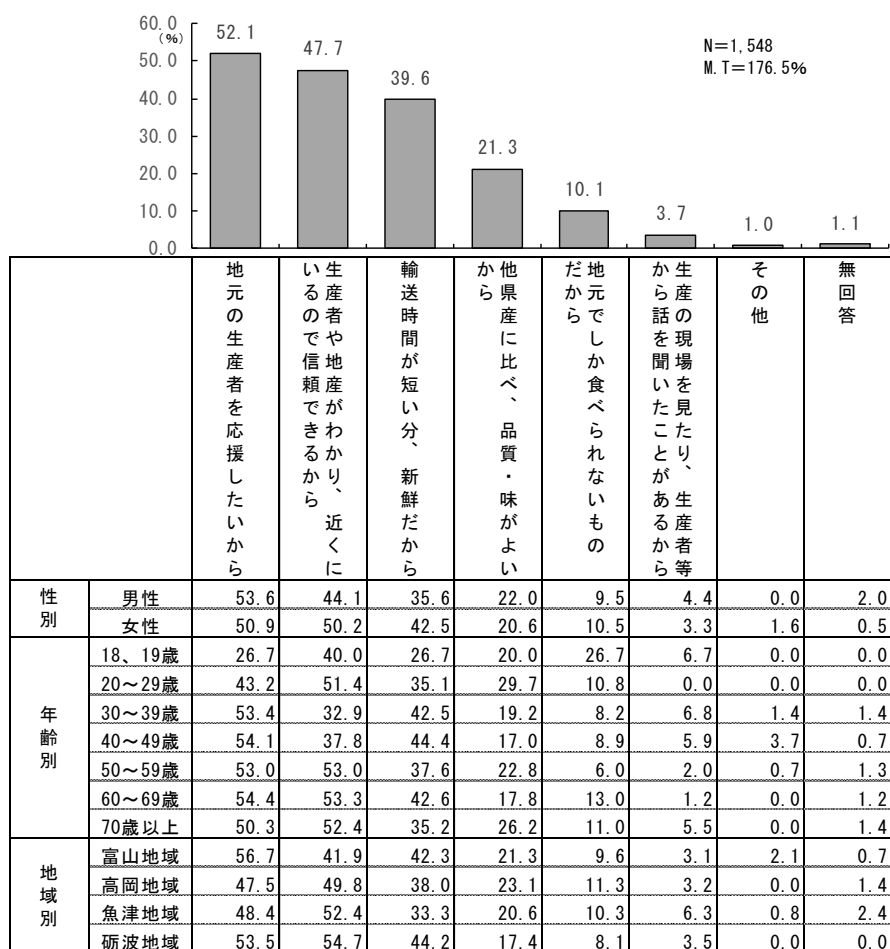


問 17-2 問 17-1 で 1、又は 2 を選んだ方のみお答えください。富山県産の農林水産物を意識して購入する理由を次の中から 2つ以内 で選んでください。

【 調査結果 】

- 全体としては、「地元の生産者を応援したいから」が 52.1%と最も高く、次いで「生産者や産地がわかり、近くにいるので信頼できるから」47.7%、「輸送時間が短い分、新鮮だから」39.6%の順となっている。
- 男女別にみると、女性は「生産者や産地がわかり、近くにいるので信頼できるから」、「輸送時間が短い分、新鮮だから」が男性と比べて高くなっている。
- 年齢別にみると、29 歳以下では「生産者や産地がわかり、近くにいるので信頼できるから」、30 歳以上では「地元の生産者を応援したいから」が最も高くなっている。また、「30～49 歳」は「輸送時間が短い分、新鮮だから」が 2 位となっている。
- 地域別にみると、富山地域以外の地域では全体の最上位である「地元の生産者を応援したいから」より「生産者や産地がわかり、近くにいるので信頼できるから」の方が高くなっている。

図表 44 富山県産の農林水産物を意識して購入する理由

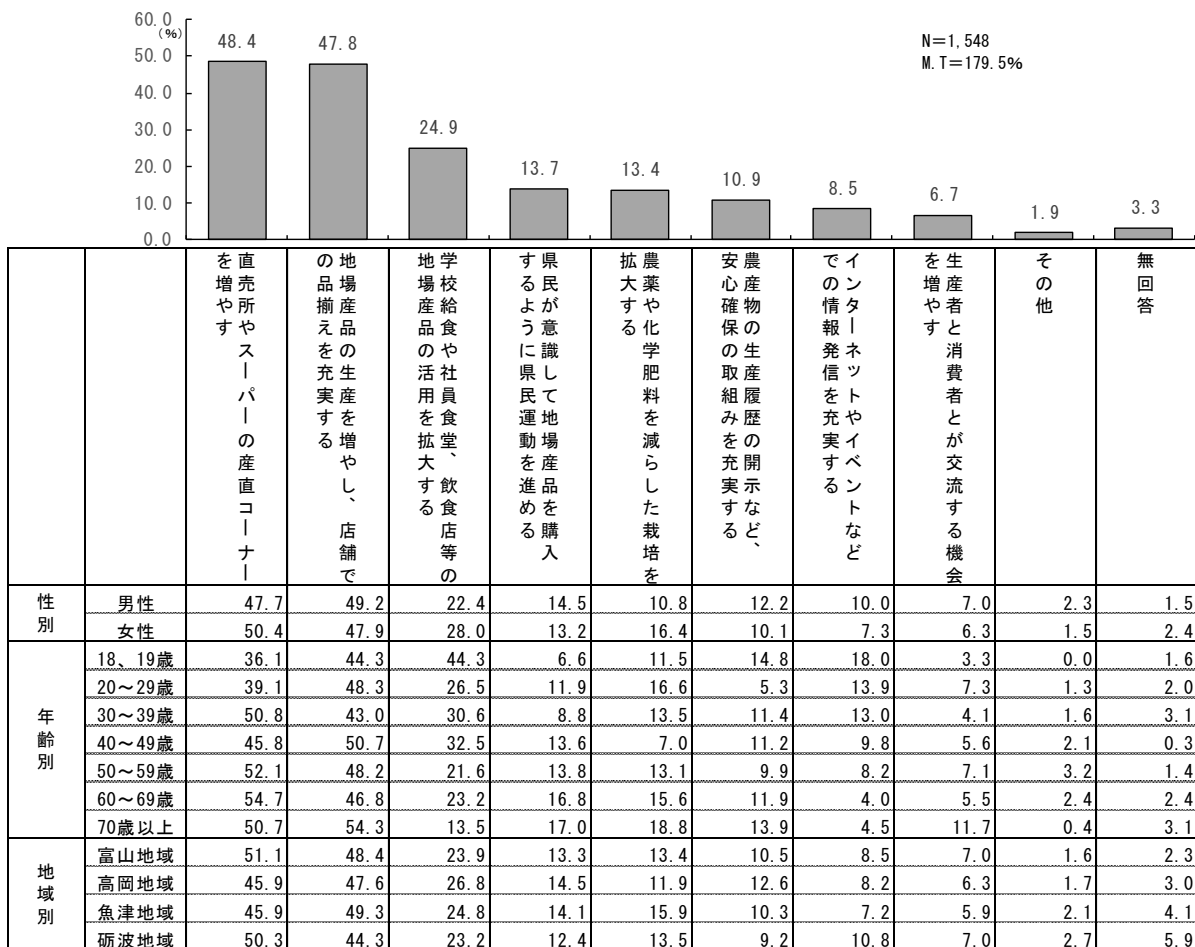


問 18 県では、地産地消を県民運動として推進していますが、あなたは、今後、地産地消を一層進めるために何が必要だと考えますか。次の中から2つ以内で選んでください。

【 調査結果 】

- 全体としては、「直売所やスーパーの産直コーナーを増やす」が 48.4%と最も高く、次いで「地場産品の生産を増やし、店舗での品揃えを充実する」47.8%、「学校給食や社員食堂、飲食店等の地場産品の活用を拡大する」24.9%の順となっている。
- 男女別にみると、男性は「地場産品の生産を増やし、店舗での品揃えを充実する」、女性は「直売所やスーパーの産直コーナーを増やす」が最も高くなっている。
- 年齢別にみると、「18、19 歳」以外の年代では、「直売所やスーパーの産直コーナーを増やす」、「地場産品の生産を増やし、店舗での品揃えを充実する」が上位 2 項目となっているが、「18、19 歳」では、「地場産品の生産を増やし、店舗での品揃えを充実する」と並んで「学校給食や社員食堂、飲食店等の地場産品の活用を拡大する」が最も高くなっている。
- 地域別にみると、富山地域、砺波地域では「直売所やスーパーの産直コーナーを増やす」、高岡地域、魚津地域では「地場産品の生産を増やし、店舗での品揃えを充実する」が最も高くなっている。

図表 45 地産地消を一層進めるために必要と考えること



### <その他意見>

求めやすい価格設定
商品力の強化
生産者を増やす努力

### <調査結果を受けて>

今回の調査結果では、富山県産の農林水産物を「日頃から意識して購入するようにしている」との回答の割合が約 18%、「どちらかという意識して購入している」との回答（約 29%）と合わせると、約 47%と前回（平成 26 年度）調査時より減少がみられる。

県産農林水産物を意識して購入している割合を年代別にみると、10～20 歳代の若者世代が、約 25%と低く、また 60 歳代では、前回調査より 16 ポイント減少している。

県ではこうした県民の地産地消に対する意識の状況を踏まえ、若者世代を対象とした食育実践活動（食育講座や調理体験等）や、高齢者世代を対象とした食と健康や正しい食習慣に関する食育講座など、今後ともライフステージに応じた施策を実施するとともに、地場産品の品揃えの充実や直売所やスーパーの産直コーナーの増設などの要望意見も踏まえ、生産者や流通業者など関係機関・団体等とも連携して、県民ぐるみの運動として、地産地消の一層の推進に努めていく。

## (10) 食品ロスの削減について

### <いま>

日本では本来食べられるのに廃棄される「食品ロス」は、年間約 643 万トン（平成 28 年度農林水産省推計）と試算されており、資源・環境等の観点から大きな問題となっている。

平成 28 年 5 月に本県で開催された G7 環境大臣会合において、食品や化石燃料を含むあらゆる資源の使用量の削減や循環的な利用の拡大を目指す「富山物質循環フレームワーク」が採択され、その中で、食品ロス・食品廃棄物の削減促進、効果的なりサイクルなどを着実に実施することとされた。

県では、食品ロス・食品廃棄物の削減を進めるため、平成 29 年 5 月に有識者や事業者・消費者の関係団体などで構成する「富山県食品ロス・食品廃棄物削減推進県民会議」を設置し、また、平成 30 年 11 月には同会議のもとに「商慣習検討専門部会」を設置し、県民総参加の運動として取り組んでいる。

平成 31 年 3 月には、同専門部会での検討を踏まえ、食品ロス発生の大きな要因とされている「1/3 ルール」などの商慣習の見直しに向けて、全国に先駆けて、食品関連事業者、消費者、行政による共同宣言を行った。

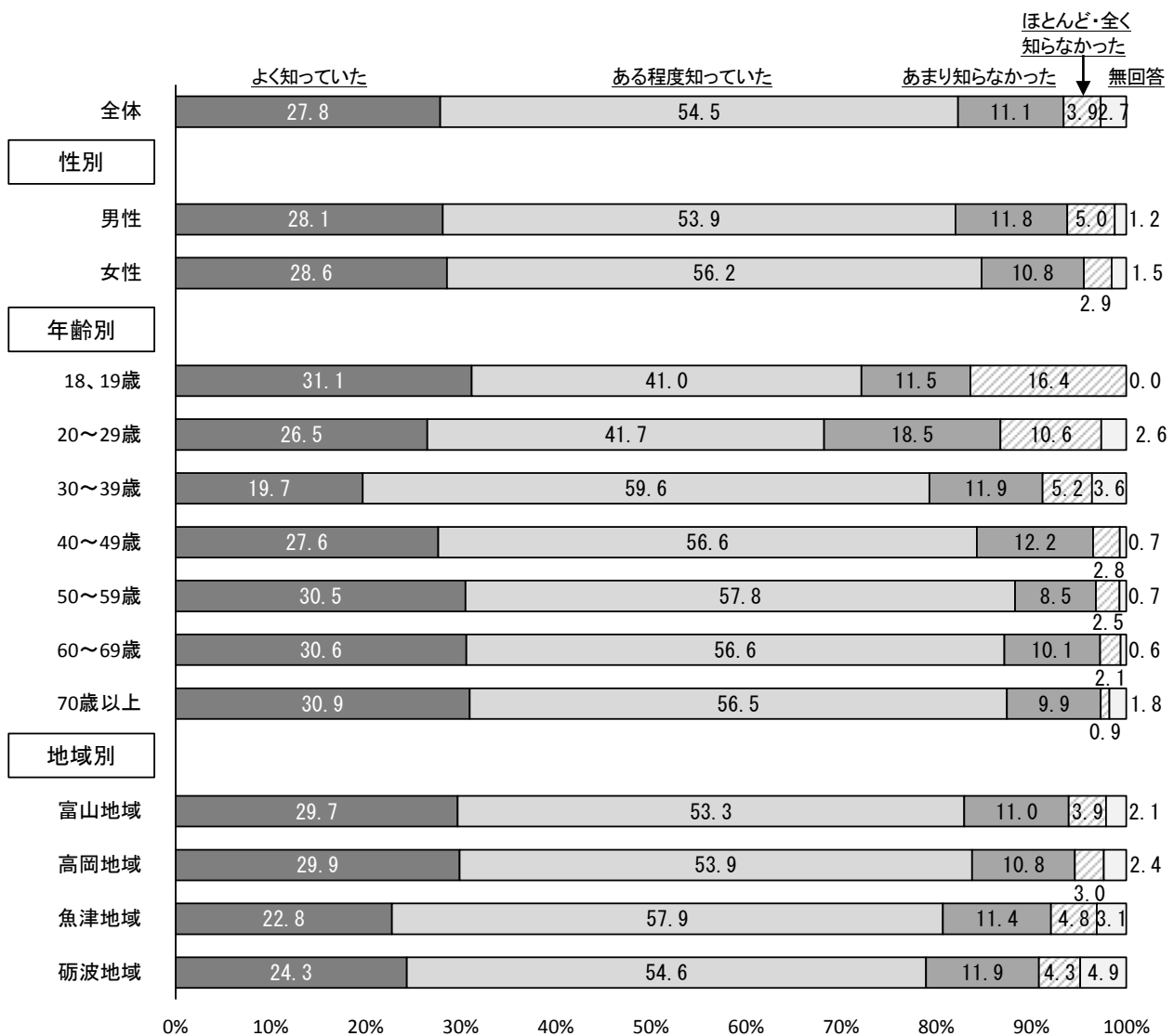
なお、国民運動として食品ロスの削減を推進するため、令和元年 10 月に「食品ロス削減推進法」が施行されている。

問 19-1 あなたは、「食品ロス」が問題となっていることを知っていましたか。次の中からあてはまるものを 1 つ選んでください。

### 【 調査結果 】

- 全体としては、『知っていた』（「よく知っていた」と「ある程度知っていた」を合算したもの）が 82.3%、『知らなかった』（「あまり知らなかった」と「ほとんど・全く知らなかった」を合算したもの）が 15.0%となっている。
- 男女別では、ほぼ同様の傾向を示しているが、女性は『知っていた』が男性と比べてやや高くなっている。
- 年齢別にみると、『知っていた』は「30～39 歳」で約 8 割、40 歳以上で 8 割以上となっている。
- 地域別にみると富山地域、高岡地域は魚津地域、砺波地域と比べて「よく知っていた」が高くなっている。

図表 46 「食品ロス」が問題になっていることの認知度



問 19-2 問 19-1 で「1. よく知っていた」「2. ある程度知っていた」と回答された方にお聞きします。食品流通段階における納品や販売の期限に関する「1/3ルール」といった商慣習が食品ロス発生の大きな要因となっていることから、本県では、全国に先駆けて、平成 31 年 3 月に食品関連事業者、消費者、行政が連携して取り組むこととする「商慣習見直し等に関する共同宣言」が行われました。

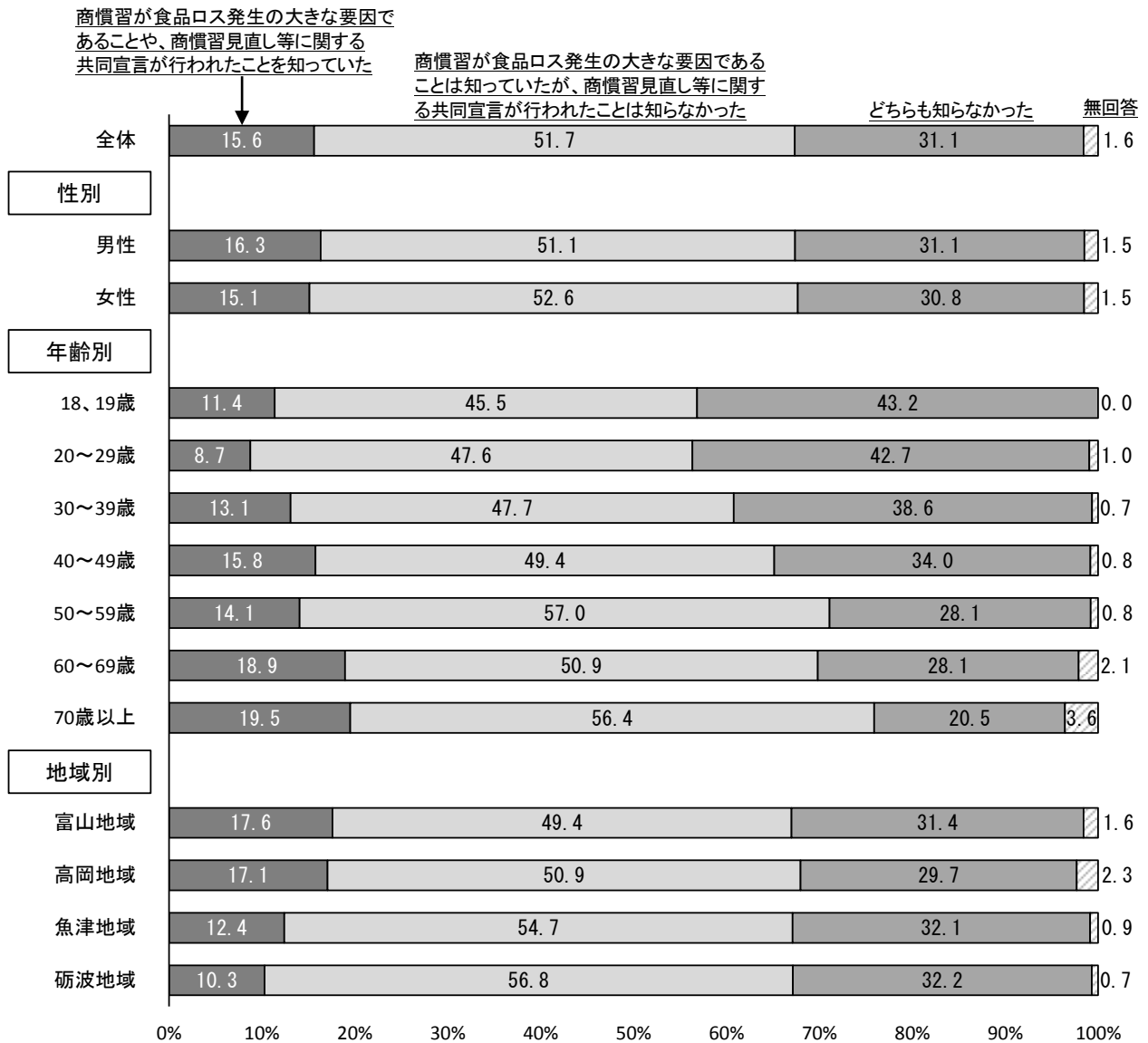
あなたは、商慣習が食品ロス発生の大きな要因であることや商慣習見直しに関する共同宣言が行われたことを知っていましたか。次の中からあてはまるものを1つ選んでください。

#### 【 調査結果 】

- 全体としては、「商慣習が食品ロス発生の大きな要因であることは知っていたが、商慣習見直し等に関する共同宣言が行われたことは知らなかった」が、51.7%、「どちらも知らなかった」が 31.1%、「商慣習が食品ロス発生の大きな要因であることや、商慣習見直し等に関する共同宣言が行われたことを知っていた」が 15.6%となっている。
- 男女別では、男性は「商慣習が食品ロス発生の大きな要因であることや、商慣習見直し等に関する共同宣言が行われたことを知っていた」が女性と比べてやや高くなっている。
- 年齢別にみると、「どちらも知らなかった」は年代が高くなるにつれ低くなっている。
- 地域別にみると、富山地域、高岡地域は「商慣習が食品ロス発生の大きな要因であることや、商慣習見直し等に関する共同宣言が行われたことを知っていた」がやや高くなっている。



図表 47 商慣習が食品ロス発生の大きな要因であることや商慣習見直しに関する共同宣言が行われたことの認知度

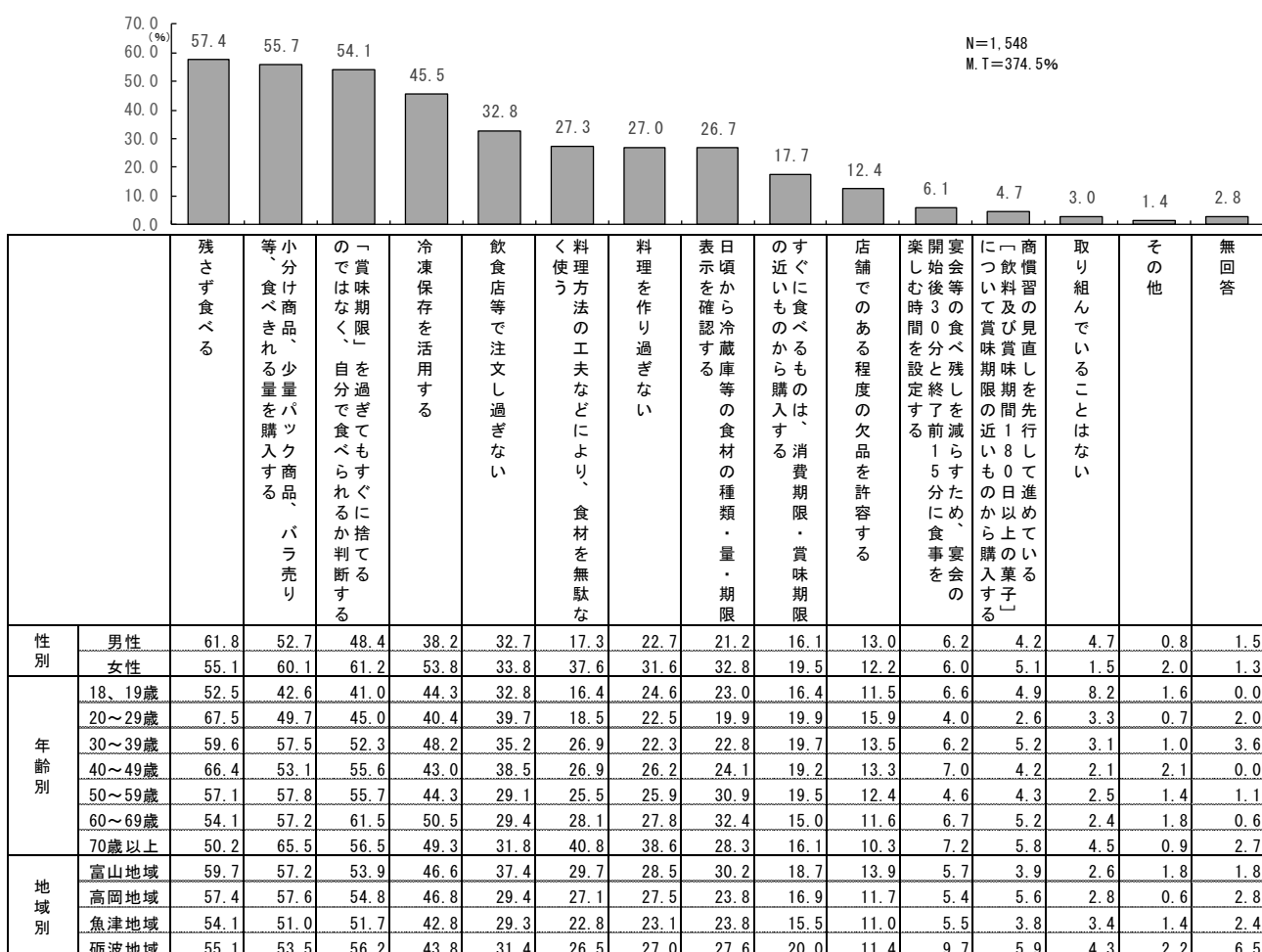


問 20 「食品ロス」の軽減につながる以下の工夫の中で、あなたが取り組んでいることはありますか。  
次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

【 調査結果 】

- 全体としては、「残さず食べる」が 57.4%と最も高く、次いで「小分け商品、少量パック商品、バラ売り等、食べきれぬ量を購入する」55.7%、「『賞味期限』を過ぎててもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する」54.1%の順となっている。
- 男女別にみると、男性は「残さず食べる」、女性は「『賞味期限』を過ぎててもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する」が最も高くなっている。
- 年齢別にみると 50 歳未満では「残さず食べる」、「50～59 歳」及び「70 歳以上」では「小分け商品、少量パック商品、バラ売り等、食べきれぬ量を購入する」、「60～69 歳」では、「『賞味期限』を過ぎててもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する」が最も高くなっている。
- 地域別にみると、上位 3 項目はいずれの地域でも 50%を超えているが、富山地域、魚津地域は「残さず食べる」、高岡地域は「小分け商品、少量パック商品、バラ売り等、食べきれぬ量を購入する」、砺波地域は「『賞味期限』を過ぎててもすぐに捨てるのではなく、自分で食べられるか判断する」が最も高くなっている。

図表 48 取り組んでいる「食品ロス」の軽減につながる工夫



### ＜調査結果を受けて＞

今回の調査結果では、「よく知っていた」と「ある程度知っていた」を合わせた「食品ロスが問題となっていることを知っていた」人の割合は約 82%で昨年度(約 71%)に比べ 11 ポイントアップし、特に 40 歳代の伸びが著しかった(68%→84%)。今後、認知度の向上を図るため、伸び率の低い若年層への働きかけも行ってまいりたい。

また、「商慣習が食品ロス発生の大きな要因であることを知っていた」人の割合は約 67%であった。商慣習の見直しを推進するには消費者の理解が必要であることから、今後も周知啓発に努めてまいりたい。

なお、食品ロスの軽減につながる取組みの中で、「すぐに食べるものは、消費期限・賞味期限の近いものから購入する」、「店舗でのある程度の欠品を許容する」、「宴会時の食べ残しを減らすため、「3015 運動」などの取組みを実践する」、「商慣習の見直しを先行して進めている「飲料及び賞味期間 180 日以上菓子」について賞味期限の近いものから購入する」と回答した人の割合が低いことから、期限の近接した商品の優先購入促進や宴会時等の食べきり運動の一層の推進に取り組んでまいりたい。

## (11) 犯罪の予防について

### <いま>

富山県の刑法犯認知件数は、平成13年をピークに17年連続で減少し、平成30年は戦後最少を更新、令和元年も減少傾向が続いている。また、特殊詐欺の認知件数及び被害金額も減少傾向にある。

一方、児童虐待事案が増加傾向にあり、ストーカー・DV事案や子供・女性に対する声掛け、つきまとい事案も高止まり傾向にあるほか、特殊詐欺の被害では、依然として高齢者が半数以上を占めるなど、深刻な状況が続いている。

県警察では、これらの犯罪に対する検挙活動を強化するとともに、関係機関と連携した子供や女性の保護対策、通学時間帯におけるパトロールや見守り活動、犯罪等発生時のタイムリーな情報提供、高齢者を取り巻く幅広い世代に対する広報啓発などの取組を推進している。

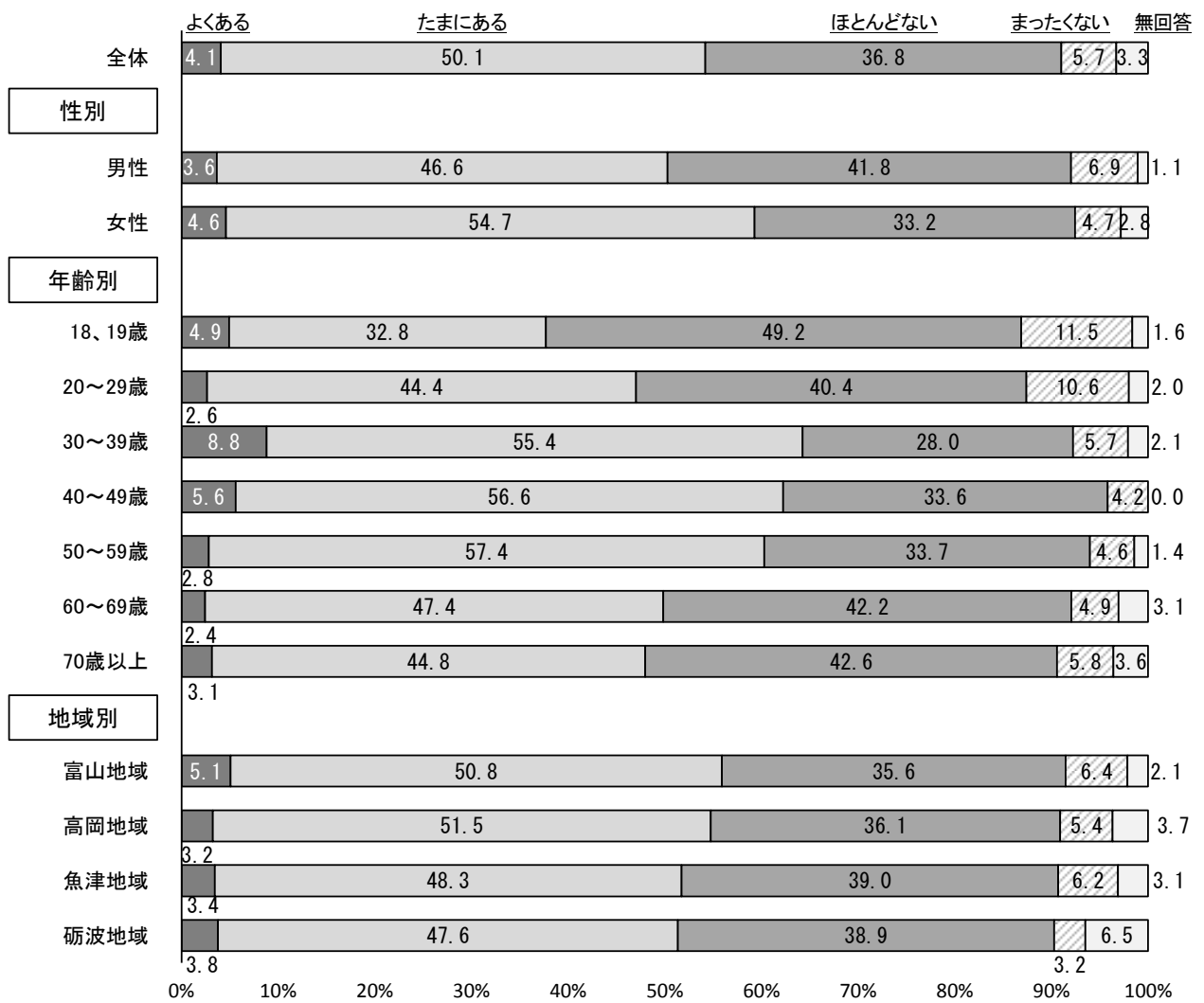
また、「県安全なまちづくり条例」に基づき、県、市町村、関係機関・団体と連携し、防犯ボランティアに対する防犯情報の提供、活動に対する支援・顕彰や定期的な研修会の開催などの各種支援に努めている。

問 21-1 あなたは、自分や家族が、犯罪の被害に遭うのではないかと不安を感じることがありますか。次の中から1つ選んでください。

### 【 調査結果 】

- 全体としては、『ある』（「よくある」と「たまにある」を合算したもの）が54.2%、『ない』（「ほとんどない」と「まったくない」を合算したもの）が42.5%となっている。
- 男女別にみると、女性は『ある』が59.3%と男性と比べて高くなっている。
- 年齢別にみると、『ある』は「30～39歳」が64.2%と最も高く、「18、19歳」が37.7%と最も低くなっている。
- 地域別では、すべての地域で『ある』が50%を超えているが、富山地域、高岡地域で『ある』がやや高くなっている。

図表 49 犯罪の被害に遭うことへの不安感

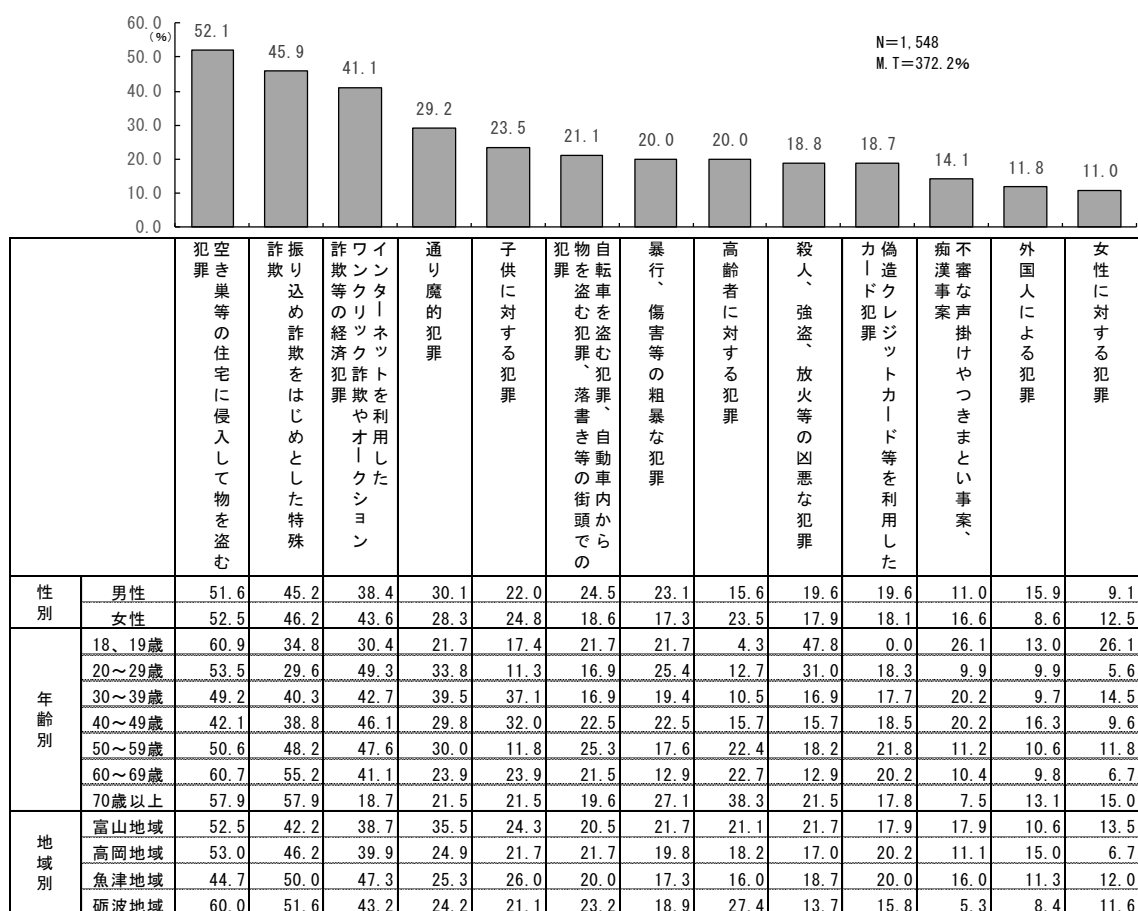


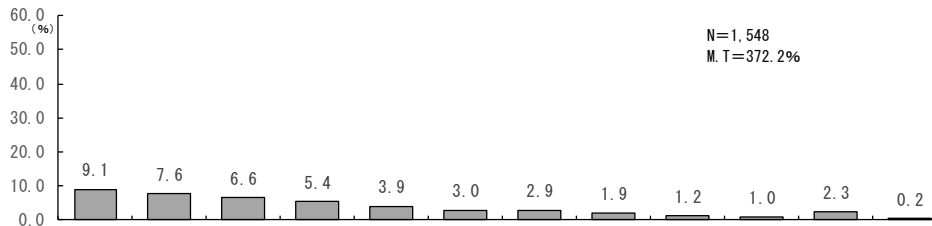
問 21-2 問 21-1 で「1. よくある」「2. たまにある」と回答された方にお聞きします。どのような犯罪に不安を感じますか。次の中から5つ以内で選んでください。

【 調査結果 】

- 全体としては、「空き巣等の住宅に侵入して物を盗む犯罪」が 52.1%と最も高く、次いで「振り込め詐欺をはじめとした特殊」45.9%、「インターネットを利用したワンクリック詐欺やオークション詐欺等の経済犯罪」41.1%の順となっている。
- 男女別にみると、上位4項目は同じであるが、男性は「自転車を盗む犯罪、自動車内から物を盗む犯罪、落書き等の街頭での犯罪」、「暴行、傷害等の粗暴な犯罪」、「外国人による犯罪」、「ごみの不法投棄等の環境犯罪」が女性と比べて高く、女性は「インターネットを利用したワンクリック詐欺やオークション詐欺等の経済犯罪」、「高齢者に対する犯罪」、「不審な声掛けやつきまとい事案、痴漢事案」が男性と比べて高くなっている。
- 年齢別にみると、「40～49 歳」は「インターネットを利用したワンクリック詐欺やオークション詐欺等の経済犯罪」、他の年代は「空き巣等の住宅に侵入して物を盗む犯罪」が最も高くなっている。また、60 歳以上では「空き巣等の住宅に侵入して物を盗む犯罪」、「振り込め詐欺をはじめとした特殊詐欺」がともに 50%を超えている。
- 地域別にみると、富山地域、高岡地域、砺波地域では、「空き巣等の住宅に侵入して物を盗む犯罪」が最も高く、次いで「振り込め詐欺をはじめとした特殊詐欺」の順、魚津地域は「振り込め詐欺をはじめとした特殊」が最も高く、次いで「インターネットを利用したワンクリック詐欺やオークション詐欺等の経済犯罪」の順となっている。

図表 50 不安を感じる犯罪





		ごみの不法投棄等の環境犯罪	ヤミ金融、悪質訪問販売業者等による悪質商法事案	テロ等が集まる場所やイベントでの無差別殺傷事案	インターネットを利用した児童買春やリベンジボルト等の性的犯罪	ストーカー、DV事案	少年による犯罪	暴走族等若者による暴走犯罪	麻薬、覚せい剤、危険ドラッグ等の薬物犯罪	拳銃を使用した犯罪	暴力団による組織犯罪	その他	無回答
性別	男性	13.4	8.9	4.6	5.1	3.8	4.3	4.6	1.9	1.3	1.3	2.2	0.0
	女性	5.6	6.7	8.2	5.6	4.1	1.9	1.5	1.9	1.1	0.6	2.4	0.4
年齢別	18、19歳	0.0	0.0	4.3	0.0	21.7	0.0	0.0	4.3	8.7	0.0	0.0	0.0
	20～29歳	5.6	1.4	8.5	4.2	4.2	4.2	2.8	0.0	1.4	0.0	0.0	0.0
	30～39歳	5.6	4.8	10.5	4.8	0.8	3.2	2.4	1.6	0.8	0.0	4.0	0.0
	40～49歳	6.2	6.7	4.5	7.9	5.1	3.4	2.8	3.4	1.1	1.1	2.2	0.6
	50～59歳	10.0	8.2	5.9	1.8	4.1	2.9	3.5	1.8	1.8	1.8	4.1	0.0
	60～69歳	13.5	11.7	8.6	8.6	2.5	1.8	3.1	0.6	0.0	1.2	1.8	0.0
	70歳以上	14.0	11.2	2.8	4.7	3.7	3.7	2.8	2.8	0.9	0.9	0.0	0.9
地域別	富山地域	7.0	7.3	7.0	4.4	3.5	2.6	2.9	2.1	1.5	1.5	2.3	0.3
	高岡地域	9.9	5.5	7.9	3.2	4.3	3.6	2.0	1.2	1.2	0.8	2.0	0.0
	魚津地域	12.7	12.0	5.3	9.3	6.0	4.0	4.0	0.7	1.3	0.7	2.7	0.0
	砺波地域	8.4	7.4	3.2	8.4	1.1	1.1	3.2	5.3	0.0	0.0	2.1	1.1

### <調査結果を受けて>

犯罪被害に不安を感じる人の割合が、前回（平成30年度）より増加し、5割超となっている。また、不安を感じる犯罪の上位は、住宅に侵入する犯罪、特殊詐欺事案、インターネットを利用した犯罪と前回同様であったが、中でも特殊詐欺事案に対する不安の割合が伸びている。

県警察では、引き続き、犯罪に対する検挙活動を徹底するとともに、県や関係機関・団体と連携し、犯罪発生実態等を踏まえたパトロールや情報発信のほか、施錠の呼び掛けや防犯カメラの設置促進、特殊詐欺に対する広報啓発活動や水際対策、産学官連携によるサイバーセキュリティ対策など、総合的な犯罪抑止対策を推進し、県民の不安感の解消に努めてまいりたい。

### 3 意識調査

問 22 次の設問について、あなたが普段どのように感じられたり、どのように思ったりされているかお聞かせください。

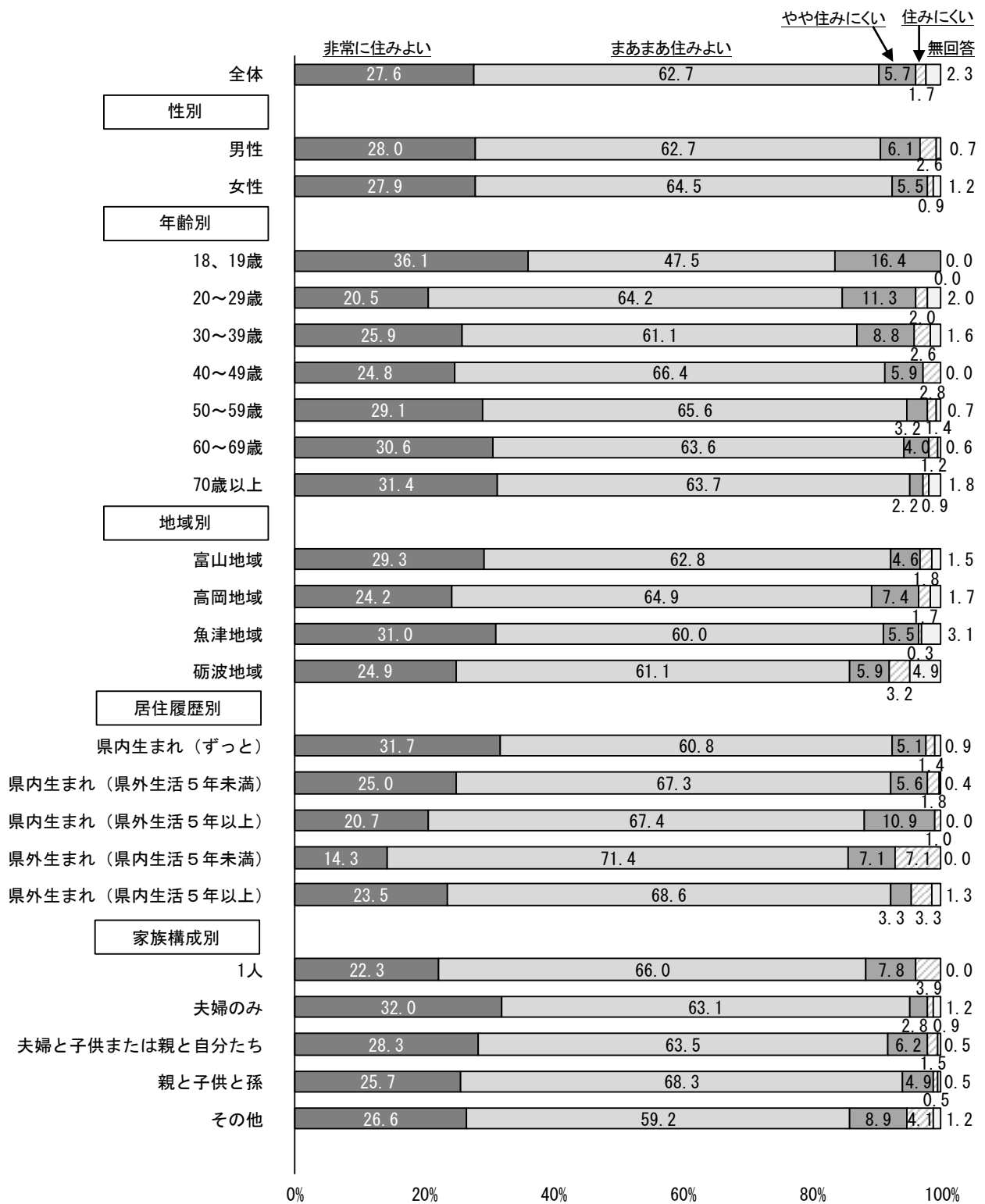
(1) あなたは、富山県は住みよい県だと思いますか。次の中から1つ選んでください。

#### 【 調査結果 】

- 全体としては、『住みよい』（「非常に住みよい」と「まあまあ住みよい」を合算したもの）が 90.3% と約 9 割を占めている。
- 男女別では、ほぼ同様の傾向を示しており、差異は見られなかった。
- 年齢別にみると、「18、19 歳」は「非常に住みよい」が 36.1% と他の年代に比べて高くなっている。40 歳以上の年代で『住みよい』が 9 割を超えている。
- 地域別にみると、魚津地域は「非常に住みよい」が他の地域に比べて高くなっている。『住みよい』は富山地域、魚津地域で 9 割を超え、高岡地域、砺波地域でも 9 割程度となっている。
- 居住履歴別にみると、「県内生まれ（ずっと）」は「非常に住みよい」が 31.7% と他の居住履歴に比べて高くなっている。
- 家族構成別にみると、「夫婦のみ」は「非常に住みよい」が 32.0% と他の家族構成に比べて高くなっている。



図表 51 県の住みよさに関する意識

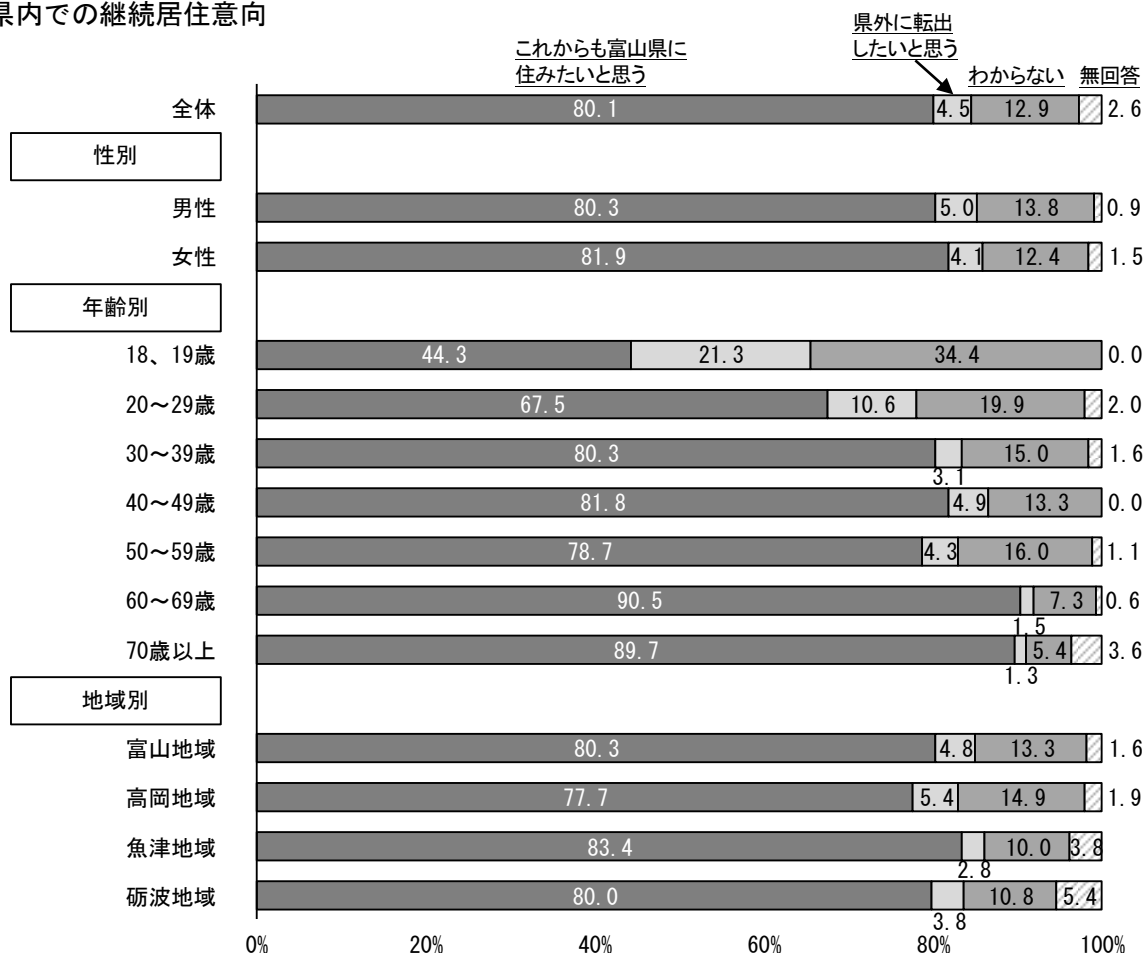


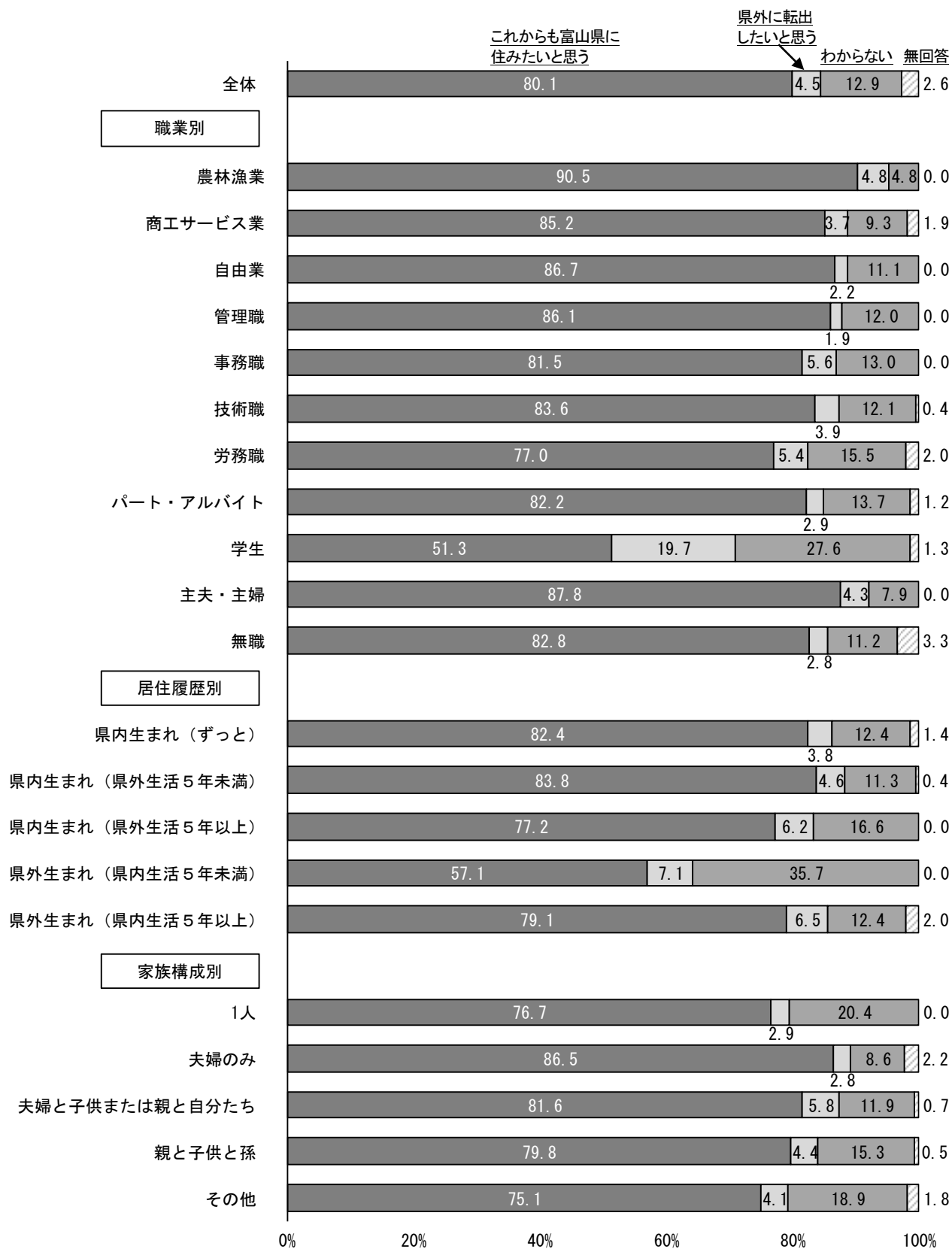
(2) これからも富山県に住みたいと思われませんか。次の中から1つ選んでください。(通学、転勤等により県外に転出される予定がある方についても、ご自身の意識としてお答えください。)

【 調査結果 】

- 全体としては、「これからも富山県に住みたいと思う」が80.1%となっている。
- 男女別では、ほぼ同様の傾向を示しているが、女性は「これからも富山県に住みたいと思う」が男性と比べてやや高くなっている。
- 年齢別にみると、「18, 19歳」は「これからも富山県に住みたいと思う」が50%未満、「20～29歳」が約7割、30～59歳は概ね8割、「60歳以上」は概ね9割となっている。
- 地域別では、ほぼ同様の傾向を示しているが、高岡地域は「県外に転出したいと思う」がやや高くなっている。
- 職業別にみると、「学生」は「これからも富山県に住みたいと思う」が51.3%と他の職業に比べて低く、「県外に転出したいと思う」が19.7%と他の職業に比べて高くなっている。
- 居住履歴別にみると、「県外生まれ（県内生活5年未満）」は、「これからも富山県に住みたいと思う」が57.1%と他の居住履歴に比べて低くなっている。
- 家族構成別にみると、「夫婦のみ」は「これからも富山県に住みたいと思う」が86.5%と他の家族構成に比べて高くなっている。

図表 52 県内での継続居住意向



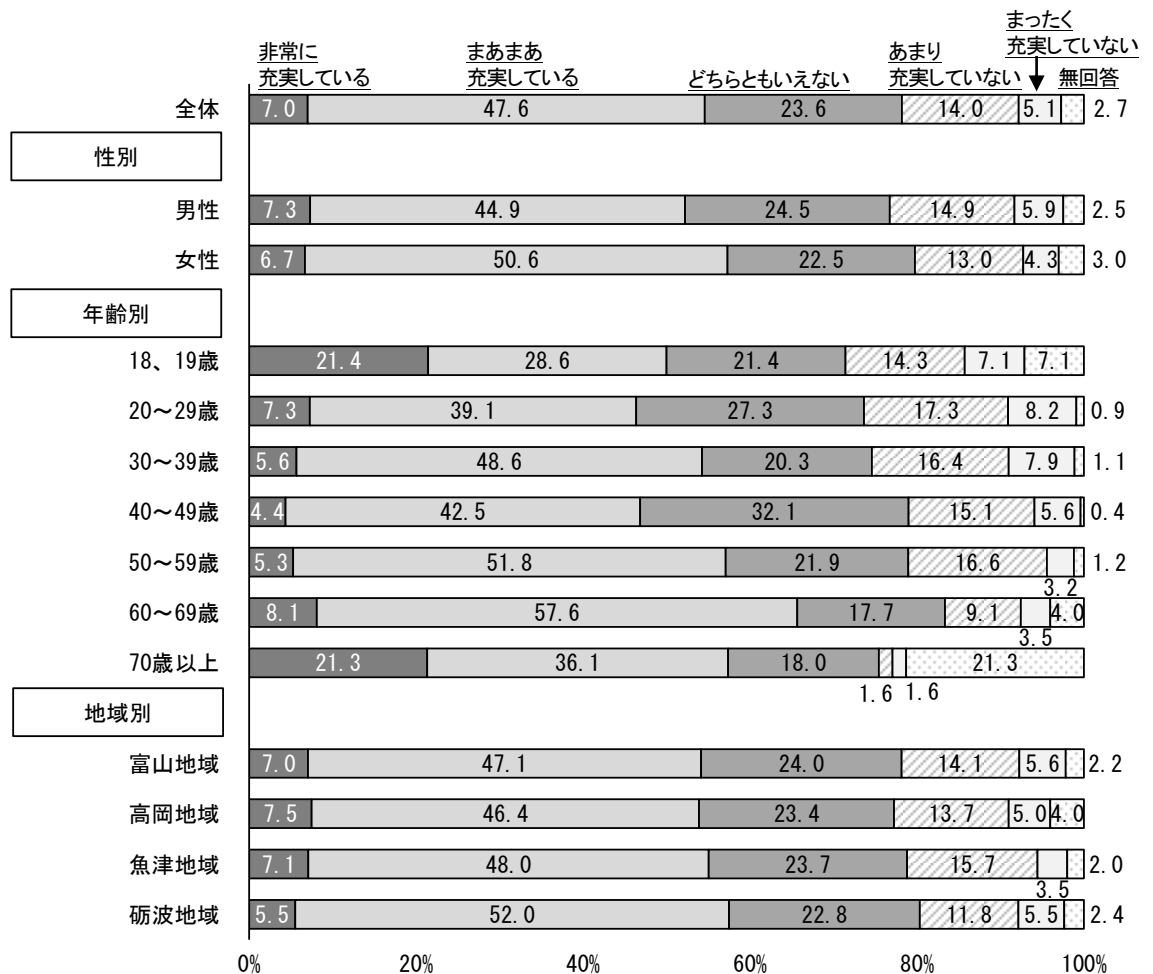


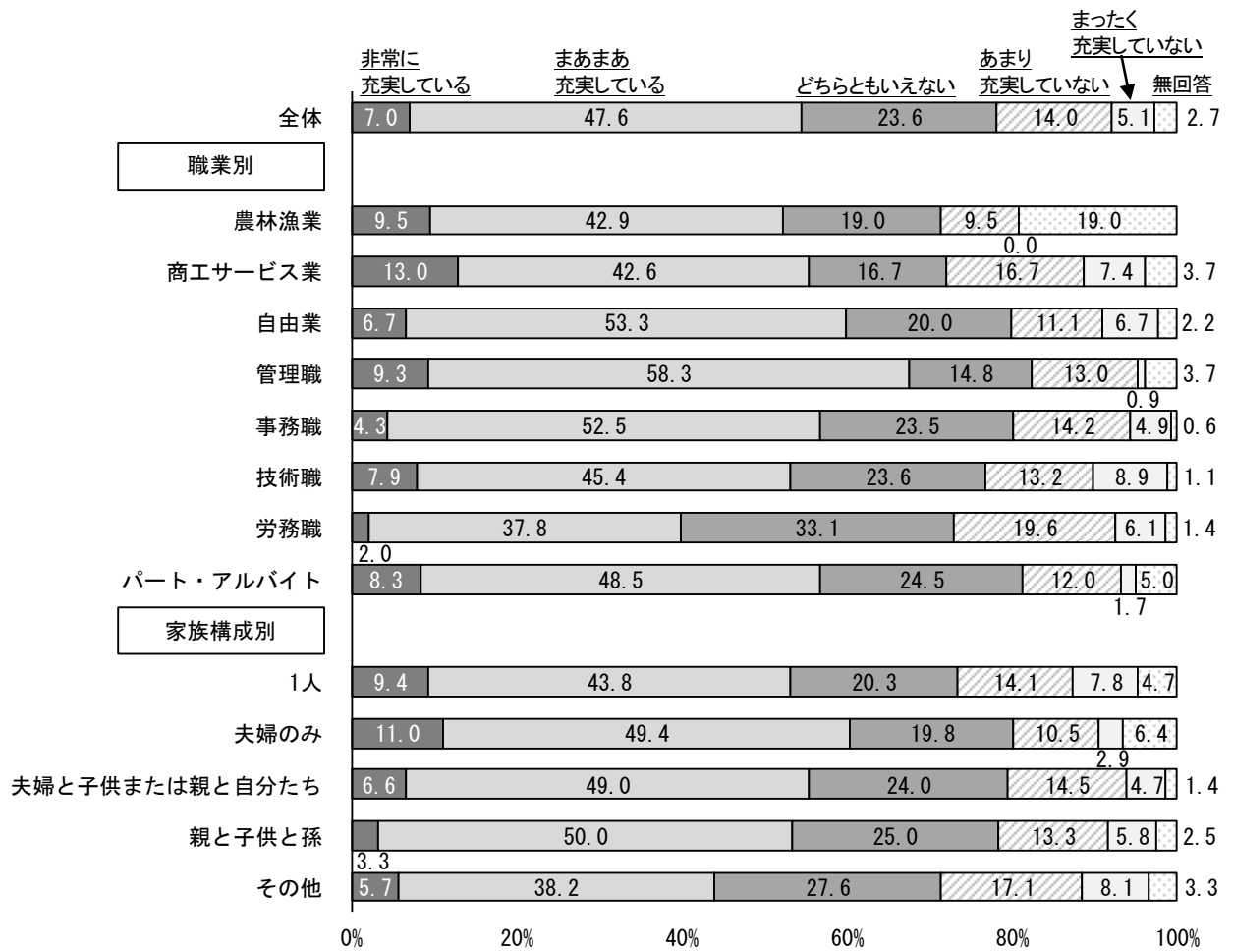
(3) 仕事をなさっている方にお聞きします。あなたは、仕事に充実感（満足感）を感じていますか。次の中から1つ選んでください。

【 調査結果 】

- 全体としては、『充実している』（「非常に充実している」と「まあまあ充実している」を合算したもの）が54.6%、「どちらともいえない」が23.6%、『充実していない』（「あまり充実していない」と「まったく充実していない」を合算したもの）が19.1%となっている。
- 男女別にみると、女性は『充実している』が57.3%と男性と比べて高くなっている。
- 年齢別にみると、『充実している』は「60～69歳」が65.7%と最も高く、「20～29歳」が46.4%と最も低くなっている。
- 地域別では、ほぼ同様の傾向となっているが、『充実している』は砺波地域がやや高くなっている。
- 職業別にみると、『充実している』は「管理職」が67.6%と最も高く、「労務職」が39.8%と最も低くなっている。
- 家族構成別にみると、「夫婦のみ」は『充実している』が60.4%と他の家族構成に比べて高くなっている。

図表 53 仕事への充実感（満足感）



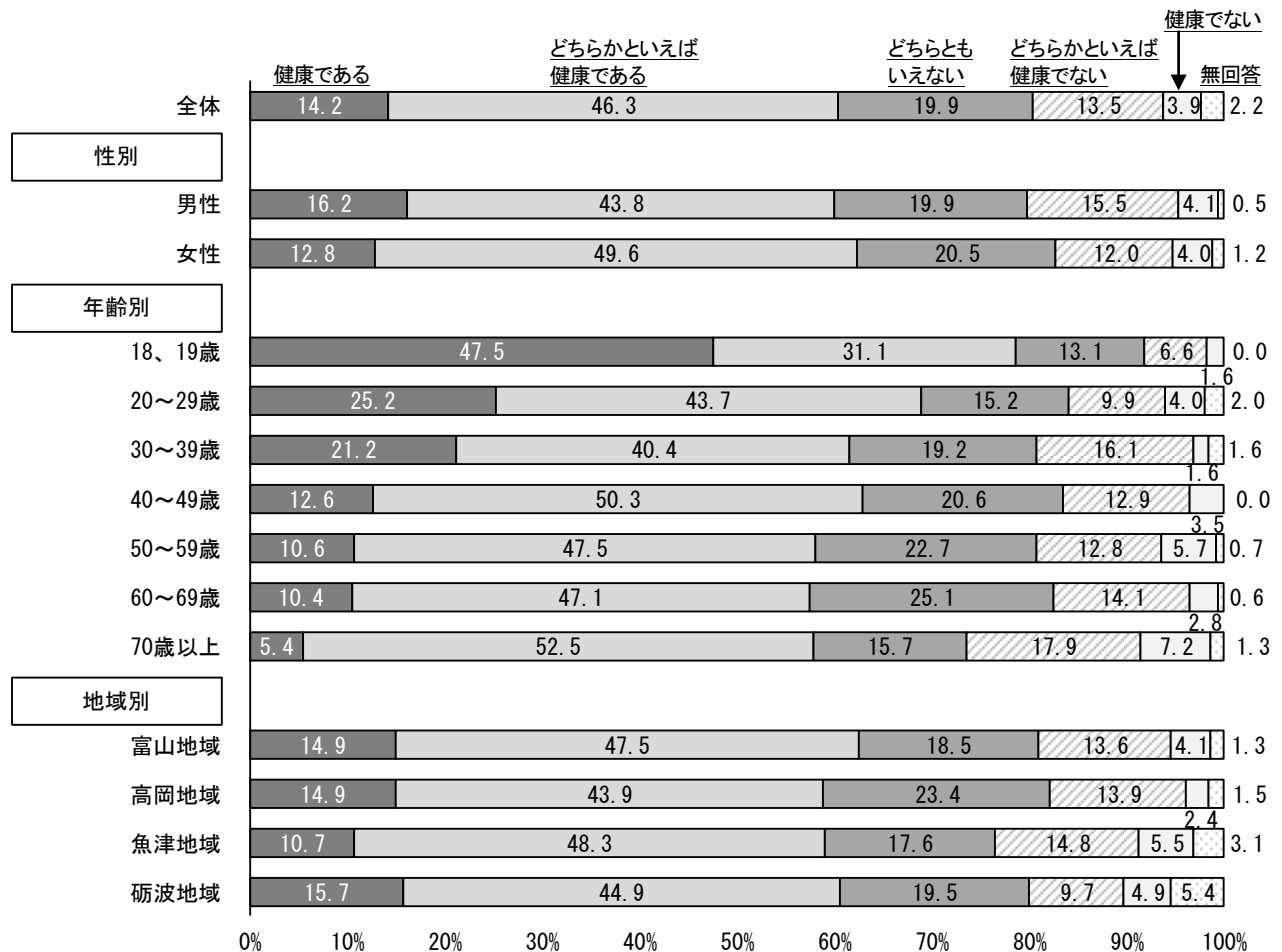


(4) あなたは、自分の今の健康状態をどのように感じていますか。次の中から1つを選んでください。

【 調査結果 】

- 全体としては、『健康』（「健康である」と「どちらかといえば健康である」を合算したもの）が60.5%、「どちらともいえない」が19.9%、『不健康』（「どちらかといえば健康でない」と「健康でない」を合算したもの）が17.4%となっている。
- 男女別では、ほぼ同様の傾向を示しているが、女性の方が『健康』がやや高くなっている。
- 年齢別にみると、「健康である」は年代が高くなるにつれ、低くなる傾向を示している。
- 地域別にみると、すべての地域で『健康』は概ね6割となっている。砺波地域では『不健康』が14.6%と他の地域と比べてやや低くなっている。

図表 54 現在の自分の健康状態

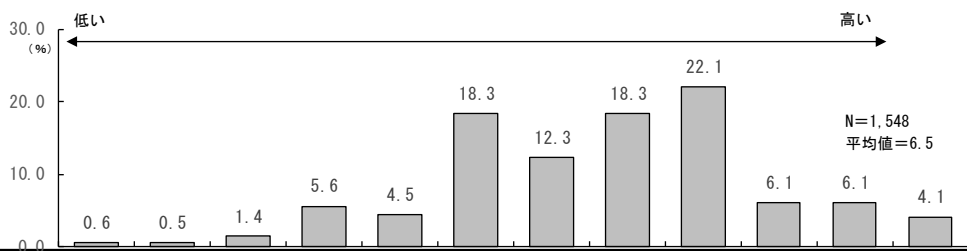


(5) 現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。次の中から数字を1つだけ選んでください。

**【 調査結果 】**

- 全体としては、「8点」が22.1%と最も高く、次いで「5点」、「7点」が18.3%、「6点」が12.3%の順となっており、平均値が6.5となっている。
- 男女別にみると、女性は「7点以上」が男性と比べて高くなっており、平均値で0.6ポイント高くなっている。
- 年齢別にみると、平均値では「70歳以上」が最も高くなっている。
- 地域別にみると、すべての地域で平均値がほぼ6.5点となっている。砺波地域では「8点」の割合が高くなっている。
- 職業別にみると、「主夫・主婦」、「自由業」の平均値が高くなっている。
- 家族構成別にみると、平均値では「夫婦のみ」が最も高く、「1人」が最も低くなっている。

図表 55 主観的幸福感



		0点	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	8点	9点	10点	無回答	平均値
性別	男性	0.7	0.8	2.0	7.6	5.4	19.3	13.0	18.1	21.8	4.7	4.2	2.4	6.2
	女性	0.5	0.3	0.9	4.0	3.7	17.9	12.0	19.1	22.9	7.6	8.1	3.1	6.8
年齢別	18、19歳	1.6	0.0	1.6	1.6	9.8	13.1	6.6	23.0	16.4	8.2	9.8	8.2	6.7
	20～29歳	0.0	0.7	2.0	9.3	6.6	21.9	15.2	13.2	19.9	5.3	4.0	2.0	6.1
	30～39歳	0.5	1.6	1.0	5.2	4.7	15.0	18.1	21.2	16.6	7.8	5.7	2.6	6.5
	40～49歳	0.0	0.3	2.4	5.9	4.5	22.0	12.9	19.6	19.9	4.9	6.3	1.0	6.4
	50～59歳	1.1	0.7	1.8	8.9	4.6	19.1	12.1	16.0	22.7	6.4	4.6	2.1	6.3
	60～69歳	0.9	0.3	1.2	3.1	3.7	18.7	9.2	20.8	28.4	5.5	5.5	2.8	6.7
	70歳以上	0.4	0.0	0.0	4.5	2.7	16.1	12.1	17.5	24.7	7.2	9.9	4.9	6.9
地域別	富山地域	1.0	0.7	1.5	4.4	4.4	17.4	11.3	20.0	22.6	6.6	6.9	3.3	6.6
	高岡地域	0.2	0.4	1.5	5.2	5.4	20.6	12.8	19.0	18.8	5.2	6.1	4.8	6.4
	魚津地域	0.7	0.7	1.4	6.2	4.1	19.3	12.4	15.9	22.1	8.3	5.9	3.1	6.5
	砺波地域	0.0	0.0	1.1	9.7	2.2	14.6	14.1	15.1	28.6	3.8	3.8	7.0	6.5
職業別	農林漁業	0.0	0.0	4.8	9.5	9.5	23.8	23.8	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	6.4
	商工サービス業	0.0	0.0	5.6	7.4	27.8	14.8	9.3	14.8	14.8	3.7	0.0	1.9	6.4
	自由業	0.0	2.2	2.2	6.7	22.2	8.9	6.7	24.4	8.9	15.6	0.0	2.2	7.0
	管理職	0.0	0.0	4.6	1.9	14.8	16.7	19.4	28.7	5.6	7.4	0.0	0.9	6.9
	事務職	0.6	0.0	8.0	3.1	13.6	11.7	31.5	19.8	6.2	5.6	0.0	0.0	6.6
	技術職	0.0	2.9	6.4	6.4	21.8	17.1	16.8	17.9	4.6	3.9	0.0	2.1	6.2
	労務職	1.4	2.0	8.1	7.4	22.3	11.5	20.9	17.6	3.4	2.0	1.4	2.0	5.9
	パート・アルバイト	0.8	2.9	4.1	3.3	15.4	10.0	16.2	30.3	7.1	6.2	0.8	2.9	6.7
	学生	0.0	1.3	6.6	5.3	11.8	10.5	19.7	23.7	9.2	7.9	0.0	3.9	6.8
	主夫・主婦	0.0	0.7	2.2	4.3	15.1	7.9	18.7	28.8	6.5	12.9	0.0	2.9	7.2
	無職	0.5	0.0	7.0	2.8	24.7	10.7	16.3	19.5	4.7	6.5	1.9	5.6	6.3
家族構成別	1人	1.0	4.9	7.8	6.8	22.3	14.6	17.5	12.6	4.9	2.9	1.9	2.9	5.7
	夫婦のみ	0.0	0.9	4.3	3.1	12.6	10.2	20.6	27.4	8.9	8.0	0.6	3.4	7.0
	夫婦と子供または親と自分たち	0.5	1.4	5.6	5.6	17.6	13.7	18.1	23.0	5.9	6.4	0.3	1.8	6.5
	親と子供と孫	0.5	0.0	4.4	1.6	25.1	8.7	20.8	25.7	6.0	4.9	0.0	2.2	6.7
	その他	1.2	2.4	8.9	4.7	26.0	15.4	14.8	12.4	3.6	5.3	1.2	4.1	5.9

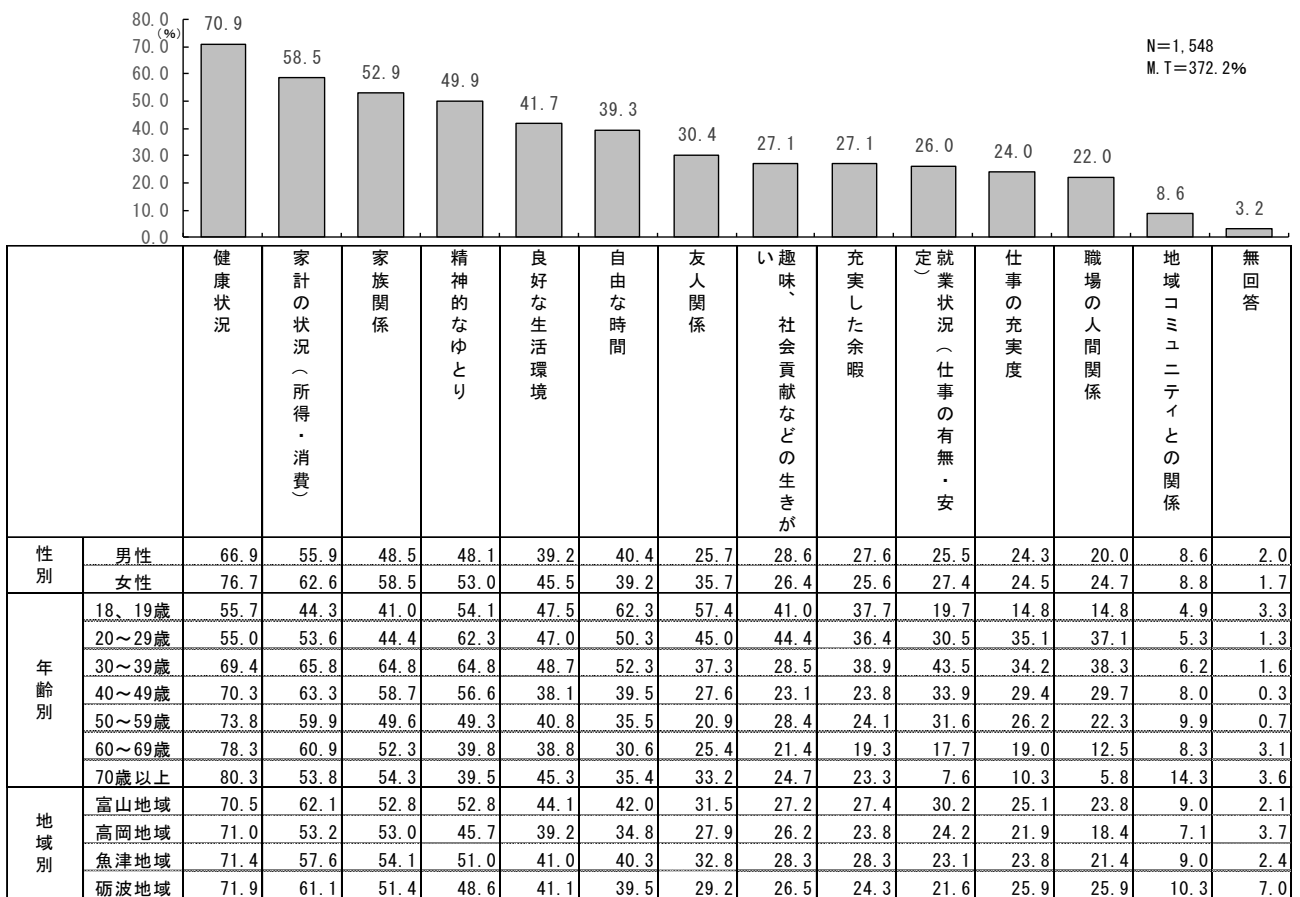


(6) あなたご自身の幸福感を判断する際に、重視するものは何ですか。次の中からいくつでも選んでください。

【調査結果】

- 全体としては、「健康状況」が70.9%と最も高く、次いで「家計の状況（所得・消費）」58.5%、「家族関係」52.9%の順となっている。
- 男女別にみると、「自由な時間」、「趣味、社会貢献などの生きがい」、「充実した余暇」を除くすべての項目で女性は男性と比べて高くなっている。
- 年齢別にみると、「18、19歳」は「自由な時間」、「20～29歳」は「精神的なゆとり」、「30歳以上」は「健康状況」が最も高くなっている。
- 地域別にみると、すべての地域で「健康状況」が最も高くなっている。また、上位5項目はすべての地域で同じになっている。

図表 56 幸福感について重視する判断基準

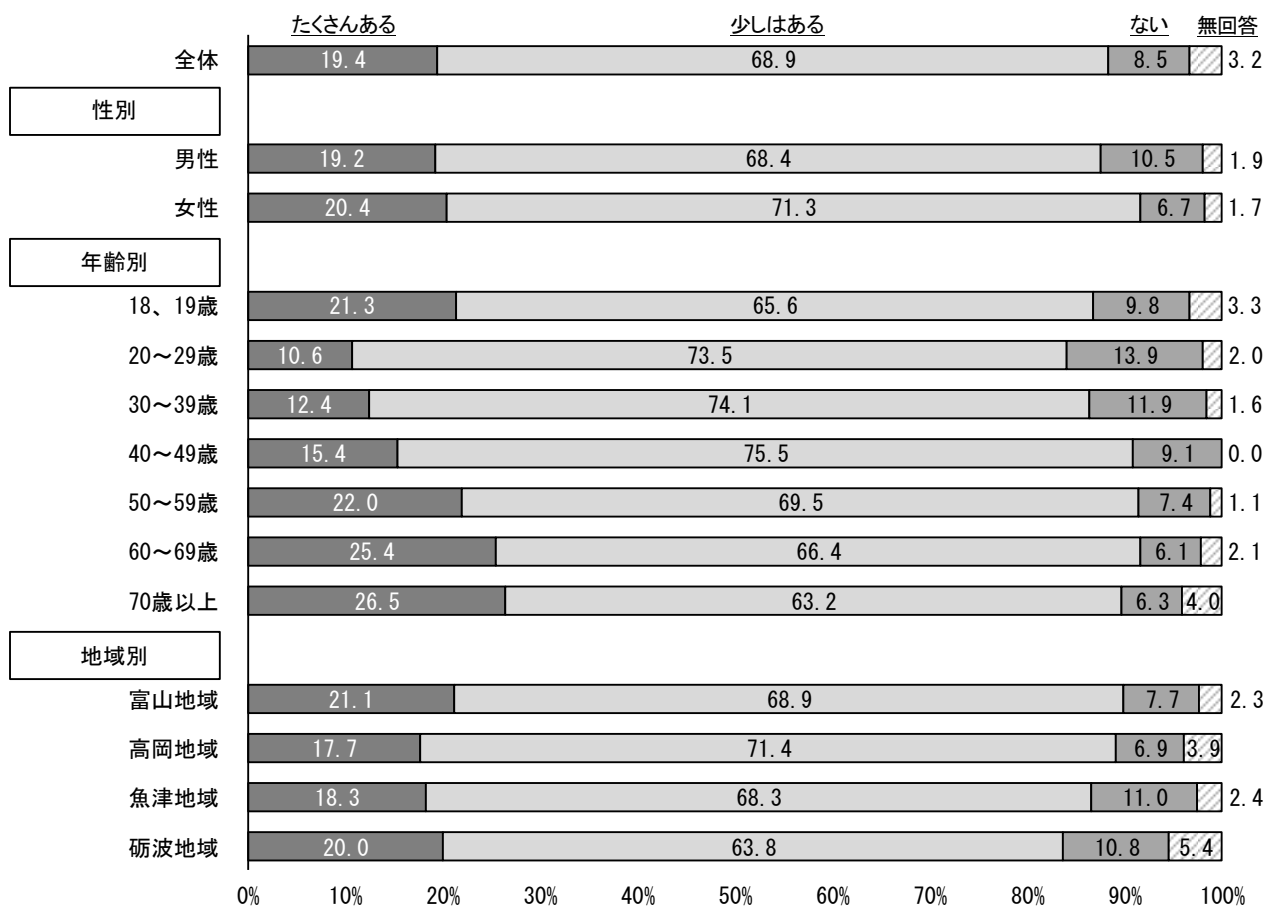


(7) 県内には、自然、歴史、文化、特産品など多くの魅力や地域資源がありますが、県外の知人、友人等に自信をもって紹介したり、奨めたりできるものがありますか。次の中から1つ選んでください。

【 調査結果 】

- 全体としては、『ある』（「たくさんある」と「少しはある」を合算したもの）が 88.3%となっている。
- 男女別にみると、女性は『ある』が男性と比べて高くなっている。
- 年齢別にみると、すべての年代で『ある』が 80%を超えている。このうち、「たくさんある」は 50 歳以上で 20%を超えており、「18、19 歳」も 21.3%で、平均値(19.4%)より高くなっている。
- 地域別では、ほぼ同様の傾向を示しているが、富山地域、砺波地域は「たくさんある」が 20.0%以上となっている。

図表 57 自信をもって紹介、推奨できる地域資源の有無

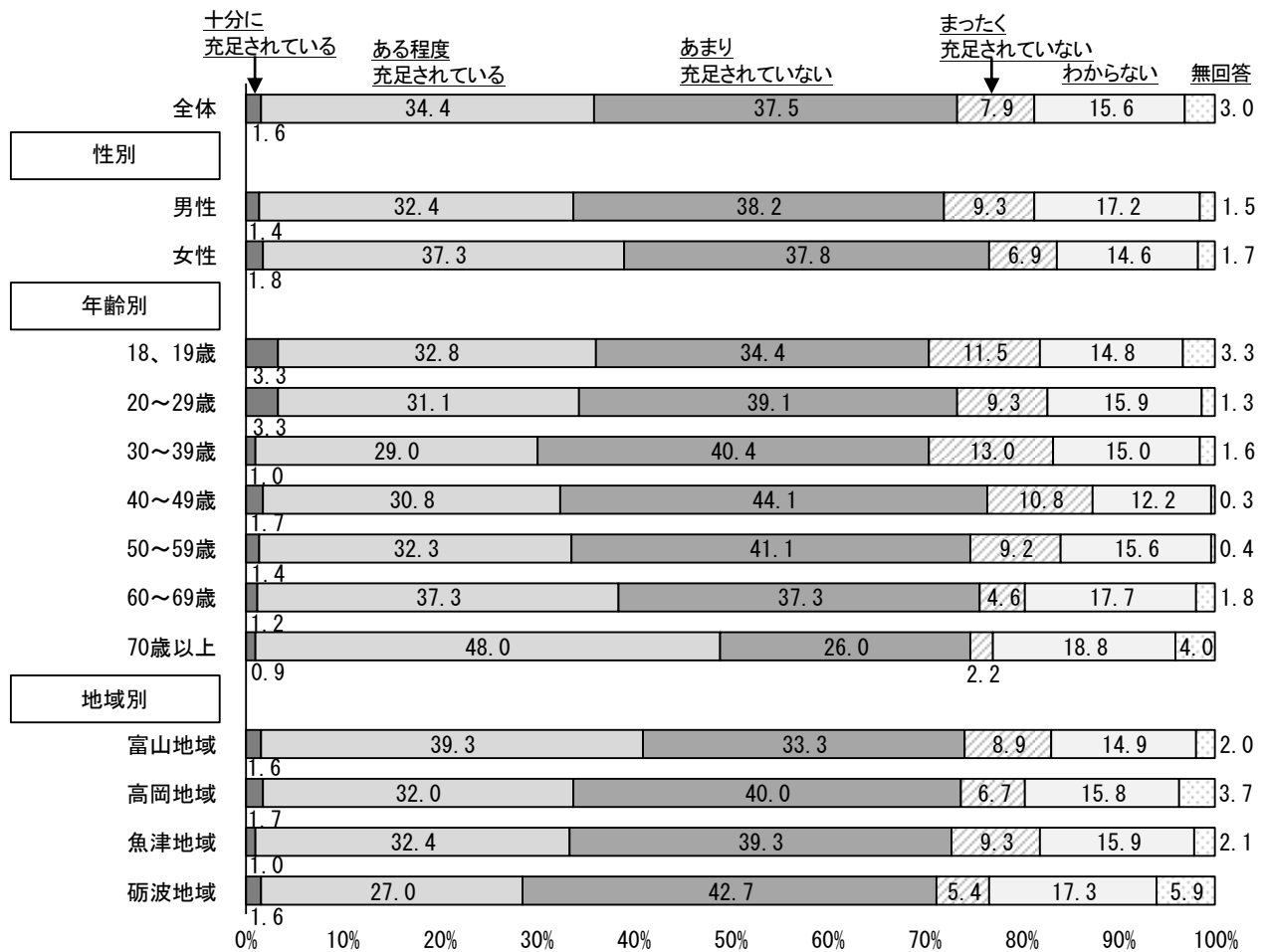


(8) あなたは、県内において、音楽や演劇、美術など芸術文化に親しむ機会が充足されていると思いますか。次の中から1つ選んでください。

【 調査結果 】

- 全体としては、『充足されている』（「十分に充足されている」と「ある程度充足されている」を合算したもの）が 36.0%、『充足されていない』（「あまり充足されていない」と「まったく充足されていない」を合算したもの）が 45.4%、「わからない」が 15.6%となっている。
- 男女別にみると、女性は『充足されている』が男性と比べて高くなっている。
- 年齢別にみると、『充足されている』は「70歳以上」が最も高くなっている。
- 地域別にみると、富山地域は『充足されている』が40%を超えており、他の地域と比べて高くなっている。

図表 58 県内で芸術文化に親しむ機会

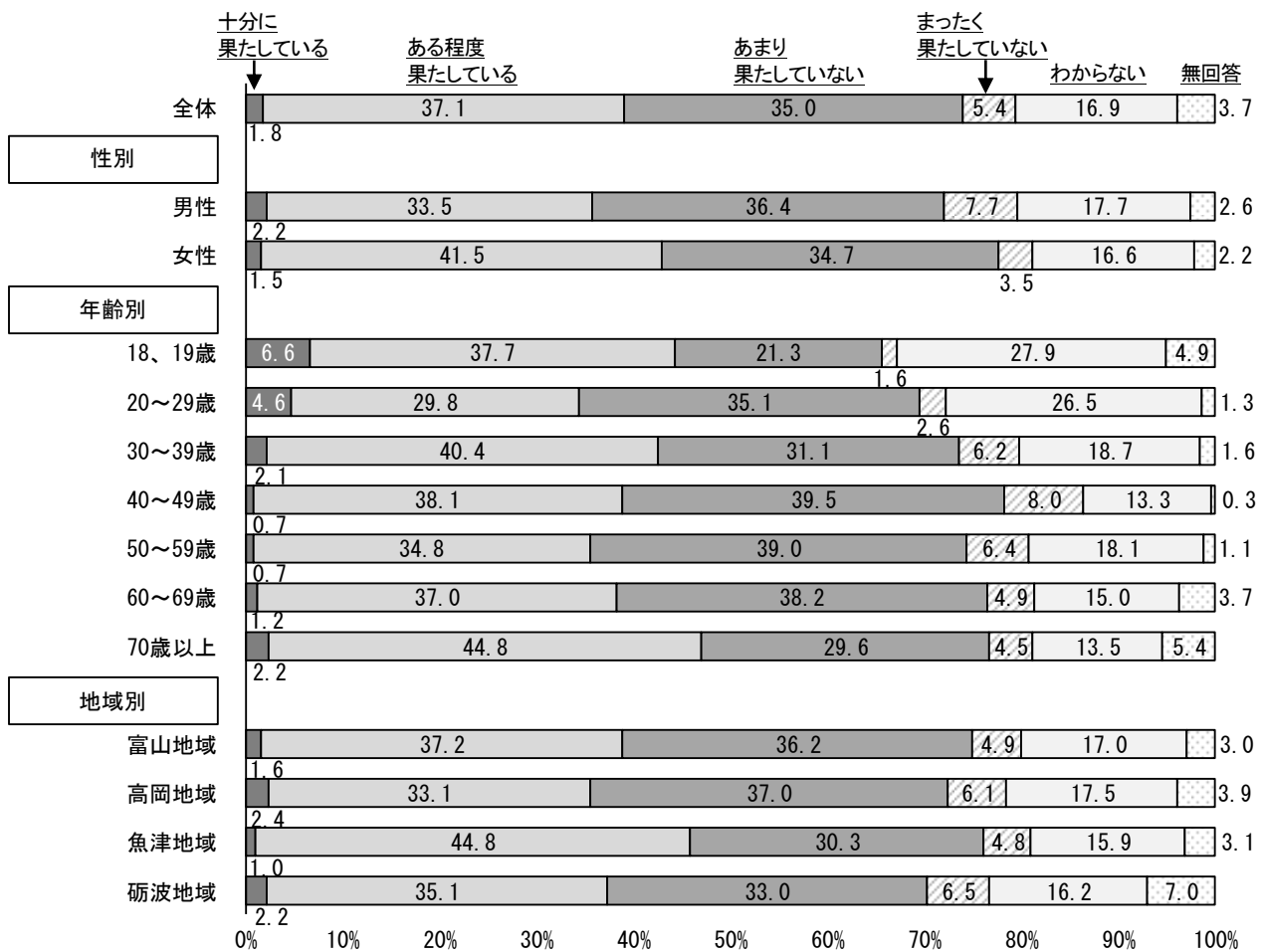


(9) 最近の家庭は、しつけや望ましい生活習慣づくりなど、子どもの教育において、役割を果たしていると思いますか。次の中から1つ選んでください。

【 調査結果 】

- 全体としては、『果たしている』（「十分に果たしている」と「ある程度果たしている」を合算したもの）が 38.9%、『果たしていない』（「あまり果たしていない」と「まったく果たしていない」を合算したもの）が 40.4%、「わからない」が 16.9%となっている。
- 男女別にみると、女性は『果たしている』が男性と比べて高くなっている。
- 年齢別にみると、「70 歳以上」は『果たしている』が他の年代に比べて、高くなっている。
- 地域別にみると、魚津地域は『果たしている』が 45.0%を超え、他の地域と比べて高くなっている。

図表 59 家庭が子どもの教育に果たす役割

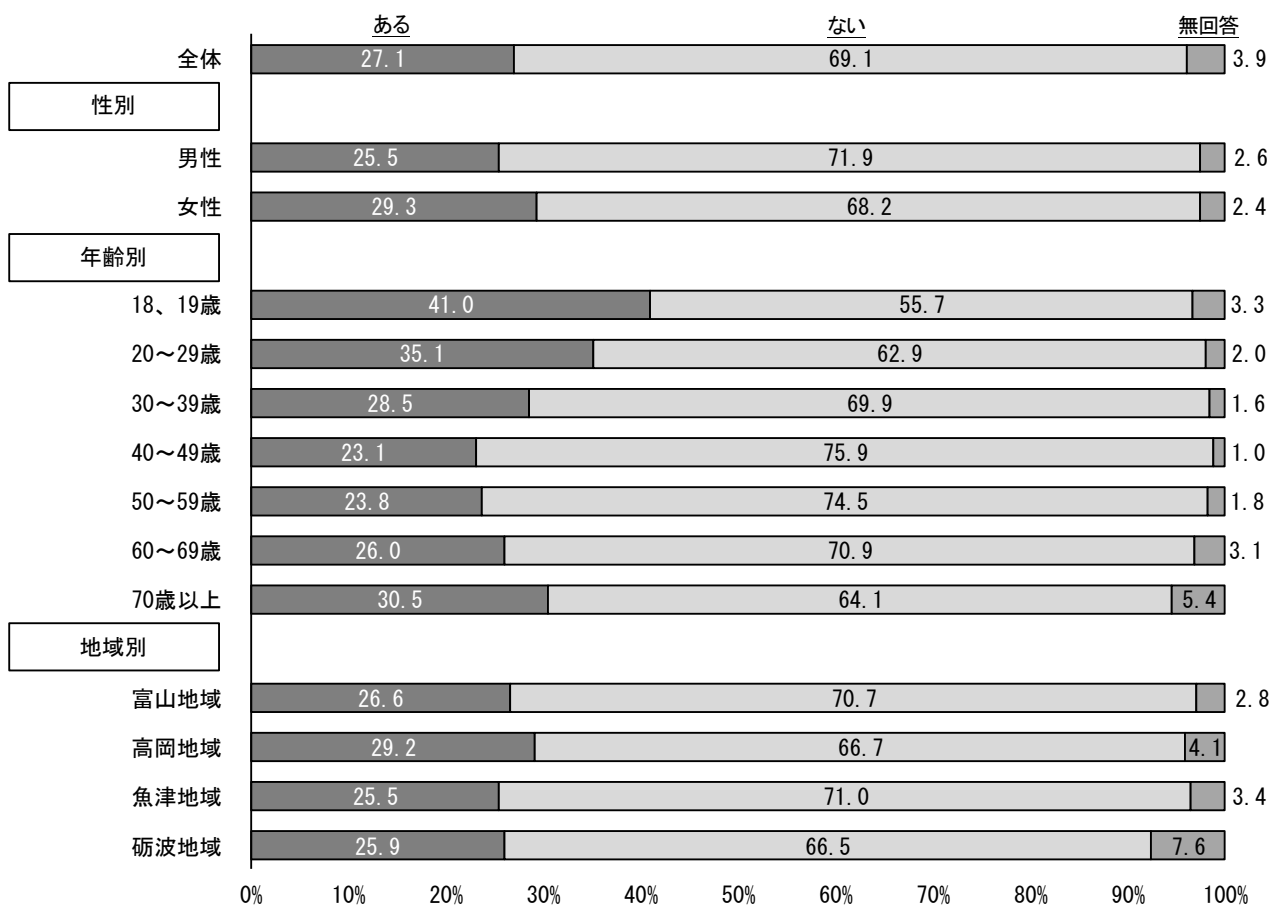


(10) あなたは、過去1年間に、生涯学習を行ったことがありますか。次の中から1つを選んでください。

【 調査結果 】

- 全体としては、「ある」が27.1%、「ない」が69.1%となっている。
- 男女別にみると、女性は「ある」が男性と比べて高くなっている。
- 年齢別にみると、「ある」は「18、19歳」、「20～29歳」、「70歳以上」で3割を超えている。
- 地域別にみると、高岡地域は「ある」が29.2%と県全体平均を上回っている。

図表 60 過去1年間の生涯学習の実施状況



(11) あなたが住んでいる地域の活動に参加していますか。次の中から1つ選んでください。

【 調査結果 】

- 全体としては、『参加意向がある』（「積極的に参加している」、「ときどき参加している」、「参加していないが、今後は参加したい」を合算したもの）が 76.0%、「参加していないし、今後も参加したくない」が 20.5%となっている。
- 男女別では、ほぼ同様の傾向を示している。
- 年齢別にみると、「20～29 歳」は『参加意向がある』が他の年代と比べて低くなっている。
- 地域別にみると、『参加意向がある』は砺波地域が最も高くなっている。

図表 61 地域活動への参加状況

